

はじめに

今日の地域社会は、少子化・高齢化や単身世帯の増加、非正規労働者の増加などを背景として、自分の力だけで日常生活を営むことが困難な人が増加し、支援を必要とする人の生活課題の多様化、複雑化が進んでいます。

また、地域住民のつながりの希薄化が進み、地域における支え合いの機能が低下しつつある中、社会的な孤立が問題となってきています。

これら生活課題を解決していくには、制度や分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超え、地域住民や多様な主体が地域の生活課題を「我が事」とし受け止め、共に支え合い、世代や分野を超えて「丸ごと」つながり、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現に取り組む必要があります。

本市では、第六次大野市総合計画の基本目標の一つである「^{けんこう}健幸で自分らしく暮らせるまち」を実現するため、令和3年度から5年間を計画期間とする「第四次大野市地域福祉計画」を策定しました。

本計画は、高齢福祉部門の「高齢者福祉計画」「介護保険事業計画」、障がい福祉部門の「障害者計画」「障害福祉計画」「障害児福祉計画」、児童福祉部門の「子ども・子育て支援事業計画」の上位計画として、これらの計画に基づく施策を推進する上での共通する理念と地域福祉を進めるための基本的な方向を示しています。

また、地域を基盤とする支援体制などを一体的に活用し、自殺対策を包括的かつ効果的に推進するため、「大野市自殺対策計画」を一体的に策定しています。

本市におきましては、人と人とのつながりを大切に、お互いが助け合う昔ながらの「結の心」が息づいていますが、地域のつながりが弱体化しつつあります。

「^{けんこう}健幸で自分らしく暮らせるまち」の実現に向けて、今後も市民の皆さまとともに、各種施策に取り組んでまいりますので、なお一層の御支援と御協力をお願いいたします。

結びに、この計画の策定に当たり、アンケート調査に御協力いただきました市民の皆さま、計画策定委員会の委員の皆さまをはじめ、貴重な御意見をいただきました皆さまに厚くお礼を申し上げます。

大野市長

石山志保

目 次

第 1 部 総 論

第 1 章 計画の策定にあたって

1	地域福祉計画策定の趣旨	1
2	地域福祉計画の位置付け	2
(1)	法的位置付け	2
(2)	総合計画との関係	3
(3)	関連計画との関係	3
3	自殺対策計画の策定	3
4	計画の範囲および「地域」のとらえ方	4
5	計画期間	5
6	計画策定の体制	5
(1)	大野市地域福祉計画策定委員会の設置	5
(2)	庁内の関係部署連携	5
(3)	アンケート調査の実施	5

第 2 章 大野市の地域福祉をめぐる現況

1	人口・世帯状況等の推移	6
(1)	人口の推移	6
(2)	出生数・死亡数の推移	6
(3)	人口構成	7
(4)	高齢者世帯の状況	7
2	要介護高齢者・障がいのある人等の状況	8
(1)	要介護認定者の状況	8
(2)	障害者手帳所持者の状況	9
(3)	生活保護の状況	9
3	地域活動の状況	9
(1)	ボランティアの活動状況	9
(2)	NPO法人の活動状況	9
(3)	社会福祉協議会の活動状況	10
4	自殺者数	11
5	市民アンケート調査結果	11
(1)	回答者の基本属性	11
(2)	調査結果の概要	14
(3)	こころの健康についての市民アンケート調査結果	23

第 3 章 計画の理念と目標

1	基本理念	27
2	基本目標	27
3	自殺対策計画	27
4	施策体系	28

第2部 地域福祉計画

第1章 地域福祉サービスの基盤づくり

1 総合的な相談体制の充実	30
2 福祉サービス提供体制の充実	31
3 ボランティア・NPO活動の促進	31
4 地域包括ケアシステムの充実	32

第2章 福祉サービスを利用しやすい仕組みづくり

1 わかりやすい情報提供	33
2 苦情等への相談・対応の充実	33
3 福祉サービス利用者等の権利擁護	34

第3章 地域で助け合い、支え合う仕組みづくり

1 住民主体の結のまちづくり	35
2 心のバリアをなくす福祉教育の推進	36
3 みんなで支え合う地域づくり	36
(1) 元気高齢者による地域活動の促進	36
(2) 若者・子育て世代を応援する体制の整備	37
(3) 障害者差別の解消と虐待防止対策	38
(4) 生活困窮などで援助を必要とする人への支援	38

第4章 安全・安心でいきいき暮らせるまちづくり

1 快適に暮らせるまちづくり	39
(1) ユニバーサルデザインのまちづくり	39
(2) 集約型のまちづくり	39
(3) 健幸でいきいき暮らせるまち	39
2 暮らしの安全・安心	40
(1) 災害時の支援体制の整備	40
(2) 交通安全対策	41
(3) 消費者被害の防止対策	41
(4) 再犯防止の推進	42

第5章 計画の推進に向けて

1 計画の推進体制の整備	43
2 関係機関・団体等との連携	43
3 計画の評価	43

第3部 自殺対策計画

第1章 こころの健康を支え、いのちをまもる地域づくり

1 自殺予防に向けた啓発普及の推進	44
-------------------	----

2	自殺予防のための相談・支援の充実	44
3	世代の特性に応じた施策の推進	45

〈資料〉

	市民アンケート調査結果	1
	第四次大野市地域福祉計画の策定経過	23
	大野市地域福祉計画策定委員会設置要綱	24
	大野市地域福祉計画策定委員会委員名簿	25

第 1 部 総 論

第 1 章 計画の策定にあたって

1 地域福祉計画策定の趣旨

<地域福祉とは>

「福祉」というと、高齢者福祉や障がい者福祉、児童福祉など対象者ごとの福祉サービスを思い浮かべますが、「地域福祉」とは、法律や制度によるサービスを利用するだけでなく、すべての住民がお互いに人権を尊重し、地域で支え合い、助け合い、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域社会を、みんなで作っていく取り組みのことです。

私たちは、誰もが年を取り、子育てや不慮の事故、病気などで支援が必要となることも起きてきます。このように考えると、「福祉」は、ある特別な人たちだけを対象とするものではなく、誰もが「福祉」に関わって暮らしているといえます。

<計画策定の背景>

高齢化や単身世帯の増加、社会的孤立などの影響により、人々が暮らしていく中で、さまざまな分野の課題が絡み合い複雑化し、高齢の親とひきこもりの子が同居する「8050問題※1」をはじめ、介護保険制度や障がい者支援制度など単一の制度のみでは対応しきれない課題が増えてきています。

また、人口減少や少子化・高齢化の進行に伴い、要介護者など支援を必要とする人が増加する中、これまで地域で活動してきた担い手が減少し、住民のつながりが希薄化するなど、地域における支え合いの機能が低下してきており、地域福祉に対するニーズは複雑・多様化してきています。

<国の社会福祉制度改革>

国においては、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超え、地域住民などが地域の課題を「我が事」として共に支え合い、人や資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながり、住民一人一人の暮らしと生きがい、地域を共に作っていく「地域共生社会」の実現に向けた体制整備を進めています。

平成29年6月の社会福祉法の改正では、地域住民が主体的に地域生活課題を把握し解決を図ること、市町村において複合的な課題や制度の狭間の課題に対応できる包括的な支援体制の整備に努めることなどが定められました。

また、令和2年6月の改正では、「介護保険法」や「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」、「子ども・子育て支援法」、「生活困窮者自立支援法」などに基づく事業を、地域福祉の推進のために必要な環境を一体的かつ重層的に整備する事業として実施できることなどが定められました。

<SDGsとの関係>

本市の地域福祉を持続的に推進していくため、国際社会共通の目標である「持続可能な開発目標（SDGs※2）」が目指す「誰一人取り残さない」社会の実現を福祉の視点に取り入れ、地域力を生かし、社会的孤立や排除を防ぎ、支え合いの地域をつくることで、地域共生社会の実現を目指します。

<新しい生活様式に対応するため>

新型コロナウイルスの感染拡大は、地域福祉活動やボランティア活動、福祉サービスの提供体制などに大きな影響を及ぼしました。

市民の暮らしが「新しい生活様式」へ移行していくことに併せ、地域福祉活動も「新しい生活様式」に対応した新たな取り組みが求められています。

この計画は、以上のような社会環境の大きな変化や社会福祉にかかる制度改革を踏まえ、公的サービスなどの充実を図る一方、地域住民が主体となり、お互いに支え合い、つながり合える地域づくりを推進し、人と人とのつながりを大切にする「結の心」で支え合う地域づくりを目指し、新たな計画を策定するものです。

※1 8050問題

高齢の親が引きこもりの子どもと一緒に暮らし、経済面を含めて援助しているという状態に陥り、生活面や経済面で支援が必要になるという問題をいいます。

※2 SDGs

「SDGs（エスディージーズ）」とは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットで採択された2030年までに達成すべき国際目標で、すべての国が取り組むべき17の目標と169のターゲットが定められています。

2 地域福祉計画の位置付け

(1) 法的位置付け

地域福祉計画は、社会福祉法第107条に基づく市町村の計画で、本市における地域福祉を推進するための施策展開の基本となるものです。計画の内容は、地域のさまざまな福祉課題を明らかにし、その解決に向けた取り組みを、幅広い地域住民の参加を得ながら、福祉事業者、関係機関などと行政が協働し、推進していく上での指針となります。

「社会福祉法」より抜粋

（市町村地域福祉計画）

第107条 市町村は、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画（以下「市町村地域福祉計画」という。）を策定するよう努めるものとする。

1 地域における高齢者の福祉、障害者の福祉、児童の福祉その他の福祉に関し、共通して取り組むべき事項

2 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項

3 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項

4 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項

5 地域生活課題の解決に資する支援が包括的に提供される体制の整備に関する事項

2 市町村は、市町村地域福祉計画を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、地域住民等の意見を反映させるよう努めるとともに、その内容を公表するよう努めるものとする。

3 市町村は、定期的に、その策定した市町村地域福祉計画について、調査、分析及び評価を行うよう努めるとともに、必要があると認めるときは、当該市町村地域福祉計画を変更するものとする。

(2) 総合計画との関係

第六次大野市総合計画の基本目標の一つである「健幸で自分らしく暮らせるまち」を実現するための福祉の基本計画という性格を持ちます。

また、基本目標「未来を拓く大野っ子が健やかに育つまち」及び「みんなでつながり地域が生き生きと輝くまち」の関連する施策を推進するための考え方を示しています。

(3) 関連計画との関係

本計画は、「大野市高齢者福祉計画」「大野市介護保険事業計画」（計画期間：令和3～5年度）、「大野市障がい者計画」（計画期間：令和3～8年度）、「大野市障がい福祉計画」および「大野市障がい児福祉計画」（計画期間：令和3～5年度）、「大野市子ども・子育て支援事業計画」（現計画期間：令和2～6年度）の上位計画として位置づけ、これらの計画に基づく施策を推進する上での共通理念を示します。

「成年後見制度の利用の促進に関する法律」においては、成年後見制度※の利用の促進に関する施策についての基本的な計画を定めることが、また、「再犯の防止等の推進に関する法律」において、再犯の防止等に関する施策の推進に関する計画を、市町村が策定するよう努めることが規定されています。本計画において、成年後見制度の普及啓発や利用促進、再犯防止施策の推進に関する基本的な考え方や展開すべき施策を示しています。

その他、福祉分野における行政計画や他の関連計画、大野市社会福祉協議会の「地域福祉活動計画」との整合性・連携を図ります。

※ 成年後見制度

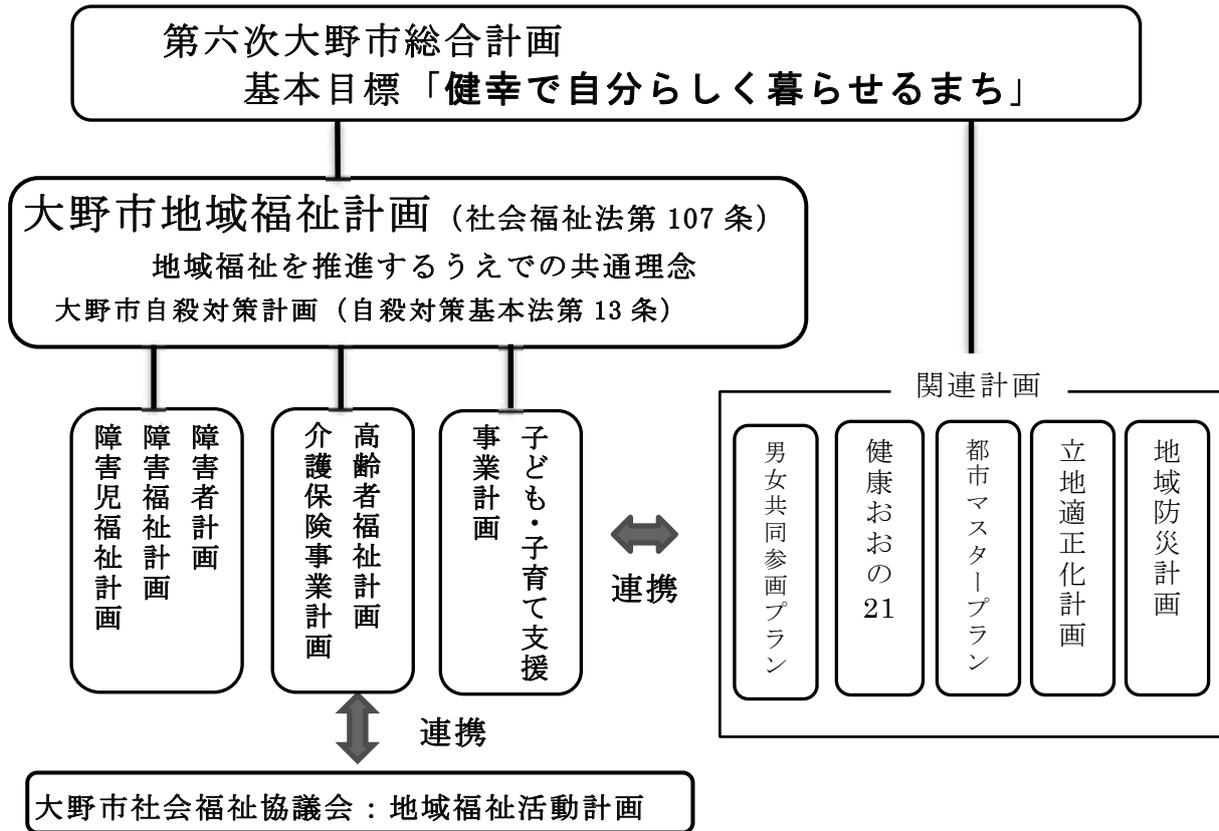
判断能力が十分でない成年者（知的障がい、精神障がい、認知症など）が、財産管理（資産や年金、貯金などの管理）や身上監護（契約締結・費用支払い、施設や介護の選択）についての契約・遺産分割などの法的行為を行うのが困難な場合などに、それらの人びとの権利を守るための制度です。

3 自殺対策計画の策定

平成28年3月に改正された自殺対策基本法において、市町村における自殺対策計画策定が義務づけられました。

本市においても、地域を基盤とする支援体制などを一体的に活用し、自殺対策を包括的かつ効果的に推進するため、自殺対策基本法第13条に基づく市町村自殺対策計画として、「自殺総合対策大綱」および「福井県自殺対策計画」との整合性を図り、第四次大野市地域福祉計画と一体的に「大野市自殺対策計画」を策定します。

* 地域福祉計画の位置づけ *



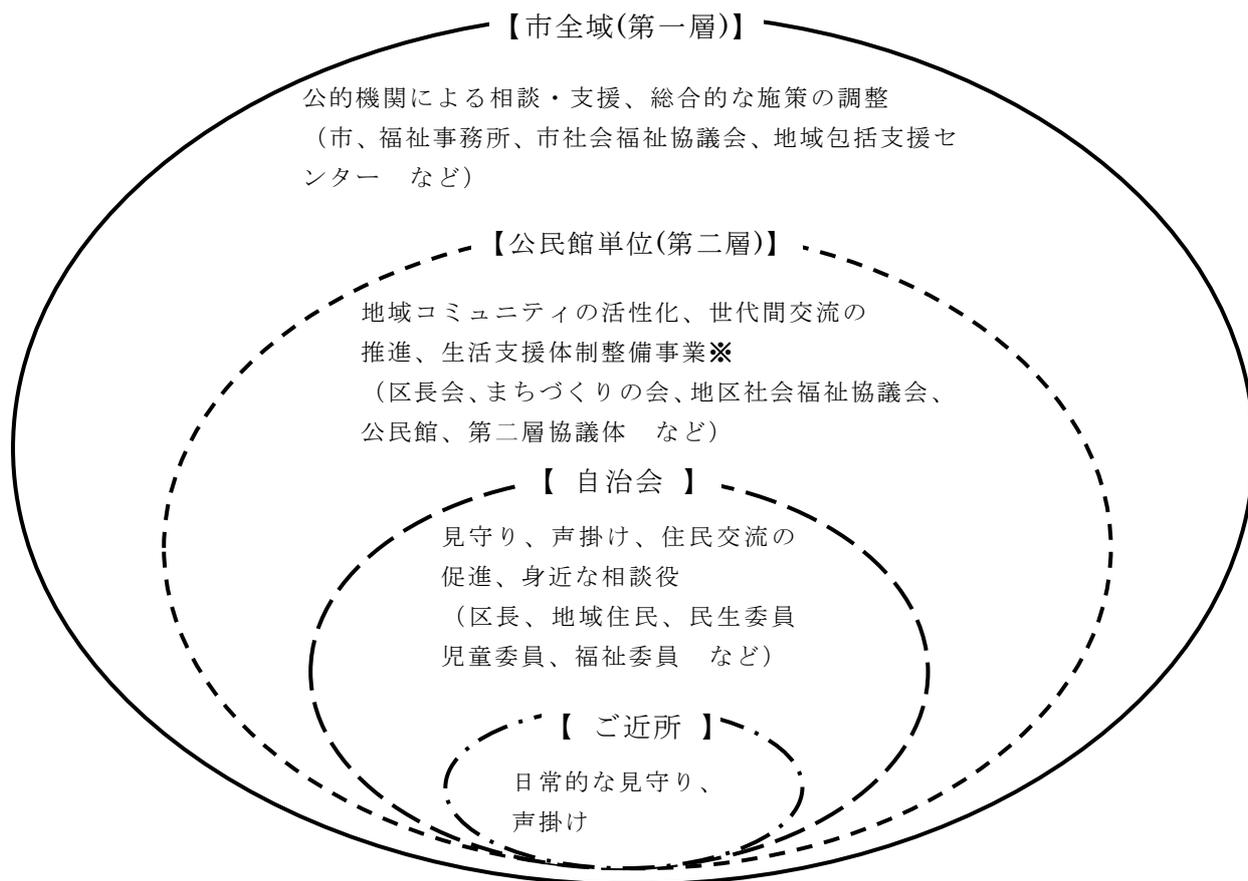
4 計画の範囲および「地域」のとらえ方

本計画における地域福祉を推進する対象地域は、大野市全域とします。

地域における生活課題や福祉ニーズを的確に把握し、きめ細かに対応していくには、一定の範囲の「地域」の設定が必要になります。

地域福祉を推進していく上では、身近な生活の範囲である公民館単位の区域を基本としますが、「公民館単位」の地域ですべての地域課題を解決することは困難であり、地域は図のとおり、「ご近所」、「自治会」、「公民館単位(第二層)」、「市全域(第一層)」におおむね区分します。

地域課題の解決にあたっては、課題の内容や質に応じて重層的に取り組むことが求められ、実施する施策や活動内容により、柔軟に取り組んでいきます。



※ 生活支援体制整備事業

市町村が定める地域ごとに生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）と協議体を設置し、地域住民の「互助」による助け合い活動を推進することで、地域全体で高齢者の生活を支える体制づくりを進める事業です。協議体には市全体（第一層）で設置するものや、公民館単位（第二層）ごとに設置するものがあり、それぞれ第一層協議体、第二層協議体と呼ばれます。

5 計画期間

本計画は、令和3年度から令和7年度の5カ年を計画期間とします。なお、本計画は、平成28年3月に策定した第三次大野市地域福祉計画の見直しを行うものです。

福祉部門のそれぞれの下位計画の見直しは、必要に応じて行うものとします。

6 計画策定の体制

(1) 大野市地域福祉計画策定委員会の設置

専門的な検討として、学識経験者や関係機関・団体の代表、公募市民などからなる「大野市地域福祉計画策定委員会」を設置し、計画内容の検討を進めました。

(2) 庁内の関係部署連携

福祉や保健、医療、都市整備などの地域福祉に関わる関係部署と計画内容の検討や施策の調整を行いました。

(3) アンケート調査の実施

本計画の策定にあたっては、市民の意見を反映するためアンケート調査を実施し、広く市民の地域福祉に関する意向の把握を行いました。

第2章 大野市の地域福祉をめぐる現況

1 人口・世帯状況等の推移

(1) 人口の推移

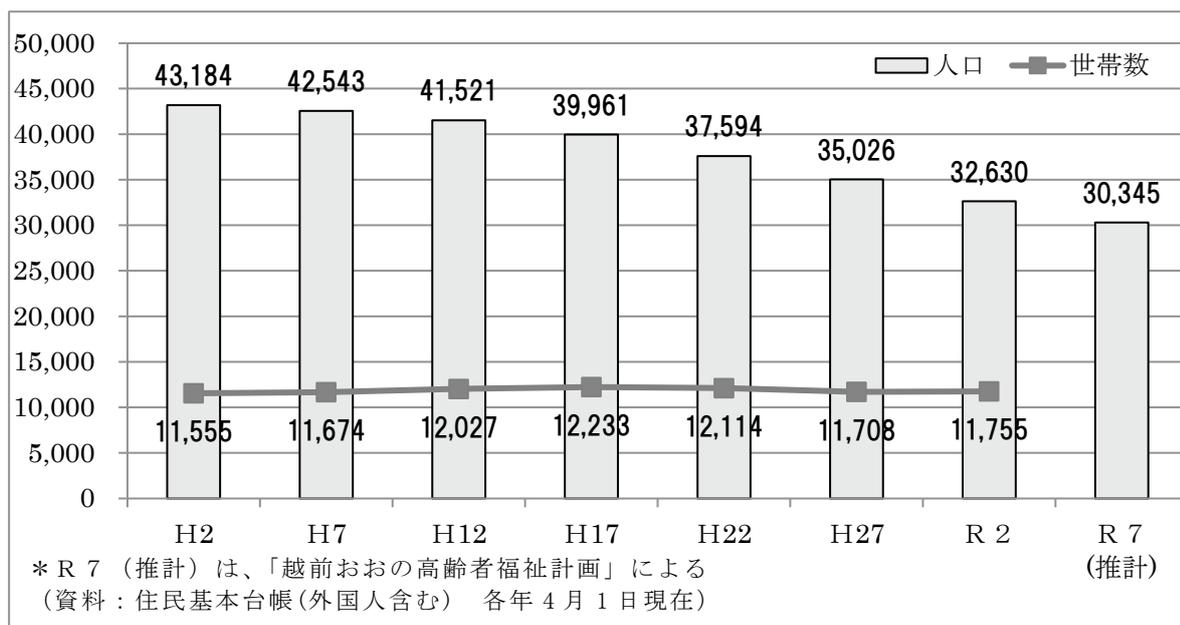
本市の総人口は、長期的に減少傾向で推移しており、令和2年の総人口は32,630人と、平成22年からの10年間で約5,000人減少しています。

今後も減少傾向で推移すると考えられます。

また、核家族化などにより増加傾向にあった世帯数は、近年は横ばいの傾向にあります。

(総人口・世帯数の推移)

(単位：人、世帯)

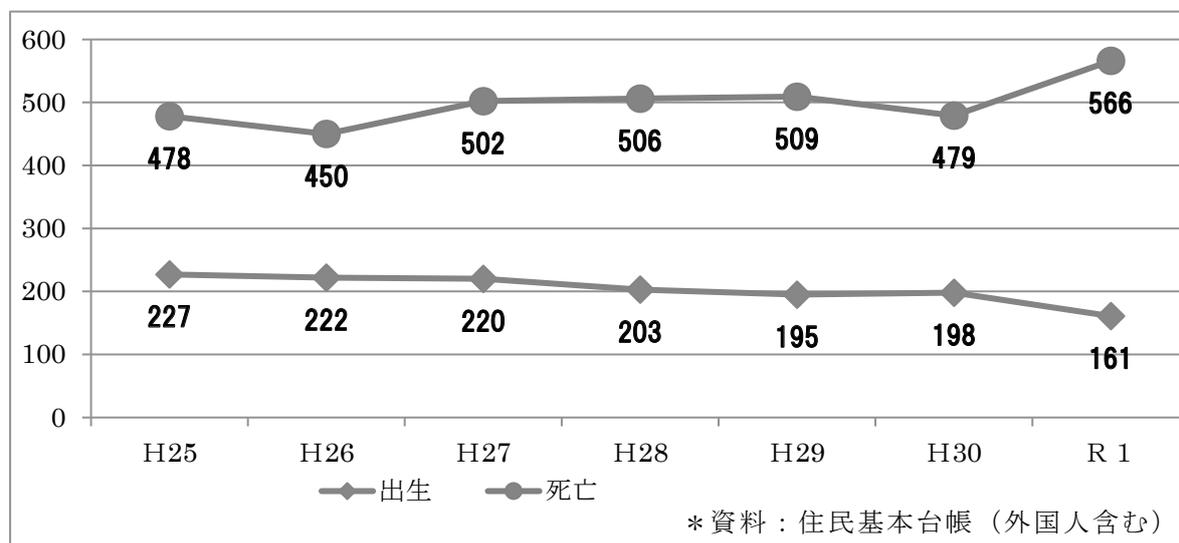


(2) 出生数・死亡数の推移

本市の出生数は、平成27年までは横ばいで推移し、平成28年以降徐々に減少してきており、令和元年の出生数は161人となっています。

(出生数と死亡数の推移)

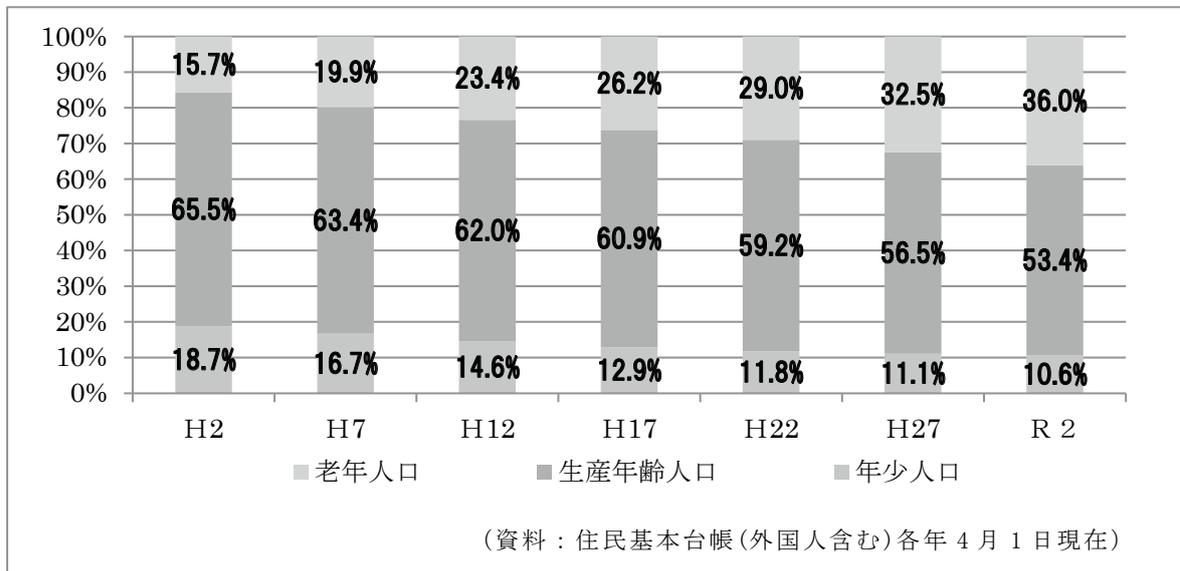
(単位：人)



(3) 人口構成

本市の階層別の人口構成比率は、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）はともに減少し、老年人口（65歳以上）は増加しており、令和2年の高齢化率は、36.0%になっています。今後も、少子化・高齢化がさらに進展すると見込まれます。

(階層別人口比率の推移)

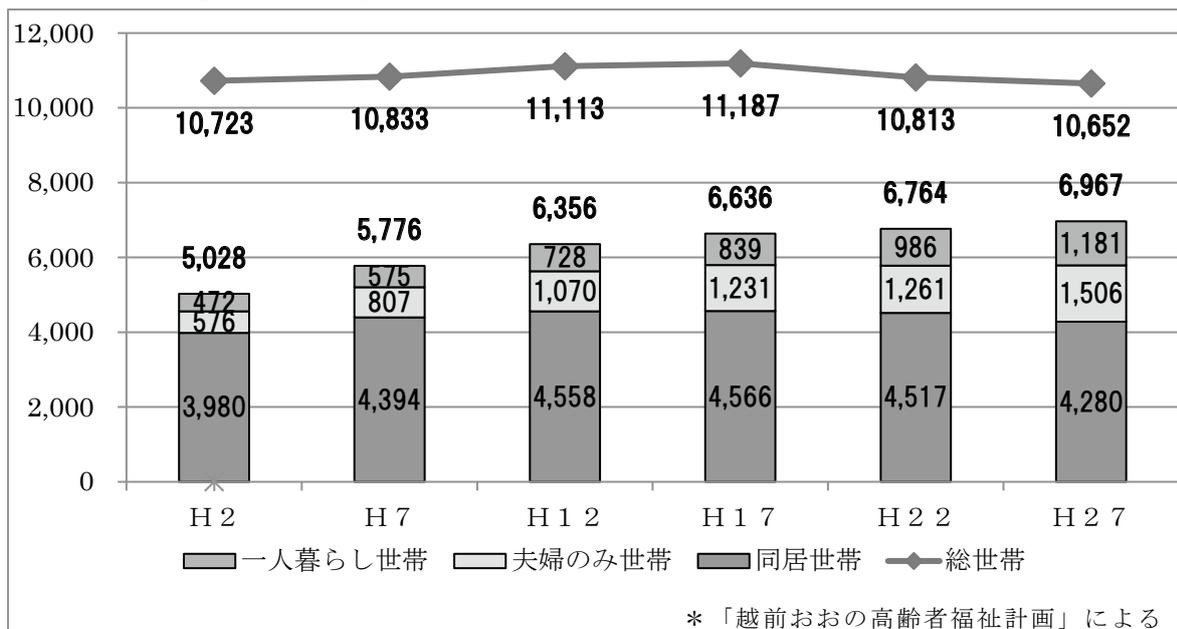


(4) 高齢者世帯の状況

本市の高齢者世帯数は、平成27年まで年々増加していますが、増加率は減少傾向にあります。平成27年の高齢者のいる世帯は、6,967世帯（総世帯に占める割合：65.4%）、内一人暮らし高齢者の世帯は、1,181世帯（総世帯に占める割合：11.1%）となっています。

(高齢者のいる世帯の推移)

(単位：世帯)



資料 平成2年～平成27年国勢調査（10月1日）、平成2年～平成17年は旧和泉村も含む

※1：施設などの入所者を除く

※2：65歳以上の親族がいる一般世帯（同居）

※3：65歳以上の一人暮らし老人世帯（一人暮らし）

※4：夫婦いずれか又は両方が65歳以上である世帯（夫婦のみ）

2 要介護高齢者・障がいのある人等の状況

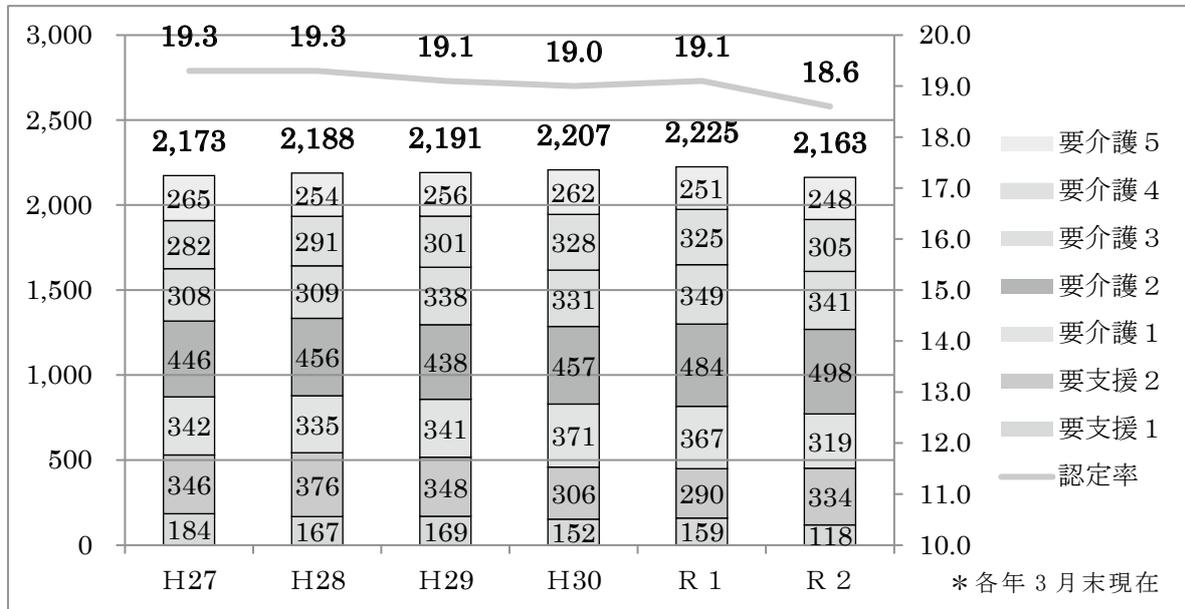
(1) 要介護認定者の状況

要介護認定者数は年々増加していましたが、令和2年3月末の要介護認定者数は2,163人で、前年度から3%減少しています。

高齢者人口に対する要介護認定率は、平成27年3月末以降横ばいで推移していましたが、令和2年度は18.6%と減少しています。

(要介護認定者等の推移)

(単位：人、%)



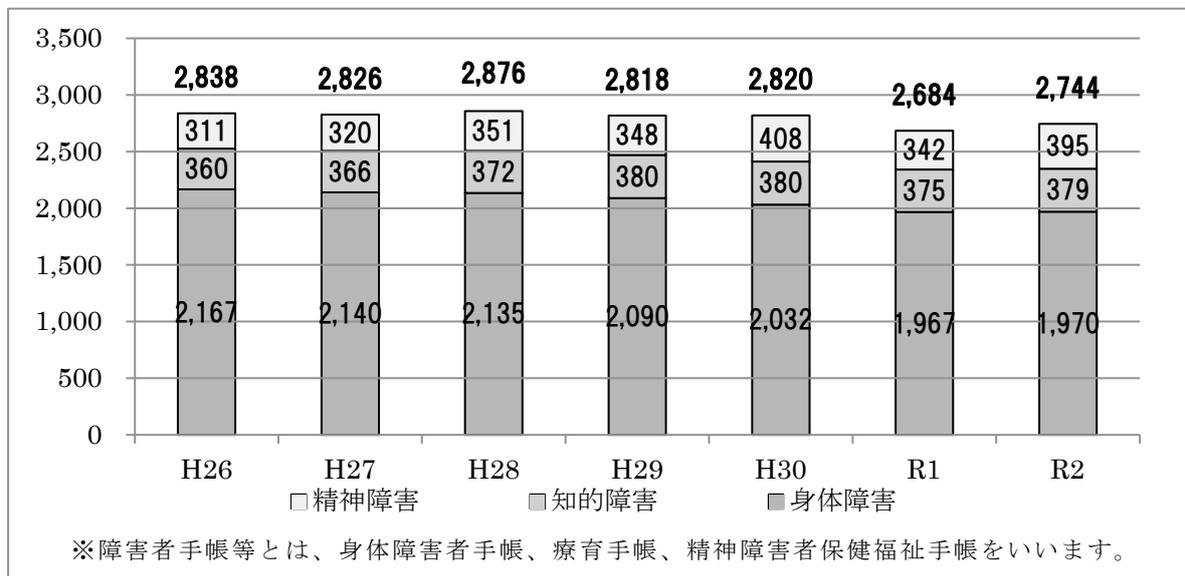
(2) 障害者手帳所持者の状況

令和2年4月1日現在、本市の障害者手帳の所持者数は2,744人で、人口に占める割合は、8.41%です。内訳は身体障がい者が1,970人、知的障がい者が379人、精神障がい者が395人となっています。

身体障害者手帳の所持者は減少していますが、療育手帳の所持者は横ばいで推移しています。精神障害者保健福祉手帳の所持者は、令和元年に減少しましたが、増加傾向にあります。

(障害者手帳所持者数の推移)

(単位：人)

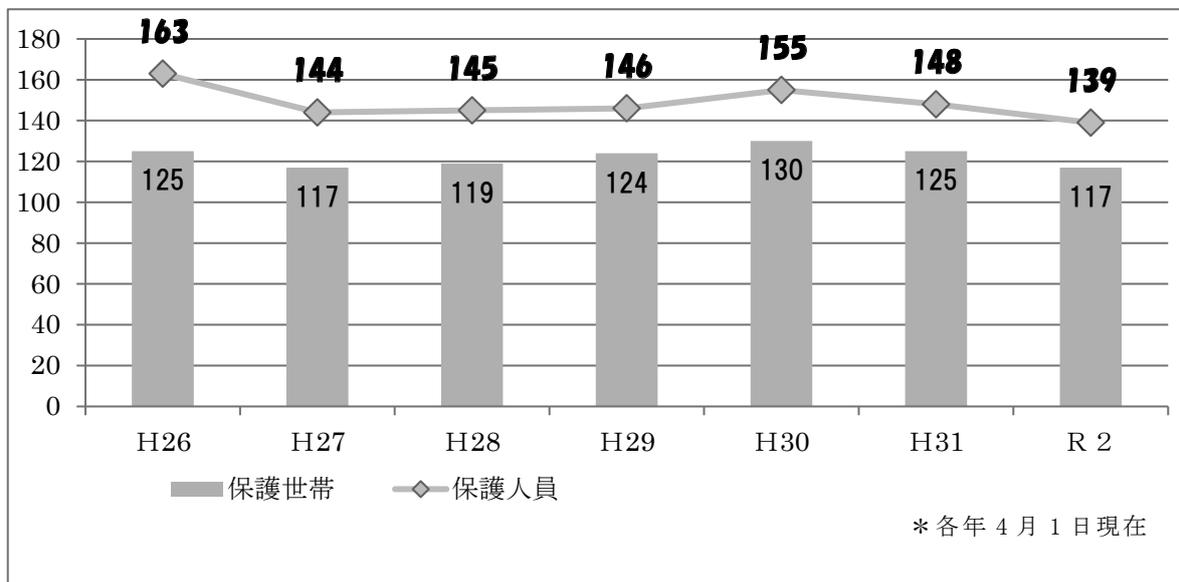


(3) 生活保護の状況

本市の生活保護人員は年々増加傾向にありましたが、平成26年から、保護世帯数および保護人員は横ばいで推移しています。

(保護世帯数・保護人員の推移)

(単位：人、世帯)



3 地域活動の状況

(1) ボランティアの活動状況

大野市社会福祉協議会ボランティアセンターの登録者数は、個人活動とグループ活動を合計して、令和元年度末は4,351人となっています。

ボランティア登録者数および団体数は、平成26年度から横ばいで推移しています。

また、センターの登録者のほかにも、各学校や事業所、地域などで、福祉ボランティア活動に参加する個人や団体があります。

ボランティア活動者数（大野市社会福祉協議会ボランティアセンターの登録者数）

年度	個人	グループ		計
平成26年度末	884人	52団体	3,484人	4,368人
平成27年度末	929人	52団体	3,518人	4,447人
平成28年度末	975人	50団体	3,466人	4,441人
平成29年度末	904人	50団体	3,458人	4,362人
平成30年度末	957人	53団体	3,441人	4,398人
令和元年度末	908人	55団体	3,443人	4,351人

(2) NPO法人の活動状況

令和2年12月末現在、本市には、NPO法人（特定非営利活動法人）が13法人ありますが、そのうち、4法人が福祉関係の法人で、介護保険事業や障害福祉サービス事業、子育て支援事業、福祉に関する啓発普及事業など、それぞれ、特色ある活動を行っています。

(大野市内の福祉関係のNPO法人の状況)

(令和2年12月末現在)

法人名称	事業内容・目的	設立年月日
福祉ワーキンググループ大野	在宅介護事業（介護・障がい） 福祉に関する普及啓発事業	平成14年5月2日
子育て交流広場ちっく・たっく	子育てに関する支援 情報提供事業	平成17年3月30日
和が家	介護保険事業、介護予防事業、 障害者自立支援事業	平成17年12月8日
やまびこ	障がい者に対する相談・助言・移 動支援・環境整備事業	平成18年1月16日

(3) 社会福祉協議会の活動状況

大野市社会福祉協議会では、協議会の活動計画である「大野市地域福祉活動計画」に沿って、市社会福祉協議会理事会、各地区社会福祉協議会および各地区福祉委員会で定期的に会議を開催しながら、さまざまな地域福祉の推進に関する活動を展開しています。

(大野市社会福祉協議会の実施する地域福祉の推進に関する活動)

地域福祉を推進する事業	地域福祉活動推進事業	①地区社協活動支援および連携 ②福祉委員会活動支援および連携
	地域福祉イベント事業	①福祉ふれあいまつりの開催 ②市社会福祉大会の開催
	福祉の輪づくり推進事業	①地域ぐるみ福祉教育推進事業 ②つながりの輪づくり推進支援事業
	生活支援体制整備事業（第一層、第二層）	
高齢者およびその家族等を支援する事業	ひとり暮らし高齢者等配食サービス事業	
	ひとり暮らし高齢者のつどい事業	
	在宅介護支援センター事業	
	和泉在宅介護支援センター事業	
	家族介護教室事業	
	高齢者ふれあいサロン事業	
	お出かけほっとサロン事業	
ボランティア活動及び障がい者を支援する事業	高齢者巡回ホームヘルパー派遣事業	
	ボランティア活動推進事業	
	災害ボランティア活動推進事業	
	障害者社会参加支援事業	
共同募金運動に関する事業	障害者相談支援事業	
	共同募金配分金事業	
その他の生活支援に関する事業	日常生活自立支援事業	
	法人後見事業	
	福祉資金貸付事業	

4 自殺者数

全国の自殺者数は減少傾向にありますが、本市の自殺者数は10人未満で推移しています。

(自殺者数の推移)

(単位：人)

	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1
全国	25,218	23,806	21,703	21,127	20,668	20,169
福井県	139	113	137	124	119	113
大野市	4	5	8	4	3	5

5 市民アンケート調査結果

本計画の策定にあたり、市民の方の意見を反映させるため、アンケート調査を実施しました。

【調査の対象】 市内在住の15歳以上の方の中から、無作為抽出した1,000名の方を対象としました。(年代ごとの抽出率は同率としました)

【調査方法】 郵送配布・郵送回収

【調査機関】 令和2年2月25日～3月19日

【調査項目】 設問数：42問

- ・ 家族等の状況について
- ・ 日常生活について
- ・ 支え合い、助け合いについて
- ・ 地域活動について
- ・ 住民相互の協力関係について
- ・ ボランティア活動について
- ・ 福祉サービスについて
- ・ こころの健康について
- ・ 地域福祉のあり方について

【回収の状況】 今回の調査の回収率は48.1%でした。

配布数	回収数	回収率	有効回答数
1,000	481	48.1%	479

(1) 回答者の基本属性

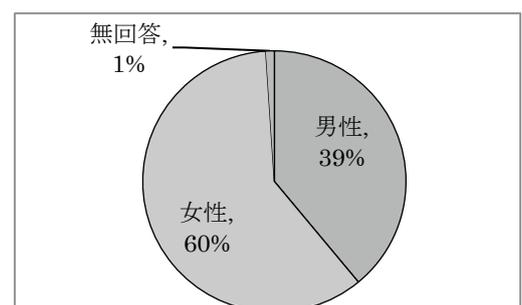
回答者の基本属性は次のとおりです。

注) 以下の調査において百分率は小数点第1位を四捨五入して示しています。そのため、単一回答(回答がひとつだけのもの)の回答比率の合計が100%にならない場合があります。

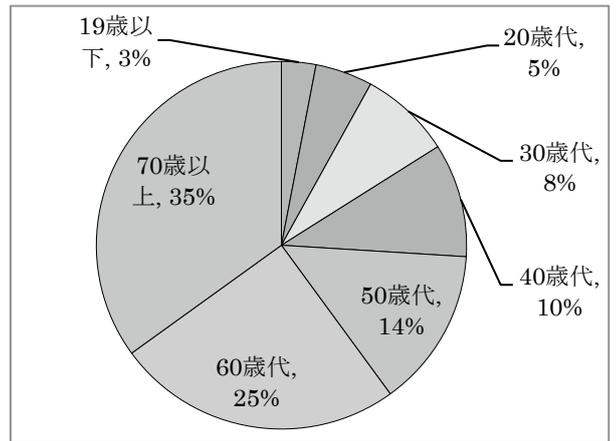
複数回答の設問については、回答の合計数が有効回答数を上回る場合があります。

比率は、その設問の回答者総数、あるいは分類別の回答者数を基礎として算出しており、複数回答(2つ以上の回答が認められるもの)の設問の場合、回答比率の合計が100%を超える場合があります。

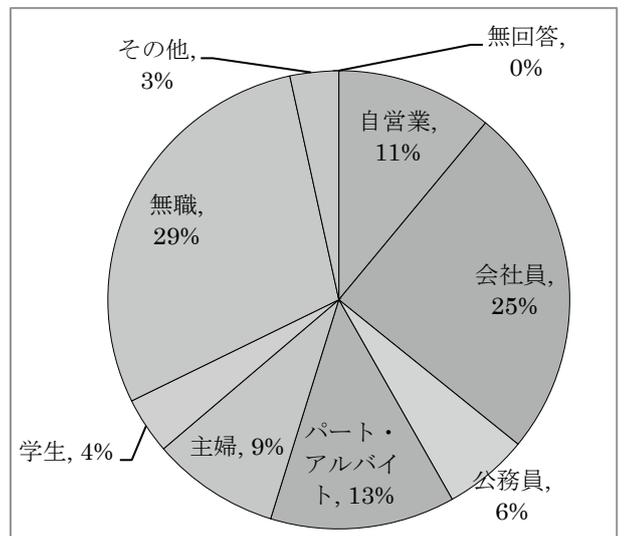
(性別)	回答数	構成比
男性	185	39%
女性	289	60%
無回答	5	1%
計	479	100%



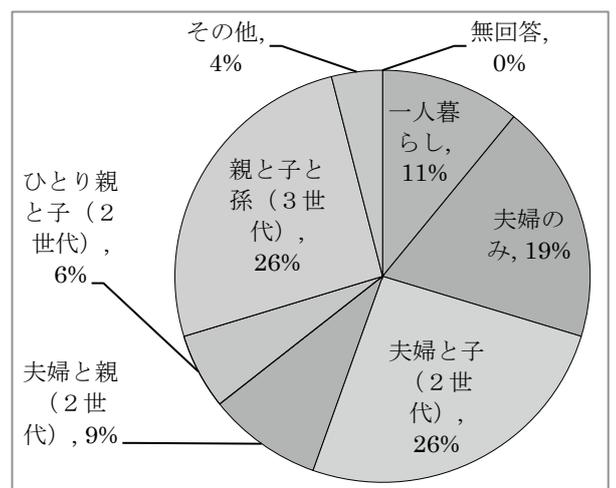
(年齢)	回答数	構成比
19歳以下	15	3%
20歳代	25	5%
30歳代	37	8%
40歳代	48	10%
50歳代	66	14%
60歳代	122	25%
70歳以上	166	35%
計	479	100%



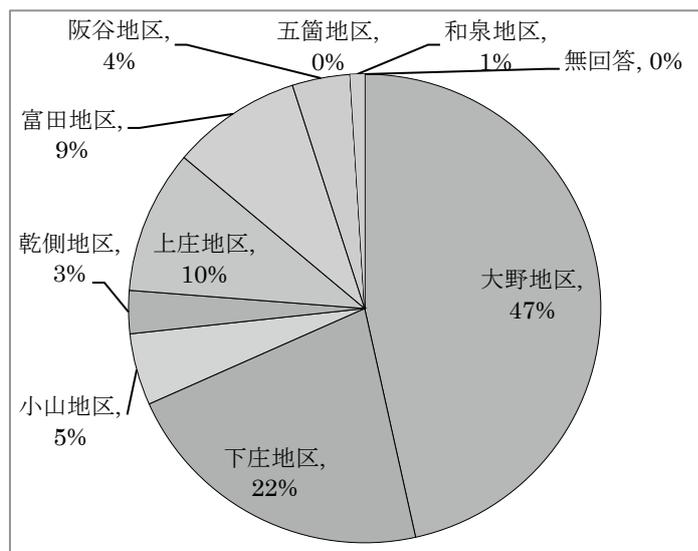
(職業)	回答数	構成比
自営業	53	11%
会社員	119	25%
公務員	31	6%
パート・アルバイト	64	13%
主婦	44	9%
学生	17	4%
無職	137	29%
その他	12	3%
無回答	2	0%
計	479	100%



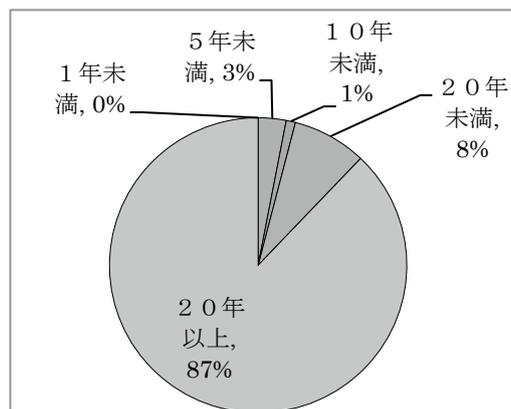
(家族構成)	回答数	構成比
一人暮らし	51	11%
夫婦のみ	90	19%
夫婦と子 (2世代)	126	26%
夫婦と親 (2世代)	42	9%
ひとり親と子 (2世代)	27	6%
親と子と孫 (3世代)	125	26%
その他	17	4%
無回答	1	0%
計	479	100%



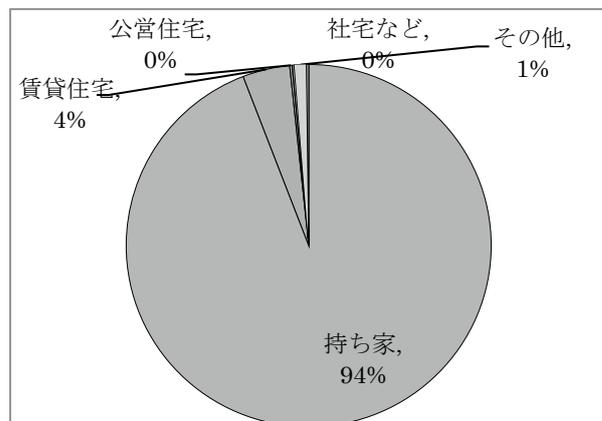
(住まいの地域)	回答数	構成比
大野地区	223	47%
下庄地区	104	22%
小山地区	26	5%
乾側地区	13	3%
上庄地区	46	10%
富田地区	43	9%
阪谷地区	17	4%
五箇地区	0	0%
和泉地区	6	1%
無回答	1	0%
計	479	100%



(居住年数)	回答数	構成比
1年未満	2	0%
1年以上～5年未満	13	3%
5年以上～10年未満	7	1%
10年以上20年未満	37	8%
20年以上	419	87%
無回答	1	0%
計	479	100%



(住居)	回答数	構成比
持ち家	451	94%
賃貸住宅	20	4%
公営住宅	1	0%
社宅など	1	0%
その他	5	1%
無回答	1	0%
計	479	100%



(2) 調査結果の概要

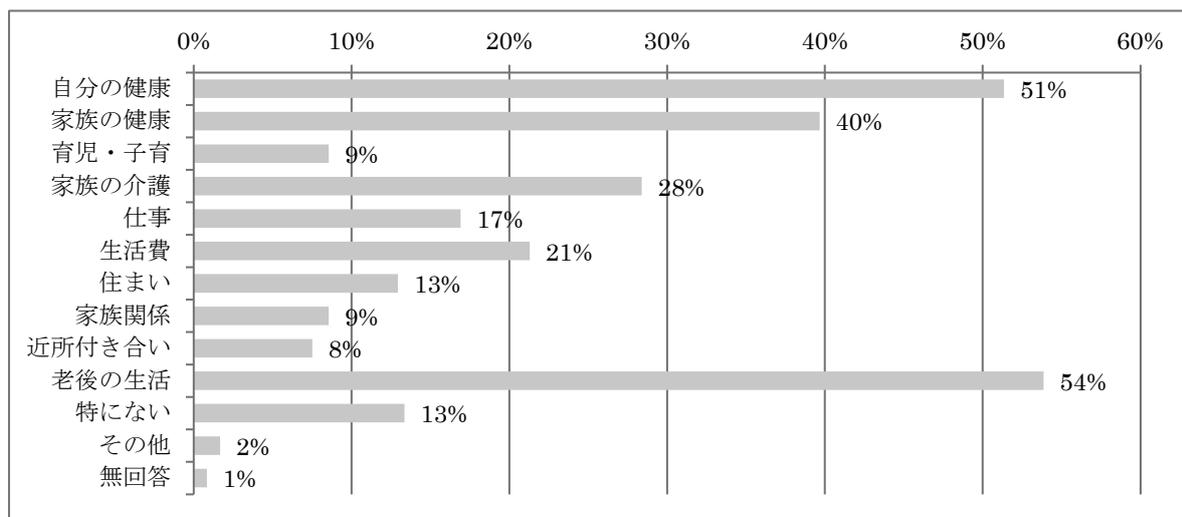
地域の方々の日常生活や地域活動の状況、福祉に関する考え方などに関する設問を中心に抜粋しています。すべての調査結果については、巻末の資料をご覧ください。

<日常生活について>

『日常生活で、問題や不安なことはありますか。』

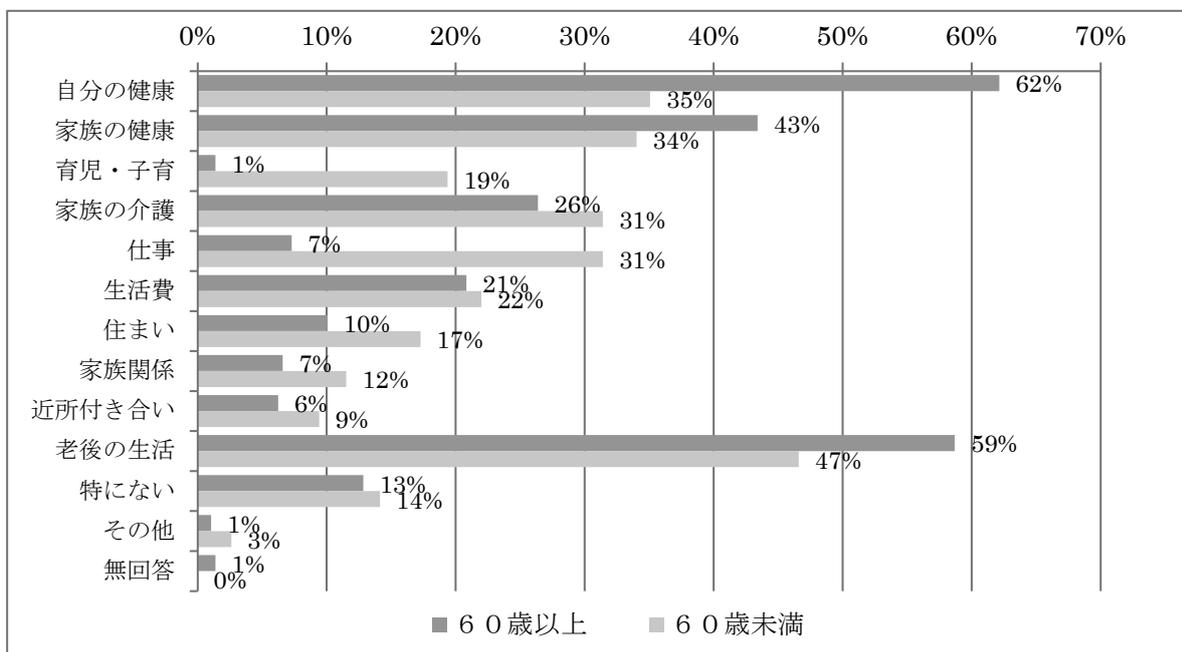
「老後の生活」(54%)、「自分の健康」(51%)や「家族の健康」(40%)の順に、不安を感じている人の割合が多くなっています。

次いで「家族の介護」(28%)、「生活費」(21%)となっています。(複数回答)



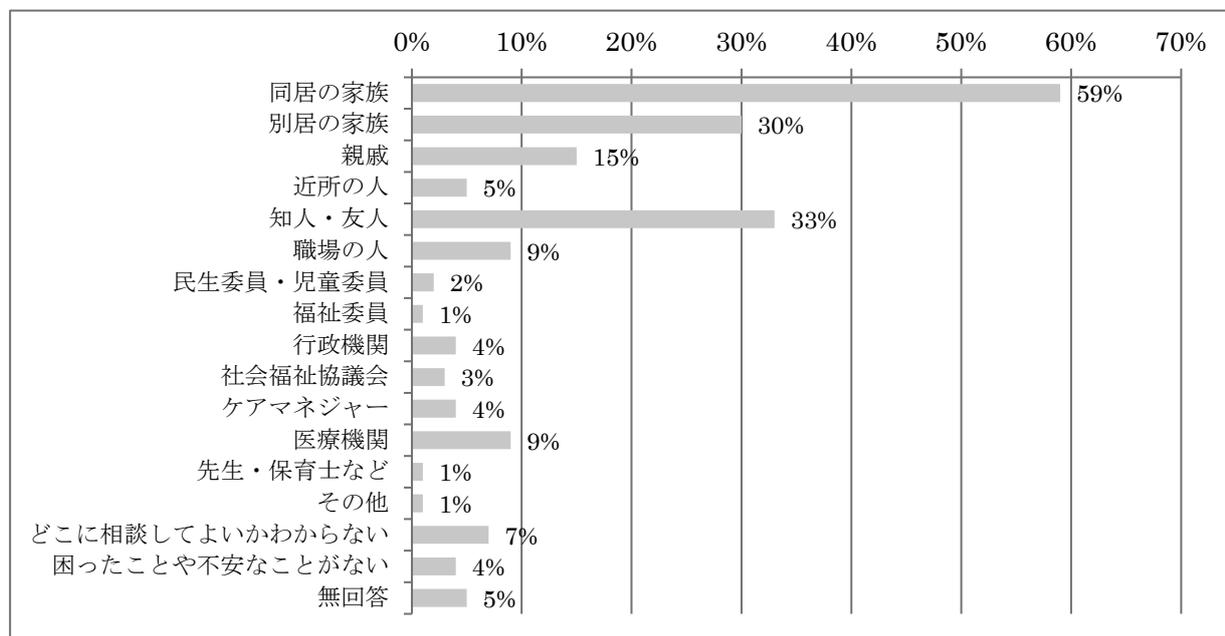
これを60歳以上と60歳未満の区別にみると、60歳以上では、「自分の健康」(62%)の割合が最も高く、次いで「老後の生活」(59%)、「家族の健康」(43%)となっています。

60歳未満では、「育児・子育て」(19%)、「家族の介護」(31%)、「仕事」(31%)、「生活費」(22%)、「住まい」(17%)などの回答割合も高く、問題や不安に感じていることが多岐にわたっていることが分かります。



『問題や不安の相談相手』

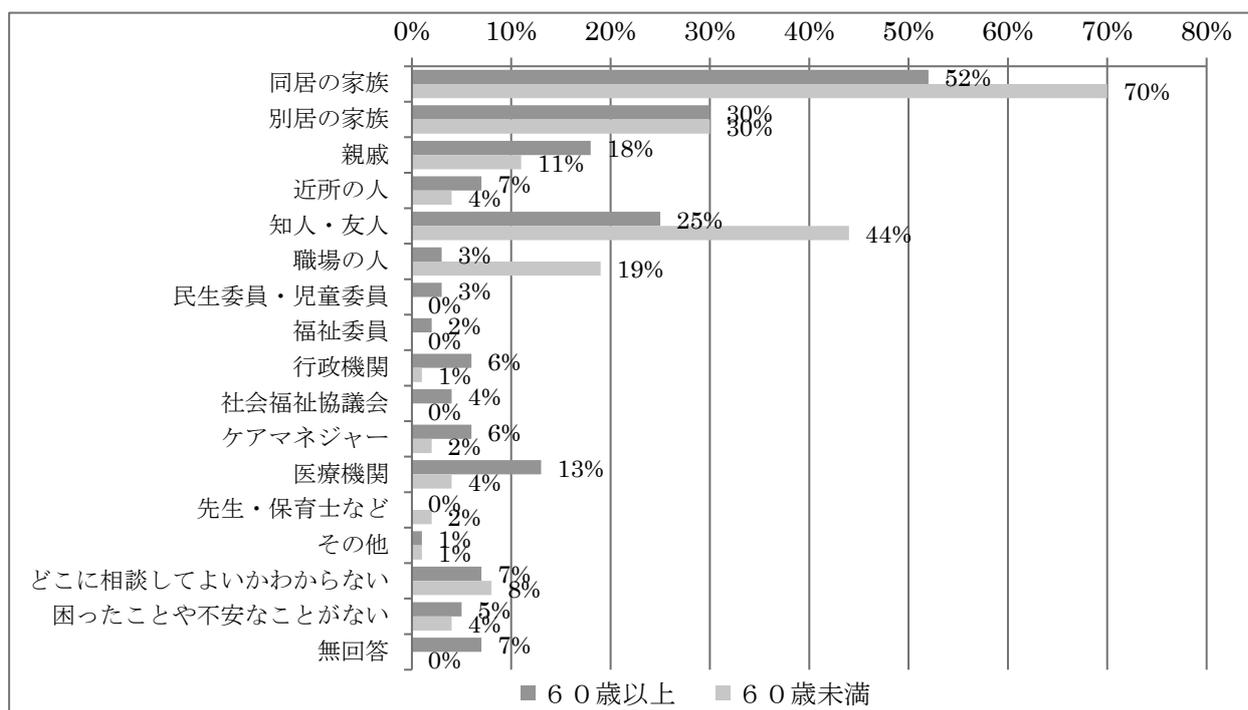
問題や不安について相談する相手は、「同居の家族」(59%)、「別居の家族」(30%)、「親戚」(15%)で、家族や親戚に相談する割合が高くなっていますが、「知人・友人」(33%)も約3割となっています。(複数回答3つまで)



これを60歳以上と60歳未満の区別でみると、60歳以上では、「同居の家族」や「知人・友人」などの割合が低くなり、「医療機関」や「ケアマネジャー」などの専門機関の割合が高くなっています。

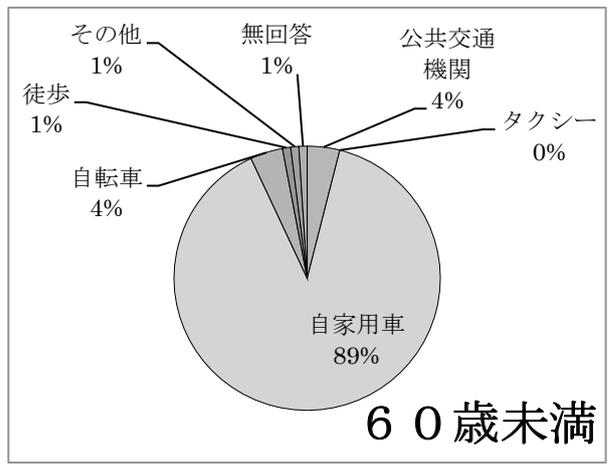
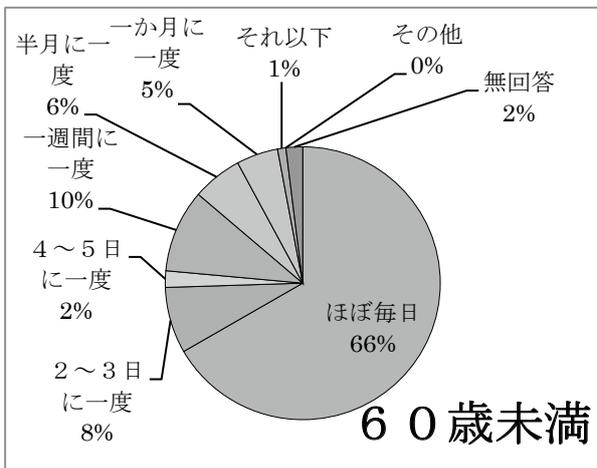
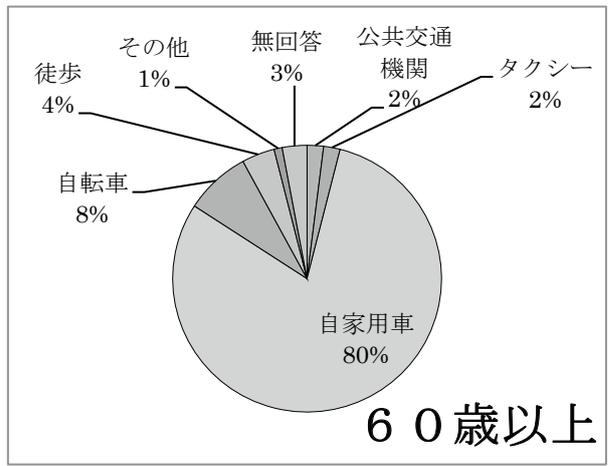
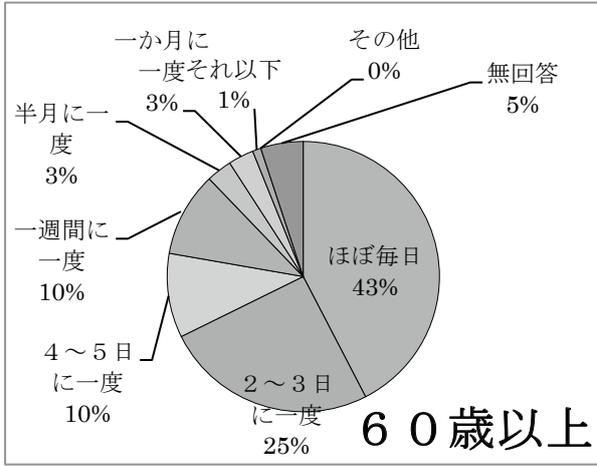
60歳未満では、「同居の家族」(70%)、「知人・友人」(44%)、「職場の人」(19%)の割合が高くなっています。

前回の調査結果と比較すると、60歳以上で「同居の家族」と回答する割合が低くなり、60歳未満で「別居の家族」と回答する割合が高くなっています。



『外出の頻度』

60歳以上で「ほぼ毎日」(43%)、「2～3日に一度」(25%)、60歳未満で「ほぼ毎日」(66%)、「2～3日に一度」(8%)と7割以上の人が、2～3日に一度以上外出しています。また、外出に利用する交通手段は、ほぼ自家用車となっています。



(外出頻度)

(交通手段)

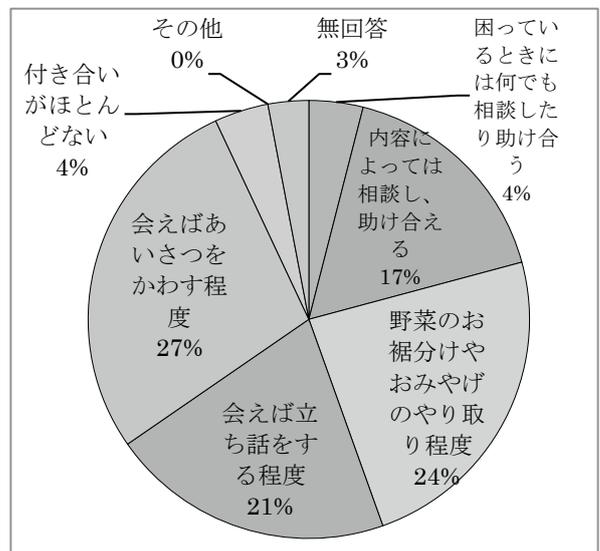
<近所の人との付き合いについて>

『あなたは、近所の人とどのようなつきあい方をしていますか。』

「会えばあいさつをかわす程度」(27%)が最も多く、次いで「野菜のお裾分けやおみやげのやり取り程度」(24%)、「会えば立ち話をする程度」(21%)となっており、近所の人との付き合いが希薄になっています。

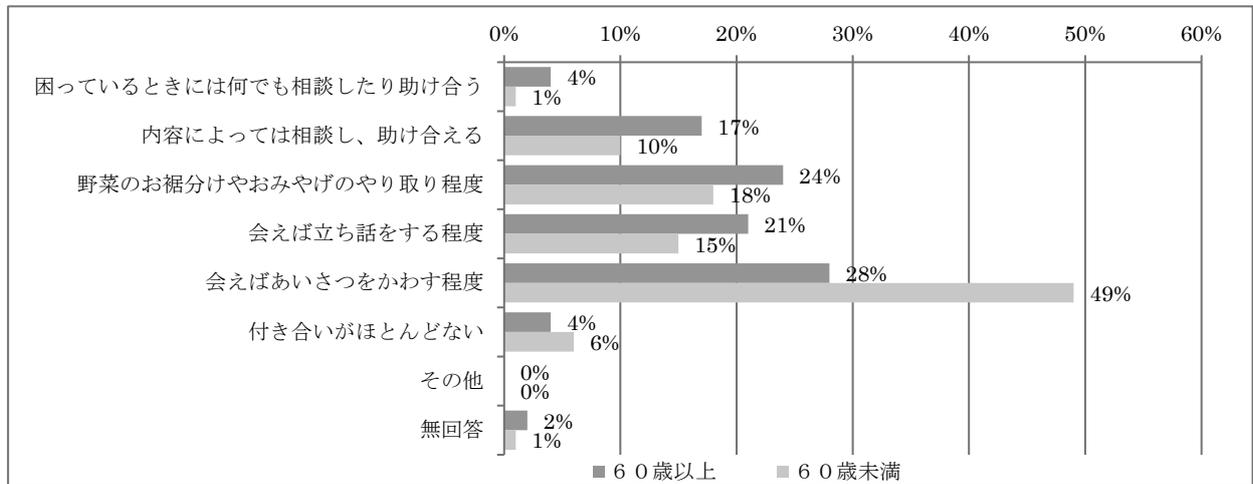
「付き合いがほとんどない」と回答した人も、4%となっています。

これを60歳以上と60歳未満の区別してみると、60歳以上では、「なんでも相談したり助け合う」(4%)、「内容によっては相談し、助け合える」(17%)、野菜のお裾分けやおみやげのやり取り程度」(24%)となってお



り、半数以上の人が、近所の人と相談したり助け合ったりしていることが分かります。

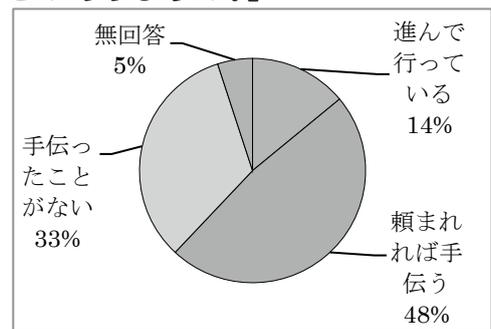
一方、60歳未満では、「会えばあいさつをかわす程度」（49％）と回答した人が最も多く、60歳以上の人と比べて、近所の人との付き合いが希薄なことがうかがえます。



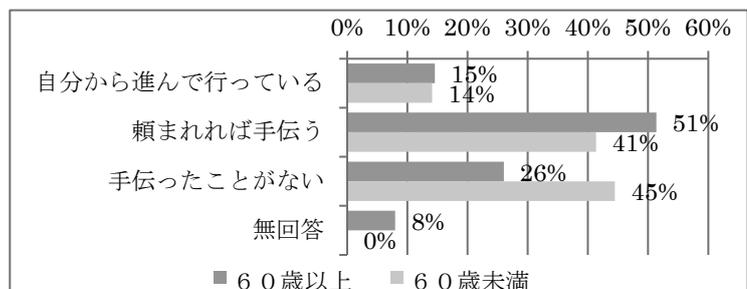
『近所で困っている人がいた場合、お手伝いをしたことがありますか。』

約半数の人が「頼まれれば手伝う」（48％）と回答しており、「自分から進んで行っている」（14％）と合わせると、約6割の人が手伝いをしたことがあると回答しています。

また、「手伝ったことがない」（33％）と回答した人のうち、78％の人が「今後、機会があればしてみたい」と回答しています。



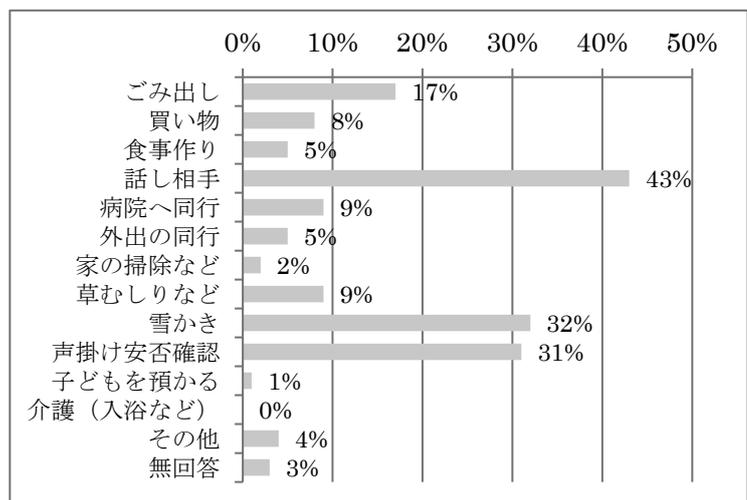
これを60歳以上と60歳未満の区別にみると、どちらの区分も「頼まれれば手伝う」と回答した人が多くなっていますが、60歳未満では、「手伝ったことがない」（45％）も多くなっています。



『どんなお手伝いをしましたか。』

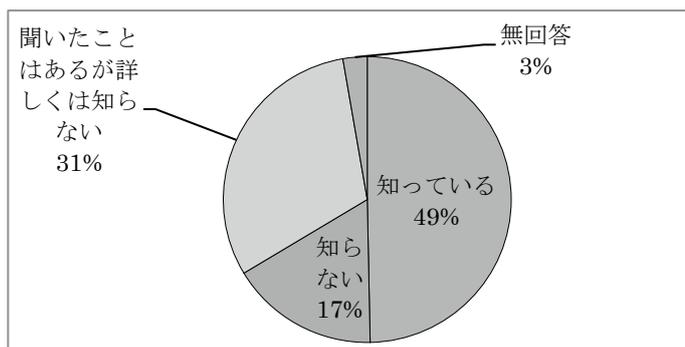
（複数回答）

手伝ったことがある人が、手伝いをした内容は、「話し相手」（43％）、「雪かき」（32％）、「声掛けや安否確認」（31％）、ごみ出し（17％）などとなっています。



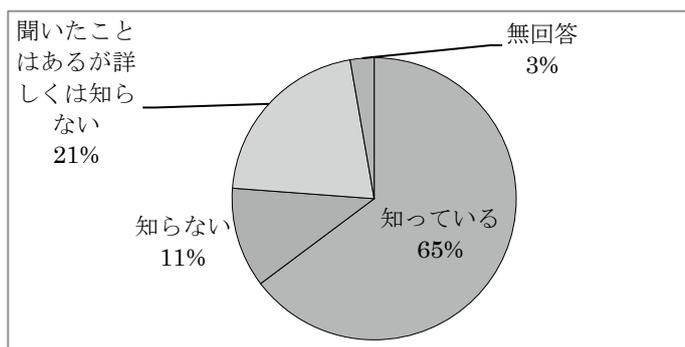
『社会福祉協議会を知っていますか。』

社会福祉協議会の認知度は、49%となっています。



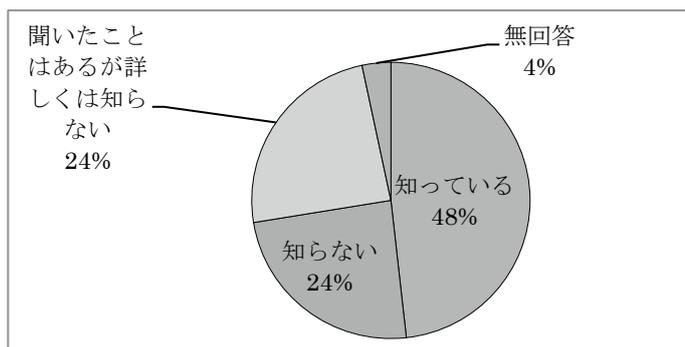
『民生委員・児童委員を知っていますか。』

民生委員・児童委員の認知度は、65%となっており、前回の調査結果51%から大幅に増えており、民生委員・児童委員の認知度が上がっていることがわかります。



『福祉委員を知っていますか。』

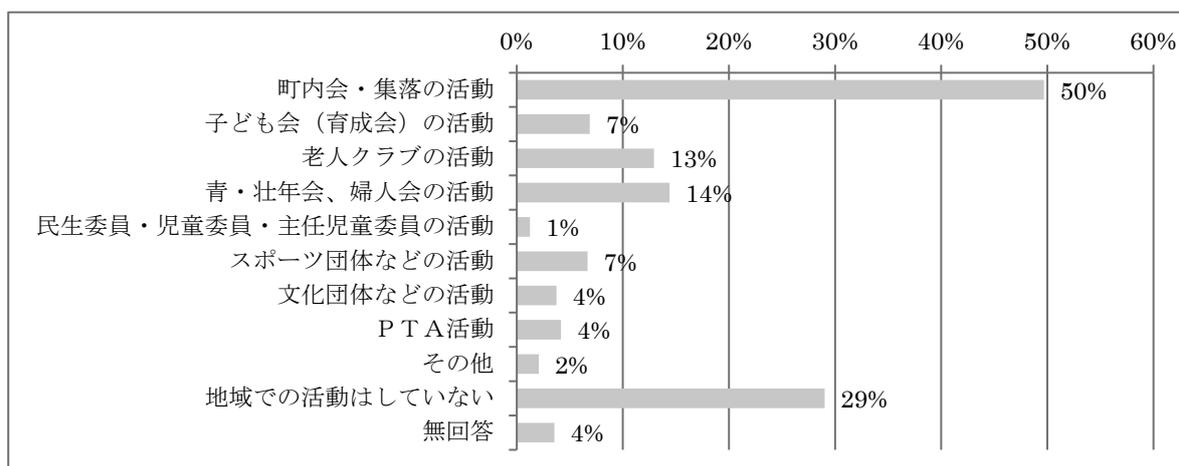
福祉委員の認知度は、48%となっています。



<地域活動について>

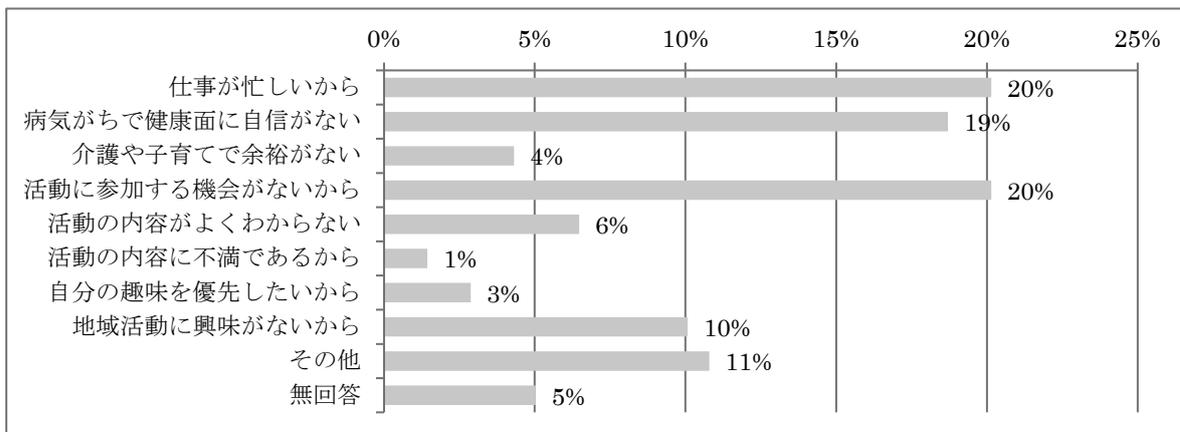
『地域で活動していることはありますか。』

「町内会・集落の活動」(50%)に参加している人をはじめ、子ども会(育成会)、老人クラブの活動、青・壮年会、婦人会などの地域活動をしている人がいる一方、「地域での活動はしていない」と回答した人の割合も29%となっています。

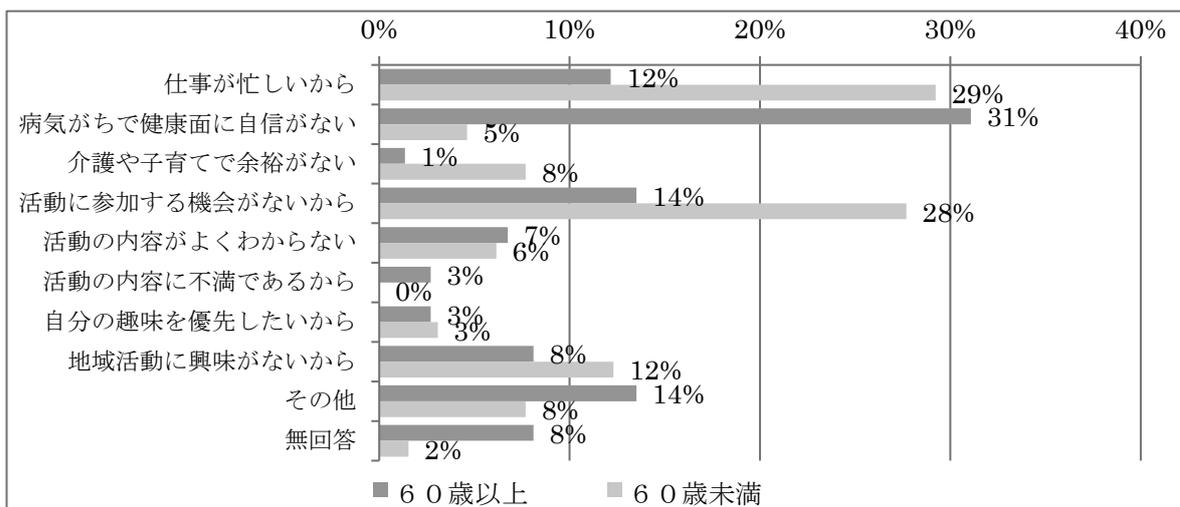


『地域活動に参加しない理由』

「仕事が忙しい」（20%）、「活動に参加する機会がない」（20%）、「病気がちで健康面に自信がない」（19%）と回答した人の割合が高くなっています。

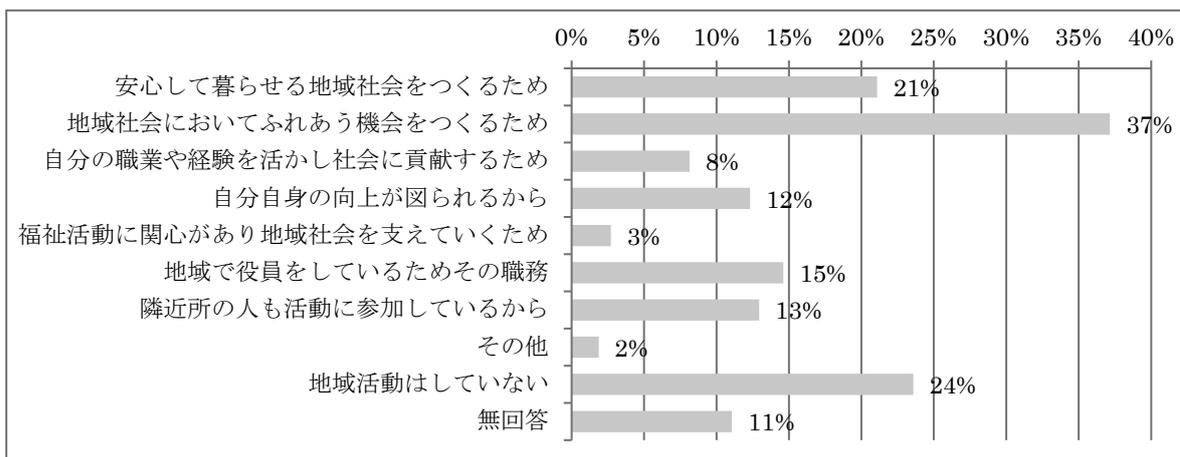


これを60歳以上と60歳未満の区分別にみると、60歳以上では「健康面に自信がない」（31%）と回答した人の割合が高く、60歳未満では「仕事が忙しいから」（29%）、「活動に参加する機会がない」（28%）と回答した人の割合が高くなっています。



『どのような目的で地域活動をしていますか。』（複数回答）

「地域社会においてふれあう機会をつくるため」（37%）、「安心して暮らせる地域社会をつくるため」（21%）と回答する人の割合が高くなっている一方、「地域活動はしていない」と回答した人も24%となっています。

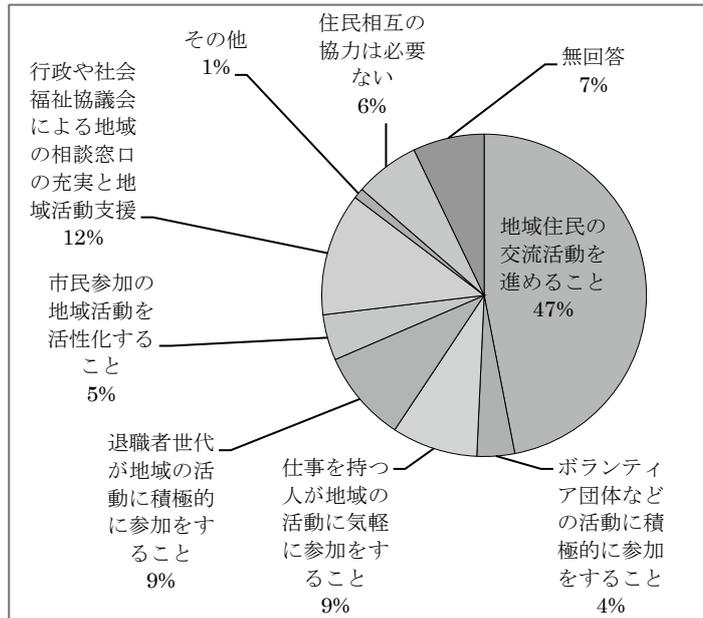
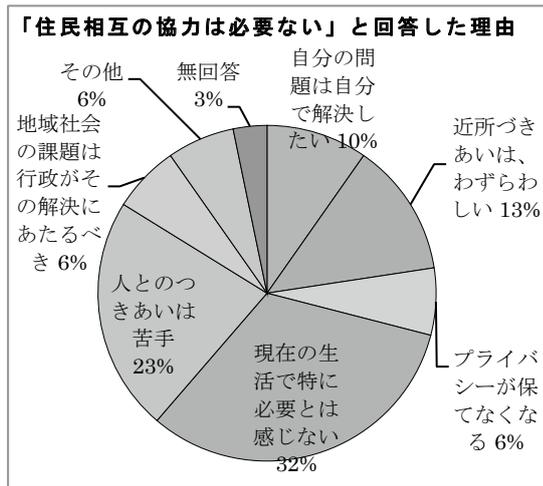


<住民相互の協力関係について>

『住民相互の自主的な協力には、どんなことが必要だと考えますか。』

約半数の人が、「町内会・集落が中心となって地域住民の交流活動を進めること」（47%）と回答しています。

「住民相互の協力は必要ない」と回答した人は6%で、必要ない人と



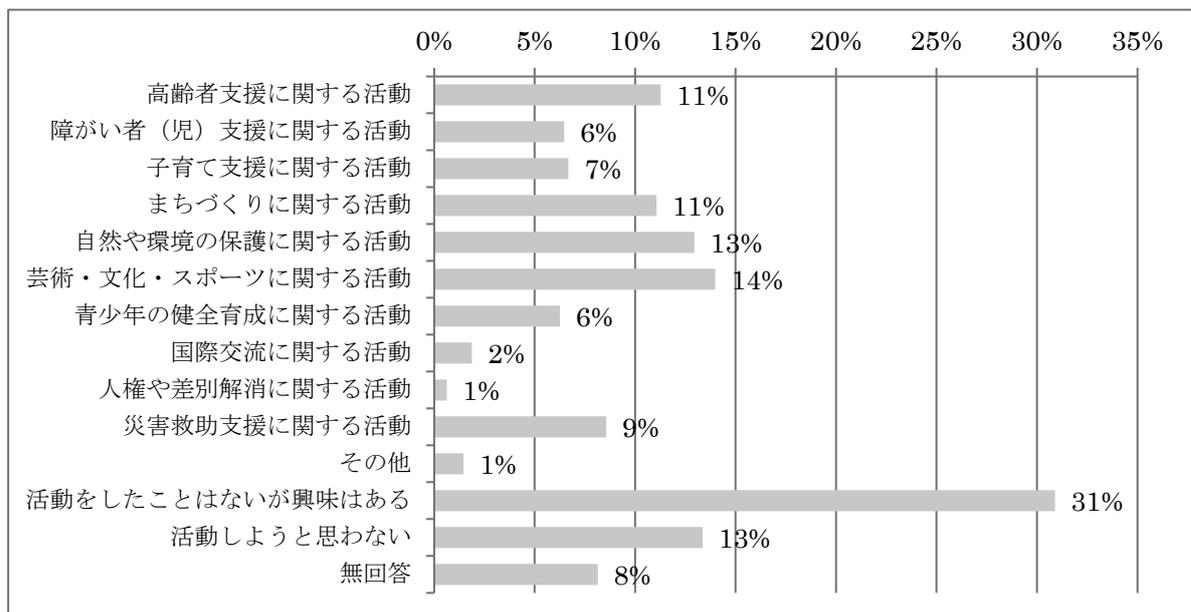
思う人の約半数は、「現在の生活で特に必要と感じていない」（32%）か、「人との付き合いは苦手」（23%）と回答しています。

<ボランティア活動について>

『ボランティア活動をしたことがありますか。』（複数回答3つまで）

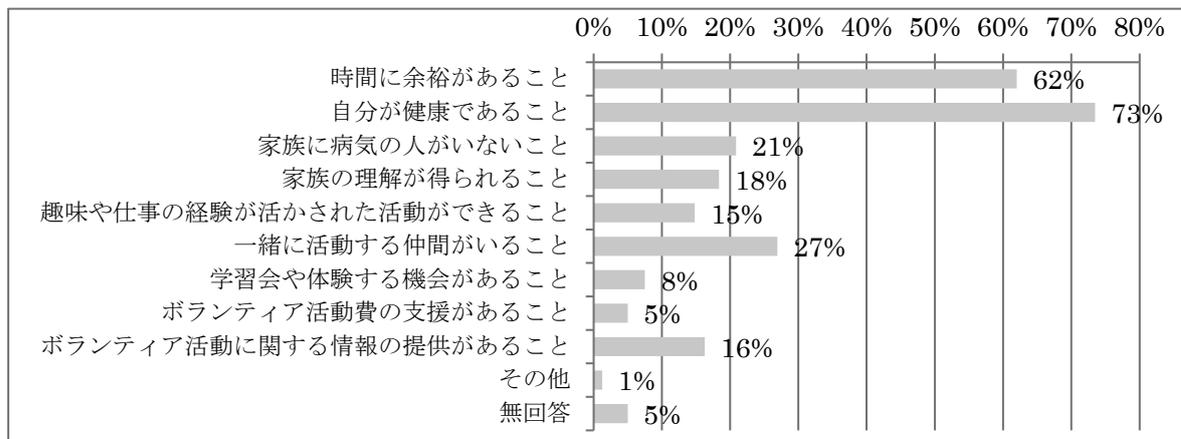
「高齢者支援」（11%）、「まちづくり」（11%）、「自然や環境の保護」（13%）、「芸術・文化・スポーツ活動」（14%）など、今までに何らかのボランティア活動をしたことがある人の割合は約5割となっています。

「活動をしたことはないが興味はある」と回答した人は31%でした。



『ボランティア活動に参加するための条件は。』 (複数回答3つまで)

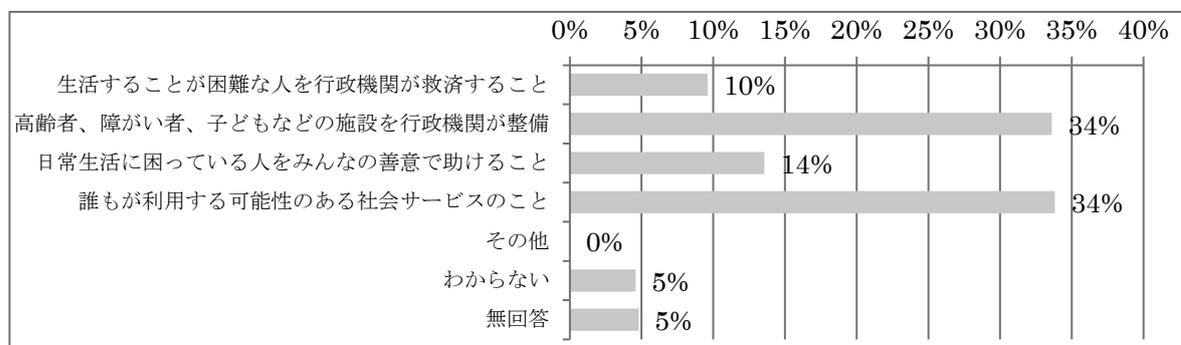
ボランティア活動に参加するための条件は、「自分が健康であること」(73%)、「時間に余裕があること」(62%)が多くなっています。



<福祉サービスについて>

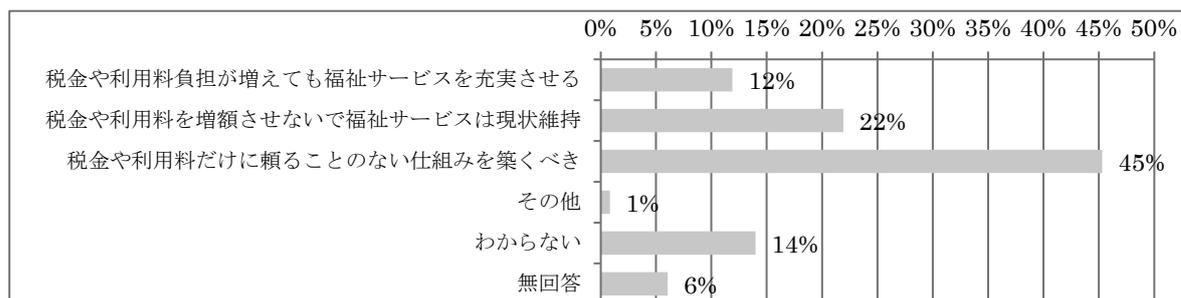
『「福祉」について、どのようなイメージをお持ちですか。』

「高齢者、障がい者、子どもなどのために、行政機関が必要な施設を整備して支援すること」(34%)と回答した人が多いですが、「市民の誰もが利用する可能性のある社会サービスのこと」(34%)、「日常生活に困っている人をみんなの善意で助けること」(14%)と回答した人もおり、福祉を身近なものとして感じている人も多いことがうかがえます。



『福祉サービスのあり方とその財源についての考え』

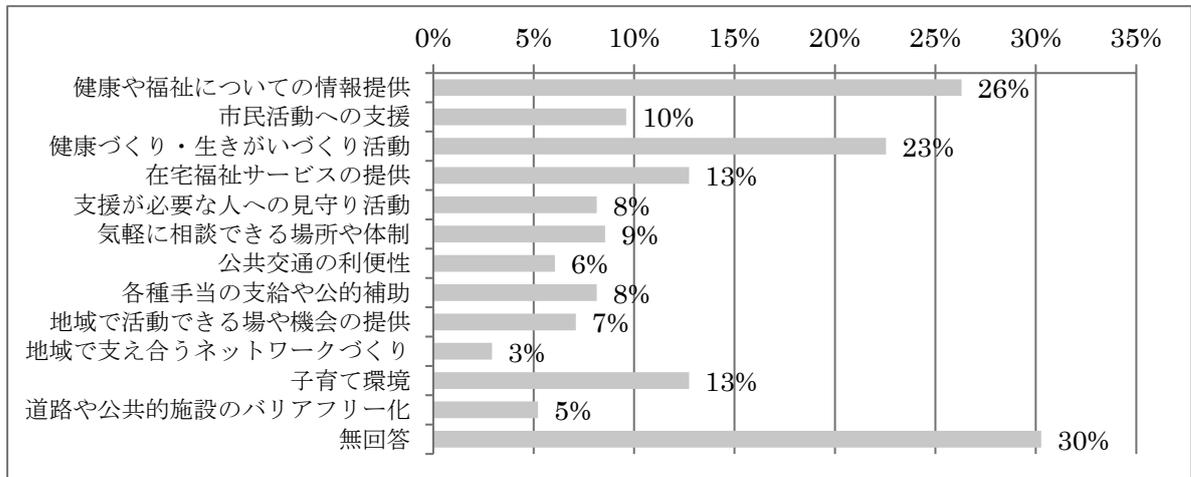
「福祉サービスの一部を市民や福祉団体・行政と協働で進めていくことにより、税金や利用料だけに頼ることのない仕組みを築いていくべきである」(45%)、「税金や利用料を増額させないで、福祉サービスは現状維持とすべきである」(22%)という回答が多くなっています。



<地域福祉のあり方について>

『大野市の地域福祉施策で充実していると感じている取り組みは』

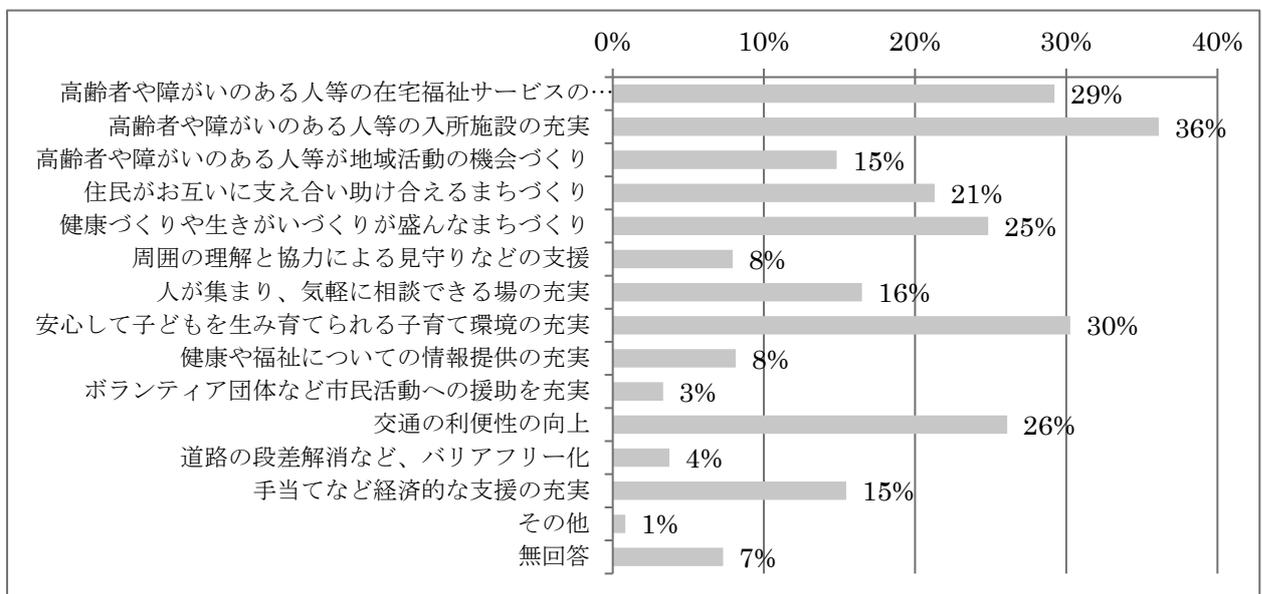
「健康や福祉についての情報提供」（26%）、「健康づくり・生きがいきづくり活動」（23%）の回答割合が高くなっています。



『大野市の地域福祉施策を充実していくため重要と考える取り組みは』

高齢者や障がいのある人等の「入所施設の充実」（36%）、「在宅福祉サービスの充実」（29%）、「子育て環境の充実」（30%）が重要だとする回答の割合が高くなっています。

このほか、「交通の利便性の向上」（26%）、「健康づくりや生きがいきづくり」（25%）、「住民がお互いに支え合い助け合えるまちづくり」（21%）を重要とする回答の割合も高くなっています。



『地域で安心して暮らせるまちづくりを進めていくためのご意見・ご要望（自由意見）』

地域住民による支え合いや市の活性化、若者の雇用促進・定住促進、生活環境の整備などについて、135名の方からご意見をいただきました。

詳細は、巻末の資料をご覧ください。

(3) こころの健康についての市民アンケート調査結果

こころの健康についてのアンケート調査についてまとめてあります。すべての調査結果については、巻末の資料をご覧ください。

『この1か月間に、日常生活の不安や悩み、ストレスを感じたことがありますか。』

20歳代から50歳代の年齢層で、不安や悩み、ストレスを感じるものが「おおいにあった」または「多少あった」と回答する割合が多く、特に30歳代では「おおいにあった」と回答する割合が高くなっています。

全体	全体	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
おおいにあった	16%	14%	24%	35%	15%	21%	12%	12%
多少あった	41%	33%	44%	38%	62%	41%	39%	37%
あまりなかった	33%	33%	32%	27%	21%	30%	39%	33%
全くなかった	6%	20%	0%	0%	0%	8%	7%	8%
その他	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%	0%
無回答	4%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	10%

男性	全体	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
おおいにあった	11%	13%	18%	27%	18%	5%	6%	12%
多少あった	41%	50%	36%	20%	41%	47%	49%	36%
あまりなかった	38%	12%	46%	53%	35%	43%	38%	36%
全くなかった	7%	25%	0%	0%	0%	5%	7%	11%
その他	1%	0%	0%	0%	6%	0%	0%	0%
無回答	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	5%

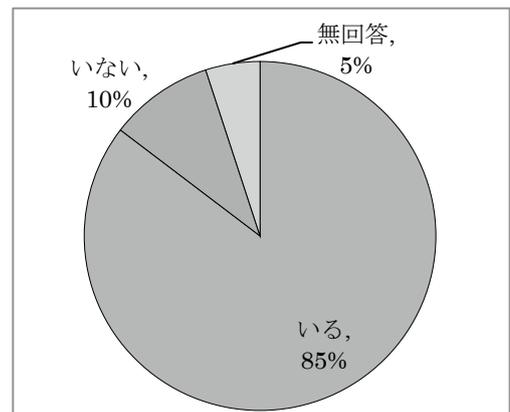
女性	全体	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
おおいにあった	19%	15%	29%	41%	13%	29%	18%	13%
多少あった	41%	14%	50%	50%	74%	38%	31%	39%
あまりなかった	29%	57%	21%	9%	13%	24%	40%	31%
全くなかった	6%	14%	0%	0%	0%	9%	6%	7%
その他	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
無回答	5%	0%	0%	0%	0%	0%	5%	10%

『不安や悩み、ストレスなどつらい気持ちを受け止めてくれる人、耳を傾けてくれる人はいますか。また、それはどなたですか。(〇はいくつでも)』

つらい気持ちを受け止めてくれる人がいる割合は、どの年齢層でも80%以上となっています。

また、つらい気持ちを受け止めてくれる人は、「同居の親族」や「知人・友人」と回答する割合が高く、20歳代から50歳代の勤労者が多い世代においては、「職場の上司や同僚」と回答する割合も高くなっています。

19歳以下では、「学校の先生」と回答する割合も高くなっています。



全体	全体	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
同居の親族	70%	67%	83%	84%	77%	72%	70%	61%
同居していない親族	31%	9%	17%	41%	44%	26%	32%	31%
知人・友人	38%	50%	61%	44%	37%	43%	39%	29%
近所の人	6%	0%	4%	3%	2%	10%	5%	9%
職場の上司や同僚	13%	0%	35%	38%	33%	21%	5%	1%
学校の先生	1%	17%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
医療機関	5%	0%	0%	0%	0%	7%	4%	11%
相談機関	2%	0%	4%	0%	0%	0%	3%	2%
その他	1%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	2%
無回答	1%	0%	4%	3%	0%	0%	1%	0%
(いると回答した人)	409人	12人	23人	32人	43人	61人	108人	130人

『不安や悩み、ストレスの原因は何ですか。(〇はいくつでも)』

19歳以下では、「学校の問題」(60%)と回答する割合が高くなっています。

20歳代から50歳代の勤労者が多い世代においては、「仕事の問題」と回答する割合が最も高く、「家族関係」や「経済的な問題」と回答する割合も高くなっています。

また、「病気や健康の問題」や「介護の問題」と回答する割合は、年齢が高くなるほど高くなっていくことがわかります。

全体	全体	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
家族関係	18%	7%	24%	27%	23%	20%	15%	16%
病気や健康の問題	48%	20%	8%	27%	31%	39%	53%	66%
経済的な問題	26%	20%	28%	38%	27%	32%	32%	15%
仕事の問題	29%	13%	76%	65%	50%	55%	23%	3%
子育ての問題	5%	0%	8%	19%	15%	9%	2%	1%
介護の問題	17%	0%	4%	8%	2%	20%	21%	22%
男女関係の問題	1%	0%	16%	3%	0%	0%	0%	1%
学校の問題	4%	60%	12%	0%	2%	3%	1%	1%
その他	4%	20%	0%	5%	4%	5%	5%	2%
無回答	11%	7%	0%	0%	8%	2%	13%	18%
(回答した人)	479人	15人	25人	37人	48人	66人	122人	166人

女性の19歳以下では、「学校の問題」のほか「病気や健康の問題」(43%)と回答する割合も高くなっています。

男性では、20歳代から50歳代で「仕事の問題」と回答する割合が最も高く、20歳代では「仕事の問題」(91%)が特に高くなっています。また、30歳代から50歳代では「経済的な問題」、40歳代から50歳代では「病気や健康の問題」と回答する割合も高くなっています。

女性では、20歳代から50歳代で「仕事の問題」と回答する割合が最も高いことは男性と同じ傾向ですが、「家族関係」や「経済的な問題」、「病気や健康の問題」、「子育ての問題」など、不安や悩み、ストレスの原因は多岐にわたっています。

60歳以上では、男女とも「病気や健康の問題」と回答する割合が最も高くなっています。

男性	全体	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
家族関係	11%	0%	18%	20%	6%	5%	7%	17%
病気や健康の問題	46%	0%	9%	13%	35%	33%	55%	67%
経済的な問題	29%	25%	9%	47%	29%	33%	36%	21%
仕事の問題	34%	13%	91%	73%	59%	67%	26%	5%
子育ての問題	4%	0%	0%	13%	0%	10%	2%	3%
介護の問題	17%	0%	0%	0%	0%	10%	24%	27%
男女関係の問題	1%	0%	9%	0%	0%	0%	0%	0%
学校の問題	4%	63%	9%	0%	0%	0%	2%	0%
その他	3%	13%	0%	0%	0%	6%	2%	3%
無回答	10%	13%	0%	0%	12%	0%	15%	12%
(回答した男性)	185人	8人	11人	15人	17人	21人	55人	58人

女性	全体	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
家族関係	22%	15%	29%	32%	32%	27%	21%	15%
病気や健康の問題	49%	43%	7%	36%	29%	42%	52%	64%
経済的な問題	24%	14%	43%	32%	26%	31%	28%	13%
仕事の問題	26%	14%	64%	59%	45%	49%	21%	2%
子育ての問題	7%	0%	14%	23%	23%	9%	2%	0%
介護の問題	17%	0%	7%	14%	3%	24%	19%	19%
男女関係の問題	1%	0%	21%	5%	0%	0%	0%	0%
学校の問題	4%	57%	14%	0%	3%	4%	0%	1%
その他	5%	29%	0%	9%	7%	4%	8%	2%
無回答	11%	0%	0%	0%	7%	2%	12%	20%
(回答した女性)	294人	7人	14人	22人	31人	45人	67人	108人

『不安や悩み、ストレスを解消するためによく行うことは何ですか。(〇はいくつでも)』

19歳以下では、「趣味を楽しむ」(87%)、「食べる」(53%)と回答する割合が高くなっており、その他の世代では、「家族や友人と話をする」、「趣味を楽しむ」と回答する割合が高くなっています。

20歳代から40歳代では「眠る(休養)」と回答する割合も高くなっています。

全体	全体	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
食べる	29%	53%	60%	41%	42%	36%	14%	24%
買い物	25%	13%	40%	30%	23%	32%	20%	24%
旅行やドライブ	20%	0%	28%	22%	25%	30%	21%	15%
家族や友人と話をする	47%	27%	56%	54%	58%	44%	52%	41%
趣味を楽しむ	36%	87%	52%	49%	31%	39%	33%	30%
信頼できる人に相談する	13%	0%	16%	19%	8%	17%	15%	10%
専門機関に相談する	2%	0%	0%	0%	2%	2%	4%	2%
眠る(休養)	31%	33%	60%	46%	46%	30%	18%	28%
お酒を飲む	17%	0%	16%	32%	19%	29%	20%	8%
タバコを吸う	5%	0%	0%	8%	8%	11%	4%	2%
賭け事をする	2%	0%	4%	5%	2%	2%	3%	1%
その他	2%	7%	0%	5%	2%	3%	3%	0%
特に何もしない	7%	7%	0%	3%	2%	5%	9%	9%
無回答	5%	0%	0%	0%	4%	0%	3%	11%
(回答した人)	479人	15人	25人	37人	48人	66人	122人	166人

『引きこもりや不登校を経験したことがありますか。』

「引きこもりや不登校を経験したことがある」（４％）と回答した割合は、２０歳代で高くなっていることがわかります。

	全体	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
ある	4%	0%	20%	5%	2%	3%	2%	5%
ない	89%	100%	80%	95%	92%	97%	94%	79%
無回答	7%	0%	0%	0%	6%	0%	4%	16%

『自殺を考えたことがありますか。』

「自殺を考えたことがある」（１０％）と回答した割合は、年齢が低くなるほど高くなっていくことがわかります。

	全体	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
自殺を考えたことはない	81%	67%	76%	70%	88%	92%	91%	72%
自殺を考えたことがある	10%	33%	24%	27%	8%	8%	4%	9%
無回答	9%	0%	0%	3%	4%	0%	5%	19%

『自殺をなくすために重要だと思われることはなんですか。（〇はいくつでも）』

「高齢者等のうつ予防や介護者の支援」、「子ども・若者の自殺予防」と回答する割合が高くなっており、若い世代では「子ども・若者の自殺予防」と回答する割合が特に高くなっています。また、２０歳代では、「多重債務者や失業者に対する相談窓口の充実」や「ひきこもりの支援」と回答する割合が高くなっています。

	全体	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
地域コミュニティを通じた支え合い	31%	13%	12%	24%	3%	26%	37%	33%
自殺予防の啓発と周知の推進	12%	7%	4%	8%	17%	15%	16%	8%
自殺対策を支える人材の育成	19%	20%	24%	27%	29%	23%	19%	11%
多重債務や失業などの相談窓口の充実	21%	27%	40%	27%	29%	21%	23%	12%
生活困窮者等に対する相談支援	27%	13%	32%	24%	31%	26%	31%	25%
子ども・若者の自殺予防	41%	60%	72%	68%	60%	47%	33%	27%
高齢者等のうつ予防や介護者支援	42%	13%	40%	41%	46%	41%	48%	40%
ひきこもりの支援	27%	20%	48%	35%	35%	36%	24%	19%
その他	3%	7%	8%	8%	4%	5%	1%	2%
無回答	12%	7%	4%	6%	0%	5%	9%	24%
(回答した人)	479人	15人	25人	37人	48人	66人	122人	166人

第3章 計画の理念と目標

1 基本理念

本市の最上位計画である第六次大野市総合計画では、基本目標の一つとして「健幸で自分らしく暮らせるまち」を掲げています。本計画では、これを基本理念とし、その目指すところを次のとおりに設定します。

「健幸で自分らしく暮らせるまち」

「健幸」とは、健康で幸せな生活のことです。人生100年時代を迎える中、誰もが健康で生きがいを持ち、住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができ、病気や高齢、障がいなどにより医療や介護の支援が必要になったとしても、安心して暮らすことができる社会づくりが必要です。

このため、市民が食事や運動などの正しい知識を学び、主体的に健康づくりに取り組むとともに、生活習慣病やフレイルの予防を進め、健康寿命の延伸を図ります。

また、病気の早期発見・早期治療によって重症化を防ぐ取り組みを進め、誰もが安心して受診できる地域医療体制の充実を目指します。

さらに、生活や福祉の課題解決に向けて、誰もがお互いに支え合う地域共生社会を目指します。

(第六次大野市総合計画より)

2 基本目標

基本目標1 地域福祉サービスの基盤づくり



総合的な相談支援体制や地域包括ケアシステムの充実を図り、誰もが必要なときに適切な福祉サービスを利用できる基盤づくりを進めます。

基本目標2 福祉サービスを利用しやすい仕組みづくり

分かりやすい情報提供、苦情等への相談・対応、権利擁護など、福祉サービスの利用を希望する人が、福祉サービスを利用しやすい仕組みづくりを進めます。

基本目標3 地域で助け合い、支え合う仕組みづくり

人と人とのつながりを大切にする「結の心」を醸成し、地域で互いに助け合い、支え合う仕組みづくりを進めます。

基本目標4 安全・安心でいきいき暮らせるまちづくり

ユニバーサルデザインのまちづくり、災害時の支援体制の整備、健康づくりの機運の醸成など、住み慣れた地域で、誰もが安全・安心で健康に暮らせるまちづくりを進めます。

3 自殺対策計画

基本目標 心の健康を支え、いのちをまもる地域づくり



自殺予防やストレス対策、うつ病などの心の病についての正しい理解の促進、自殺対策を広く支える人材の育成など、誰もが自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指します。

第四次大野市地域福祉計画の体系

基本
理念

基本目標

基本施策

健幸で自分らしく暮らせるまち

〔健幸〕とは、健康で幸せな生活のことです

<p>地域福祉サービスの 基盤づくり</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 総合的な相談支援体制の充実 2 福祉サービス提供体制の充実 3 ボランティア・NPO活動の促進 4 地域包括ケアシステムの充実
<p>福祉サービスを利用しやすい 仕組みづくり</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 わかりやすい情報提供 2 苦情等への相談・対応の充実 3 福祉サービス利用者等の権利擁護
<p>地域で助け合い、 支え合う仕組みづくり</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 住民主体の結のまちづくり 2 心のバリアをなくす福祉教育の推進 3 みんなで支え合う地域づくり <ul style="list-style-type: none"> (1) 元気高齢者による地域活動の促進 (2) 若者・子育て世代を応援する体制の整備 (3) 障がい者差別の解消と虐待防止対策 (4) 生活困窮などで援助を必要とする人への支援
<p>安全・安心で いきいき暮らせる まちづくり</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 快適に暮らせるまちづくり <ul style="list-style-type: none"> (1) ユニバーサルデザインのまちづくり (2) 集約型のまちづくり (3) 健幸でいきいき暮らせるまち 2 暮らしの安全・安心 <ul style="list-style-type: none"> (1) 災害時の支援体制の整備 (2) 交通安全対策 (3) 消費者被害の防止対策 (4) 再犯防止の推進

大野市自殺対策計画

<p>こころの健康を支え、 いのちをまもる 地域づくり</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 自殺予防に向けた啓発普及の推進 2 自殺予防のための相談・支援の充実 3 世代の特性に応じた施策の推進
---	---

主な事業

(1) 分野をまたがる包括的な相談窓口づくり (2) 複雑化・複合化する地域生活課題に対応した包括的支援体制の充実 (3) 地域で活動する各種相談員の活動の活性化と連携強化
(1) 保健・医療・福祉の連携強化 (2) 福祉人材の育成、確保 (3) 専門職のスキル向上
(1) ボランティア人材の育成、ボランティア活動の支援 (2) ボランティア団体・NPO法人の活動支援 (3) 社会福祉協議会の活性化
(1) 在宅医療・介護の一体的な提供体制の充実 (2) 介護予防策の充実、認知症対策の推進 (3) 総合的・包括的な地域ケアの仕組みづくり
(1) 情報提供、広報活動の充実 (2) 個々の状況に配慮した福祉関係情報の発信 (3) 新しい生活様式に対応した情報発信
(1) 苦情相談機能の充実 (2) 苦情相談担当者の育成 (3) 行政や関係機関、事業者の連携強化
(1) 日常生活自立支援事業の活用促進 (2) 成年後見制度の普及と利用促進 (3) 利用者負担の軽減制度の普及、充実
(1) 公民館を単位とする課題解決に向けた検討や、既存の地域を運営する組織の見直し (2) 地域コミュニティ活動の活性化 (3) 地域における見守り活動の推進 (4) 地域福祉の担い手の育成・支援
(1) 学校教育における福祉教育の推進 (2) 福祉に対する理解を深める啓発活動や学習活動の充実 (3) 福祉イベントなどを通じた啓発活動
(1) 高齢者が活躍できる場の創出 (2) 高齢者の地域活動への支援 (3) 老人クラブ活動の活性化
(1) 大野ですくすく子育て応援パッケージの浸透 (2) 地域ぐるみの子育て支援の推進 (3) 若者の定住促進、交流機会の拡大
(1) 障がいや障がいのある人への理解の促進 (2) 関係機関や住民が連携した虐待防止対策の強化
(1) 自立相談支援センターの機能強化 (2) 関係機関、関係団体との連携強化による支援体制の充実
(1) 施設や設備のユニバーサルデザイン化の推進
(1) 移動手段（アクセシビリティ）の確保、充実
(1) 健康づくりの意識啓発・普及 (2) 食育の推進 (3) 誰もが気軽にできる軽スポーツの普及
(1) 避難支援プラン作成の啓発と推進 (2) 避難行動要支援者名簿や避難支援プランを活用した避難支援訓練の実施 (3) 要支援者のニーズに対応した避難所環境の整備
(1) 交通安全教育の推進 (2) 高齢者の交通安全対策の推進
(1) 消費者教育の推進
(1) 更生保護に携わる団体の活動支援と関係機関との連携強化 (2) 社会を明るくする運動の推進と地域の理解の促進
(1) 自殺予防週間・自殺対策強化月間に合わせた啓発活動 (2) うつ予防等に対する正しい理解を得るための情報提供と啓発の促進
(1) 包括的な相談支援体制の構築と地域のネットワークの強化 (2) 地域・職域でのゲートキーパーの育成 (3) 多重債務やDV対策など専門的な支援機関との連携強化
(1) 児童生徒のSOSの出し方に関する教 (2) ひきこもりの長期化防止のための支援・居場所づくり (3) 職場でのメンタルヘルス対策の推進 (4) 高齢者の生きがいとこころの健康づくり (5) 介護者への支援の充実

第2部 地域福祉計画

第1章 地域福祉サービスの基盤づくり

1 総合的な相談支援体制の充実

<現状と課題>

本市では、高齢者、障がい者、子ども・子育て、生活困窮といった各分野の福祉施策の充実を図っています。

少子化・高齢化の進展、単身世帯の増加や家族のあり方の変化、地域のつながりの希薄化などが進み、福祉課題が一層複雑化、多様化、深刻化するなか、複合的な課題に対し既存の仕組みでは解決できない問題が生じています。

ひきこもりや「8050問題」など、複合的な生活課題を抱えた人を支援するためには、施策分野を超えて連携し、横断的かつ包括的に相談・支援を行う相談支援体制の充実が求められています。

保健・医療・福祉サービス拠点施設である結とぴあでは、高齢者全般の相談窓口である「地域包括支援センター」や、障がいのある人の日常生活や就労、サービスの利用に関することなど自立に向けた相談支援を行う「障害者相談支援センター」、妊娠期から出産、子育て期までを切れ目なく包括的に支援する「子育て世代包括支援センター」をはじめ、保健・医療・福祉の関係部署や大野市社会福祉協議会などを集約し、各部門が相互に情報共有と連携をしながら、専門性を生かしたきめ細かな相談支援体制の充実に努めています。

また、「自立相談支援センター ふらっと」では、さまざまな理由で経済的に困っている人や、ひきこもりなど生活上の悩みを抱えている人などの相談支援を行っています。

今後も結とぴあを中心に、関係機関や在宅介護支援センターをはじめとする相談支援事業所などとの情報共有や連携により、誰もが気軽に相談できる相談窓口や包括的な支援体制の充実を図っていくことが必要です。

また、核家族化や地域のつながりの希薄化などにより、家族や身近に相談できる人がおらず、社会的孤立に陥っている人やひきこもりの状態になっている人など専門的な支援を必要としている人を必要な支援につなぐため、地域の相談役として大きな役割を担っている民生委員・児童委員や福祉委員、老人家庭相談員などの活動を活性化し、より一層の連携強化が重要です。

<展開する施策>

- ◆分野をまたがる包括的な相談窓口づくり
- ◆複雑化・複合化する地域生活課題に対応した包括的支援体制の充実
- ◆地域で活動する各種相談員の活動の活性化と連携強化



2 福祉サービス提供体制の充実

<現状と課題>

福祉サービスの利用方法が「措置制度」から利用者がサービスを選択し契約する「契約制度」に変更され、また、サービスの提供主体が社会福祉法人だけでなく、NPO法人や株式会社などに多様化しています。

福祉ニーズは、高齢化や障がいの重度化などに伴い増加してきており、福祉事業者は、福祉サービスを必要とする人が安心してサービスを選択し利用できるよう、事業の適正な運営や必要なサービス量の確保、サービスの質の向上を図る必要があります。

本市においては、介護保険事業計画や障がい福祉計画、子ども・子育て支援事業計画の策定にあたり、本市におけるサービス提供体制整備の目標やサービスの見込量、目標達成のための方策などを定め、多様化する福祉サービスの提供体制の整備を推進しています。

福祉サービスの提供体制の整備にあたっては、介護職の負担軽減を図るため、IT化の推進やAI機器の導入などを進めていく必要があります。

また、総合的な相談支援体制の充実に併せ、高齢者や障がいのある人をはじめ、発達障がいや要保護児童など特別な支援が必要な子どもとその保護者、生活困窮者※1など、支援を必要とする人が、そのニーズに応じた適切な支援やサービスを組み合わせたケアマネジメントにより、地域で安心して自立した生活を送ることができるよう、市民や支援機関、行政などの共同による包括的な支援体制の構築が求められています。

保健・医療・福祉などの専門機関や地域住民が連携し、地域住民活動やボランティアを含めた多様な主体によるサービスを組み合わせたケアマネジメントの充実を図るとともに、支援に関わる専門職の知識や支援技術の向上、相応の専門性を有した人材の育成・確保を図ることが重要です。

<展開する施策>

- ◆保健・医療・福祉の連携強化
- ◆福祉人材の育成、確保
- ◆専門職のスキル向上

※1 生活困窮者

就労の状況、心身の状況、地域社会との関係性その他の事情により、現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者（生活困窮者自立支援法第3条）

3 ボランティア・NPO活動の促進

<現状と課題>

高齢者や障がいのある人などの支援が必要な人や子育て世代が、地域で安全に安心して生活を送るためには、公的なサービスの充実だけでなく、公的なサービスを補完する、ボランティア、NPO法人、社会福祉法人などの活動が不可欠です。

大野市社会福祉協議会は、結とびあ内に「大野市ボランティアセンター」を設置し、ボランティアの人材育成やボランティア活動の促進を図るとともに、市内のボランティアグループで構成する「大野市ボランティア活動ネットワーク」を設置し、ボラン



ティア活動の活性化に取り組んでいます。

アンケート調査では、約5割の人が何らかのボランティア活動をしたことがあると回答しており、約3割の人が活動したことはないがボランティアに興味があると答えています。

ボランティア活動の輪を広げるため、ボランティア体験講座などボランティア活動へのきっかけづくりや広報・啓発活動の充実、ボランティア活動のコーディネート機能の強化などに取り組んでいくことが重要です。

一方で、ボランティア団体やNPO法人は活動を維持していくうえで「人材の高齢化」や「活動資金の確保」といった課題を抱えており、活動の活性化を図るため、団体が抱えている課題の解決に向け団体自ら主体的に取り組むとともに、市や社会福祉協議会による支援が必要となっています。

<展開する施策>

- ◆ボランティア人材の育成、ボランティア活動の支援
- ◆ボランティア団体・NPO法人の活動支援
- ◆社会福祉協議会の活性化

4 地域包括ケアシステム※2の充実

<現状と課題>



「2025年問題※3」や「2040年問題※4」を見据え、高齢者が住み慣れた地域で可能な限り、その有する能力に応じて自立した生活を送ることができるよう、医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される体制づくりを進める必要があります。

国では、第6期以降の介護保険事業計画を「地域包括ケア計画」と位置づけ、令和7年度までの地域包括ケアシステム構築に向け、段階的に取り組みを進めています。

本市においても、在宅医療と在宅介護の連携や認知症対策の推進、介護サービスの基盤整備と質の向上などを図っていますが、引き続き、地域生活支援体制の整備を図り、地域の特性に応じた地域包括ケアシステムを深化・推進していく必要があります。

また、地域包括ケアシステムの構築により形成される地域ごとのネットワークは、子ども・子育て支援、障がい者や生活困窮者の支援などにおいても貴重な社会資源になると考えられることから、すべての地域住民を対象とした、総合的・包括的な地域ケアの仕組みとして捉えていくことが重要です。

<展開する施策>

- ◆在宅医療・介護の一体的な提供体制の充実
- ◆介護予防策の充実、認知症対策の推進
- ◆総合的・包括的な地域ケアの仕組みづくり

※2 地域包括ケアシステム

高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるための、地域の包括的な支援・サービス提供体制のことをいいます

※3 2025年問題

団塊の世代が75歳を迎える令和7年には、後期高齢人口が2,200万人に膨れ上がり、国民の4人に1人が75歳以上になり、医療や介護において大きな負担になるという問題をいいます。

※4 2040年問題

65歳以上の高齢者人口がピークとなり、1.5人の現役世代（生産年齢人口）が1人の高齢世代を支えるかたちになるという問題をいいます。

第2章 福祉サービスを利用しやすい仕組みづくり

1 わかりやすい情報提供

<現状と課題>



これまで、高齢者、障がい者、子育てなどに関する情報は、市の広報誌やホームページ、パンフレット、LINEなどを活用して発信しています。

アンケート調査では、福祉サービスなどの情報の入手方法として、「市の広報紙」と回答した割合が61%と最も高くなっていますが、年代別に見ると、60歳以上では「新聞・チラシ・雑誌」28%と、60歳未満では「インターネット」28%と回答した割合が、「市の広報紙」に次いで2番目に高くなっています。

こうしたことから、今後も分かりやすい広報紙やホームページの作成に努めるとともに、効果的な広報の方法を検討していく必要があります。

特に、高齢者や障がいのある人など、一人一人の状態に配慮した、適切で分かりやすい情報提供に努める必要があります。

地域での見守り活動をはじめ、高齢者ふれあいサロンや町内会の会合や行事など、住民と直接交流することが多い民生委員・児童委員をはじめとする各種相談員を通じた地域での声掛けによる情報提供や、広報啓発活動などを継続的に行っていくことが必要です。

また、ホームページやLINEなどのSNSを活用した情報提供のほか、新しい生活様式に対応したリモートでの相談や問い合わせへの対応などに取り組んでいくことが重要です。

<展開する施策>

- ◆情報提供、広報活動の充実
- ◆個々の状況に配慮した福祉関係情報の発信
- ◆新しい生活様式に対応した情報発信

2 苦情等への相談・対応の充実

<現状と課題>



福祉サービス利用者は、サービス提供者と対等の立場で契約しサービスの提供を受けており、福祉サービスを安心して適切に利用していくためには、福祉サービスに関するさまざまな苦情や不満、要望などの解決を図る仕組みづくりが重要です。

各サービス事業者では、苦情受付窓口の設置、苦情解決責任者の配置、苦情解決の仕組みの利用者への周知、第三者委員※4を設置した苦情解決に向けた取り組みを行っています。

今後も、行政や関係機関、サービス事業者が連携を密にし、引き続き適切な苦情対応に取り組んでいく必要があります。

また、介護保険サービスでは、利用者とサービス事業者の橋渡し役として、介護相談員の派遣を行い、事後的な問題解決と併せて、苦情の未然防止を図っています。

<展開する施策>

- ◆苦情相談機能の充実
- ◆苦情相談担当者の育成
- ◆行政や関係機関、事業者の連携強化

※4 第三者委員

福祉サービスを提供する事業所における苦情解決体制として、苦情受付担当者や苦情解決責任者の設置と合わせて、第三者委員を設置して、利用者が職員に苦情申し出をしにくい際の苦情解決や苦情申出人と苦情解決責任者との話し合いへの立会い、助言や解決策の調整を行います。委員は、中立・公正な判断のできる人で、地域の中から選ばれます。

3 福祉サービス利用者等の権利擁護



<現状と課題>

高齢化の進行とともに、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、認知症高齢者など支援が必要な人の増加に加え、介護者の高齢化や障がいのある人を支えている保護者の高齢化が進んでおり、判断能力が不十分な人に対する金銭や財産の管理、福祉サービスの利用援助など、地域で自立した生活を送るための支援が重要になっています。

大野市社会福祉協議会では、金銭管理をはじめとした生活全般の支援を行う日常生活自立支援事業を実施していますが、平成31年4月に生活あんしんセンター「結はあと」を設置し、成年後見制度の啓発や広報、相談業務、法人後見事業などを実施しています。

広域組織を中核機関に据えた、成年後見制度※6の普及と活用促進に向けた取り組みを進めていますが、今後も、認知症や知的障がい、精神障がいなどで、判断能力が不十分な人の増加に伴い、成年後見制度の活用の増加が見込まれるため、成年後見制度の普及啓発や利用促進、成年後見制度利用のコーディネートなどの取り組みを進めていく必要があります。

また、介護保険サービスや障害福祉サービス利用者の低所得者に対する利用料負担軽減や、重度障がい者に対する医療費助成、母子家庭等医療費助成などの実施に加え、支援を必要とする人が適切に福祉サービスを利用することができるよう、経済的な理由で福祉サービスが受けられない人に対する支援の充実と周知を図っていく必要があります。

<展開する施策>

- ◆日常生活自立支援事業の活用促進
- ◆成年後見制度の普及と利用促進
- ◆利用者負担の軽減制度の普及、充実

第3章 地域で助け合い、支え合う仕組みづくり

1 住民主体の結のまちづくり



<現状と課題>

本市では、人と人のつながりを大切にする昔ながらの「結の心」で互いに助け合い支え合う結のまちづくりに取り組んでいます。地域福祉を推進するためには、地域住民や地域の多様な主体が、世代や分野を超えてつながることで、住民一人一人の暮らしと生きがい、地域をともに創っていく『地域共生社会』の実現が重要となっています。

市民アンケートの結果では、29%の人が地域での活動に参加していないと回答しており、活動に参加しない理由として20%の人が「参加する機会がないから」と回答しています。

また、「住民相互の自主的な協力に必要なこと」として、約半数の人が、「町内会・集落が中心となって地域住民の交流活動を進めること」と回答しており、住民同士のつながりが希薄化しつつある一方で、地域住民の交流活動の重要性を認識していることがうかがえます。

隣近所などでの住民交流や地域活動の活性化は、支え合いのまちづくりに欠かせないものであり、高齢者や障がいのある人など支援を必要とする人が地域へ出向き、地域で受け入れることができる環境づくりが重要です。

地域コミュニティ活動の活性化に向けては、日常的なふれあいの場づくりを含めた、地域の課題を住民自らの手で解決していく支援策として「結の故郷づくり交付金事業※5」に、地域での交流促進や世代間の交流、地域コミュニティ活動の支援として「世代間結づくり事業※6」に取り組んでいます。

また、高齢者を支える仕組みとして、高齢者が地域とのつながりや生きがいを持ち、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、みんなで支え合う地域づくりを目指し、「生活支援体制整備事業」に取り組んでいます。

こうした地域の課題解決に向けた取り組みや事業の継続のためには、地域の人がつながり地域の力が結集する、住民の主体的参画による地域づくりを目指す必要があります。各地区の特性を生かした住民主体の組織と公民館が連携・協働して地域を運営できる仕組みづくりに取り組む必要があります。

また、民生委員・児童委員や福祉委員などは、地域の身近な支援者として重要な役割を担っており、地域課題や情報の共有化など各種相談員の連携強化や活動しやすい環境づくりなどに取り組むとともに、幅広い層の人に働きかけ、地域福祉の担い手を育成していく必要があります。

<展開する施策>

- ◆ 公民館を単位とする課題解決に向けた検討や、既存の地域を運営する組織の見直し
- ◆ 地域コミュニティ活動の活性化
- ◆ 地域における見守り活動の推進
- ◆ 地域福祉の担い手の育成、支援

※5 結の故郷づくり交付金事業

市民参加や市民協働の意識を醸成し、豊かで活力に溢れた住みやすい地域づくりを推進するため、市民自らが主体的に企画立案し実施する事業に対し市が補助金を交付します。

※6 世代間結づくり事業

自治会又は自治会の区域を単位とする社会教育関係団体が、活動拠点となる施設(コミュニティ会館)を活用し、世代間の交流に関する事業に対し市が奨励金を交付します。

なお、結の故郷づくり交付金事業と世代間結づくり事業は、令和3年度から結の故郷地域が輝く交付金事業に統合されました。

2 心のバリアをなくす福祉教育の推進

<現状と課題>



「福祉」は、ある特別な人たちだけを対象としたものでなく、誰もが「福祉」に関わって生活しています。高齢者や障がいのある人が地域で共に暮らすためには、地域に暮らすすべての人が、障がいのある人などに対する偏見、差別、誤解や同情などの「心のバリア」を取り払い、お互いを理解し合うことが大切です。

教育委員会では、大野市教育理念「明倫の心を重んじ 育てよう 大野人」を掲げ、家庭、地域、学校が連携を図りながら、優しく、賢く、たくましい大野人を育成し、困っている人を自然に手助けすることができる心を育むため、計画的・継続的な福祉教育を推進しています。

大野市社会福祉協議会では、市内の全小中学校の要請に応じて福祉体験講座を実施するなど、児童・生徒の自発的な福祉活動が展開されるよう支援をしているほか、「福祉ふれあいまつり」や「社会福祉大会」などのイベントを開催し、福祉に対する理解を深める取り組みを進めています。

生涯学習の分野でも、人権啓発活動や、福祉をテーマとした研修会や講演会が行われているほか、大野市社会福祉協議会やその他社会福祉法人などにおいても、福祉に対する意識を浸透させるための講演会が行われています。

地域福祉を支えるのは「人」であり、地域福祉の担い手として、人が育つ環境を整えるため、福祉の体験や学習ができるさまざまな機会の提供や福祉サービスを利用している人との交流を促進し、地域における福祉文化のすそ野を広げ、支え合い・助け合いの意識を醸成することが重要です。

今後も、地域福祉を広く啓発するための学習機会の提供と周知に努める必要があります。

<展開する施策>

- ◆学校教育における福祉教育の推進
- ◆生涯学習での啓発活動や学習活動の充実
- ◆福祉イベントなどを通じた啓発活動

3 みんなで支え合う地域づくり

(1) 元気高齢者による地域活動の促進

<現状と課題>



団塊の世代が後期高齢者となる令和7年頃には、医療や介護に対する負担が急増す

ることが懸念されることから、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を進めています。

生活支援においては、地域福祉の担い手として活躍できる元気な高齢者づくりが求められており、高齢者が、「見守られる高齢者」から「見守る高齢者」となることが期待されます。

高齢者が生涯にわたって活躍できるよう、ふくい健康長寿祭やねんりんピックへの支援、高齢者ふれあいサロンや「フレイル※7予防」の実施など、スポーツやレクリエーション、趣味の活動を通じた高齢者の生きがい・健康づくりの促進や、高齢者による地域での支え合い活動への支援が重要です。

<展開する施策>

- ◆高齢者が活躍できる場の創出
- ◆高齢者の地域活動への支援
- ◆老人クラブ活動の活性化

※7 フレイル

加齢により心身の活力（筋力、認知機能、社会とのつながりなど）が低下した状態のことをいいます。

（２）若者・子育て世代を応援する体制の整備

<現状と課題>

若者や子育て世代が、地域で安心して暮らせるまちづくりを進めるためには、働きながら子育てができる環境や地域で子どもを見守る体制の充実、子育ての不安や悩みなどに対する相談支援体制の強化が必要となっています。

本市では、子育て世代が安心して子育てできる環境の整備と、すべての子どもが健やかに育ち、保護者が喜びを感じながら子育てができるまちを目指し、令和2年3月に「第2期大野市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、地域全体で子育てを支援する地域づくりに取り組んでいます。

若い人たちが、大野に住んで、結婚して、子育てしたくなるよう、若者支援や子育て支援の充実に重点的に取り組むため、妊娠期から乳幼児期、学童期、思春期まで、主に子どもの成長過程に沿った、子育てしやすい地域づくり、職場環境づくりのための施策を、「大野ですくすく子育て応援パッケージ」としてまとめ、各種施策を進めています。

また、若い世代は地域づくりの担い手として大切な存在であり、若者が働き、定住できる環境の整備を図るとともに、若者が交流し、出会うことができる多様な機会を創出するなど、若者にとって魅力のある地域づくりが重要です。

<展開する施策>

- ◆大野ですくすく子育て応援パッケージの推進
- ◆地域ぐるみの子育て支援の推進
- ◆若者の定住促進、交流機会の拡大

(3) 障がい者差別の解消と虐待防止対策

<現状と課題>

障がいのある人が、教育や就労、交通機関や公共施設の利用など、あらゆる面で不自由さを感じる事のない社会環境づくりを進めるため、国では、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」に基づき、行政機関や事業者に、「不当な差別的取り扱いの禁止」や「合理的配慮の提供」を求めています。

障がいのある人が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、地域生活支援や就労支援など自立した生活ができるよう支援するほか、障がいや障がいのある人に対する市民の理解を深め、「結の心」でともに助け合い支え合う共生社会の実現が重要です。

本市でも、平成30年8月に「手話言語条例」を制定し、手話への理解の促進や手話の普及のほか、障がいの特性に応じた円滑な意思疎通が図られる環境の整備など、障がいや障がいのある人への理解を深める取り組みを進めています。

また、「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律（障害者虐待防止法）」に基づき、障がい者虐待防止への取り組みを強化していますが、本市の障がいのある人への虐待は横ばいで推移しています。

虐待が発生している場合、虐待者が、「指導・しつけ・教育」の名の下に不適切な行為を続けていることや、被虐待者が、自身の障がいの特性から自分のされていることが虐待だと認識していないことがあることから、区長や民生委員・児童委員をはじめとする地域の人々による見守りや関係機関との連携により、虐待の早期発見や早期対応に努め、アフターケアまでの総合的な支援が重要です。

<展開する施策>

- ◆障がいや障がいのある人への理解の促進
- ◆関係機関や住民が連携した虐待防止対策の強化

(4) 生活困窮などで援助を必要とする人への支援

<現状と課題>

本市においては、「大野市自立相談支援センター ふらっと」を開設し、経済的に困窮し、生活保護に至る可能性のある人に対し、自立に関する相談、就労に向けた基礎能力養成や訓練、家計相談などの包括的な相談支援を行っています。

生活困窮に陥る理由はさまざまであり、これまでの高齢者や児童、障がい者といった分野ごとの枠組みを超え、複合化した生活課題の解決に向け、一人一人の状況に合わせた支援を行う必要があります。

また、ひきこもり状態にある生活困窮者も増えてきており、関係機関、関係団体との連携を密にし、住み慣れた地域で円滑な社会生活を送ることができるよう、相談支援体制の充実を図ることが重要です。

<展開する施策>

- ◆自立相談支援センターの機能強化
- ◆関係機関、関係団体との連携強化による支援体制の充実

第4章 安全・安心でいきいき暮らせるまちづくり

1 快適に暮らせるまちづくり

(1) ユニバーサルデザインのまちづくり



<現状と課題>

障がいのある人が、生活上のあらゆる場面で不自由さを感じることがない社会環境の整備を進めるため、本市においても、建築物や道路、公園などの整備にあたっては、歩道の段差解消や身体障がい者用駐車場の確保など、公共施設のユニバーサルデザイン化を推進しています。

高齢者や障がいのある人が快適で暮らしやすい生活環境を整備するためには、市民生活に密着した公共施設や民間施設のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、高齢者や障がいのある人への合理的配慮※8などについて市民の理解を深め、すべての人が利用しやすい、ユニバーサルデザインの視点に立ったまちづくりを推進することが重要です。

<展開する施策>

◆施設や設備のユニバーサルデザイン化の推進

※8 合理的配慮

障がいのある人が、障がいのない人と同じように、教育や就業、そのた社会生活に平等に参加できるように、それぞれの障がい特性や困りごとに合わせて行う個別の調整や配慮のことを指します。

(2) 集約型のまちづくり

<現状と課題>

人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者をはじめとするすべての住民が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携したコンパクトなまちづくりを進めるため、平成30年3月に立地適正化計画を策定しました。

まちづくりと連携した利用しやすい公共交通ネットワークの整備とともに、高齢者や障がいのある人の心身の状態に合わせ、社会参加を可能にするための外出に必要な移動支援サービスの充実に努めることが必要です。

<展開する施策>

◆移動手段（アクセシビリティ）の確保、充実

(3) 健幸でいきいき暮らせるまち

<現状と課題>

アンケート結果では、「日常生活の問題や不安なこと」として、「老後の生活」(54%)、や「自分の健康」(51%)、「家族の健康」(40%)と回答した人の割合が高くなっています。

また、「地域活動に参加しない理由」では、「仕事が忙しい」や「参加する機会がな

い」に次いで、「健康面に自信がないから」と回答した人が多く、60歳以上では、「健康面に自信がないから」と回答した人が最も多くなっています。

「ボランティア活動に参加するための条件」では、「自分が健康であること」と回答する人が一番多くなっています。

介護や支援が必要な状態に陥らないよう、健康診断や特定健診などの積極的な受診の勧奨や、日々の食事や運動習慣に対する意識の向上を図るとともに、健康教室やスポーツ教室など人々と交流しながら自分が楽しみ、心身ともに健康で活動できる場の提供などに取り組むことが重要です。

また、地域活動やボランティア活動への参加には、活動する本人が健康であることが大切です。

市民が元気で心豊かに、安心していきいきと暮らすことができるよう、自主的に健康づくりに取り組めるきっかけづくりや健康づくりの気運の醸成を推進する必要があります。

<展開する施策>

- ◆健康づくりの意識啓発・普及
- ◆食育の推進
- ◆誰もが気軽にできる生涯スポーツの普及

2 暮らしの安全・安心

(1) 災害時の支援体制の整備



<現状と課題>

地域のコミュニティ機能が低下しつつあり、核家族化や高齢化の進行により、災害時における要配慮者の適切な避難誘導や安否確認等をいかにして行うかが重要な課題となっています。

そのため、本市では、災害対策基本法に基づき、福祉部局などが把握する障がいのある人や要介護者などの情報を基に避難行動要支援者※9の把握に努めるとともに、地域防災計画の定めるところにより、避難行動要支援者の避難支援や安否確認その他の措置を実施するための基礎となる避難行動要支援者名簿を作成し、自主防災組織と連携して、避難行動要支援者に対する避難支援プランの作成を促進しています。

関係部局や関係機関が連携し、避難行動要支援者の把握を行い、自主防災組織や民生委員・児童委員の協力のもと、避難支援プランの作成を促進していくとともに、避難行動要支援者名簿や避難支援プランを活用した防災訓練の実施を促進し、平時からの見守り体制、災害発生時の速やかな安否確認と避難支援体制を整備する必要があります。

また、過去の災害を通じて、人と人との絆の大切さ、地域ぐるみによる日ごろからの備えの大切さについて学んでおり、災害時のボランティアの受け入れや派遣の体制づくりを整えています。

総合防災訓練においても、災害ボランティアセンターの設置と運営訓練を併せて実施し、災害を想定した体制の検証を行っています。

しかしながら、災害発生時には、高齢者や障がいのある人、妊婦や乳幼児など要配慮者が、通常の福祉サービスなどの提供を十分に受けることができないことも想定されるため、こうしたニーズに的確に対応できる避難所環境の整備や専門技術型ボランティアの育成が必要となっています。

<展開する施策>

- ◆避難支援プラン作成の啓発と推進
- ◆避難行動要支援者名簿や避難支援プランを活用した避難支援訓練の実施
- ◆要支援者のニーズに対応した避難所環境の整備

※9 避難行動要支援者

高齢者、障がい者、乳幼児などの要配慮者のうち、災害が発生したまたは災害が発生するおそれのある場合に、に自ら避難することが困難な人で、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るために特に支援が必要な人

(2) 交通安全対策

<現状と課題>

日常生活においては、交通事故による死者数と人身事故件数は減少傾向にあるものの、高齢者が当事者となる事故の割合は高くなっています。

高齢者の交通事故防止を最重点目標に、市や警察などの関係機関が連携して交通安全対策を強化し、市民一人一人が交通ルールを守り、正しい交通マナーを実践することにより、交通事故がない安全で安心なまちづくりを目指しています。

高齢者へは、ふれあいサロンなどさまざまな機会を通じた交通安全教育の実施や運転免許の自主返納の促進を、幼児・児童などへは、保護者と同時に学ぶ機会を提供し、家庭での交通安全教育を推進していますが、各年齢層に合わせた交通安全教育の更なる展開が必要となっています。

また、通学路の安全確保では、関係機関が連携して児童生徒の通学路や保育園などの園外活動箇所（散歩道）の危険個所の点検や対策などを講じています。

<展開する施策>

- ◆交通安全教育の推進
- ◆高齢者の交通安全対策の推進

(3) 消費者被害の防止対策

<現状と課題>

食品表示の偽装やインターネット取引に関する被害、複雑巧妙化する特殊詐欺など、消費者を取り巻く環境は複雑かつ多様化してきています。このため、相談窓口の強化や消費者教育の推進を図り、安心して消費生活ができる環境をつくることが重要となっています。

大野市消費者相談センターでは、安心して相談できる窓口を目指し、消費者相談アドバイザーや消費生活モニターと連携しながら、相談業務や情報収集に努めています。

＜展開する施策＞

◆消費者教育の推進

（４）再犯防止の推進

＜現状と課題＞

安全・安心な暮らしの実現には、犯罪や非行のない地域社会を築いていくことが不可欠です。全国的に刑法犯の認知件数は減少傾向にあるものの、検挙人員に占める再犯者の割合は上昇し続け、約半数に達しています。これは、刑を終えて出所した人の円滑な社会復帰が困難な状況によるものです。

刑を終えて出所した人やその家族に対しては、根強い偏見や差別があり、本人に更生意欲があっても就職や住宅の確保の面で差別を受けるなど、社会復帰を目指す人にとって厳しい状況にあります。

刑を終えて出所した人が真の社会復帰を実現するためには、本人の強い更生意欲とともに、彼らを再び受け入れ、見守り、支える地域社会を築くことが求められています。

＜展開する施策＞

◆更生保護に携わる団体の活動支援と関係機関との連携強化

◆社会を明るくする運動の推進と地域の理解の促進

第5章 計画の推進に向けて

1 計画の推進体制の整備

本計画の着実かつ効果的な推進を図るため、庁内の保健、福祉、医療、教育、労働、まちづくりなどの関係部局の連携を強化するとともに、「第六次大野市総合計画」や「越前おおの高齢者福祉計画」「大野市子ども・子育て支援事業計画」「大野市障がい者計画」などの関連計画との整合性を図りながら各施策の円滑な推進を図ります。

2 関係機関・団体等との連携

本計画を推進していくために、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、自治会、地域関係団体、サービス事業者などとの連携を図ります。

特に、地域福祉を推進するための中心的な役割を担っている大野市社会福祉協議会との連携は欠かせません。本計画は、大野市社会福祉協議会が策定する「地域福祉活動計画」と相互に連携しながら、施策を推進します。

また、社会保障制度改革などの動向を見極めつつ、国や県、近隣自治体と連携し広域的な課題や共通する問題に適切に対応するなど、効果的な施策の推進を図ります。

3 計画の評価

「越前おおの高齢者福祉計画」「大野市子ども・子育て支援事業計画」「大野市障がい者計画」などの各関連計画の進捗状況などの分析・評価を総合的に検証し、本計画に基づく施策の進捗状況の定期的な確認を行うことにより、施策をより効果的に推進します。

また、計画の中間年と最終年には評価を行い、実施計画の進捗状況を検証するとともに、次期計画に反映していきます。

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			第四次計画		
第三次計画			中間評価		最終評価 次期計画策定

第3部 自殺対策計画

第1章 こころの健康を支え、いのちをまもる地域づくり

1 自殺予防に向けた普及啓発の推進

<現状と課題>

人が自殺に至る理由は単純ではなく、借金や失業など経済的要因や家族間の不和や家族との死別などの家庭問題、仕事の失敗や職場の人間関係などの勤務問題などの要因が、複雑化・複合化し最も深刻化したときに自殺が起きるとされており、「平均して四つの要因が連鎖する中で自殺が起きている」とする調査結果(自殺実態白書2013から)もあります。

借金や失業などの要因によるストレスからうつ病などのこころの病にかかり、自殺以外に問題解決の方法がないと思ひ込み、さまざまな悩みや問題を一人で抱えるうちに心理的に追い込まれた末の結果自殺に至ることが多く、誰かが手を差し伸べることで防げる可能性があります。

一人で悩まずに相談する意識の醸成を図り、ストレス対策、ストレスに起因するうつ病など、こころの病や自殺対策などについて市民の正しい理解を深めることが重要です。

<展開する施策>

- ◆自殺予防週間・自殺対策強化月間に合わせた啓発活動
- ◆うつ予防等に対する正しい理解を図るための情報提供と啓発の促進

2 自殺予防のための相談・支援の充実

<現状と課題>

さまざまな悩みや生活上の困難を抱える人に対する早期の「気づき」が重要であるため、「気づき」のための人材育成を充実し、早期の「気づき」の役割を担う人を増やすことが、誰も自殺に追い込まれることのない地域社会につながります。

自殺のサインに気づき、声を掛け、話を聞き、必要に応じて専門の相談機関につなぐ役割を担う「ゲートキーパー」を養成するなど、幅広く自殺対策を支える人材の育成が必要です。

また、自殺予防対策を推進する上で、医療、福祉、教育、労働などのさまざまな分野が連携し包括的な相談支援体制を構築するとともに、専門家や関係者だけでなく、身近な地域で支えとなる地域住民が自殺や自殺関連事象に関する正しい知識を持ち、悩みや困難を抱える人の本音を聞き出すことができる信頼関係の構築技法などを学び、気がかりな人を早期に見つけ必要な機関へつなぐ、地域のネットワークの強化が重要です。



<展開する施策>

- ◆包括的な相談支援体制の構築と地域のネットワークの強化
- ◆地域・職域でのゲートキーパーの育成
- ◆多重債務やDV対策など専門的な支援機関との連携強化

3 世代の特性に応じた施策の推進

<現状と課題>

子どもや若者は、進学や就職、結婚、出産、育児など、ライフスタイルの大きな変化を経験する年代です。

児童・生徒が、社会において直面するさまざまな困難やストレスへの対処方法を身につけ、問題を一人で抱え込まず他者に支援を求めることができるなど適切な対応ができるよう、学校での保健体育や道徳、総合学習などの機会を通じて指導することが必要です。

また、子どもや青少年、保護者を対象に、学校や進路、友達や人間関係、教育や家庭、子育てに関する不安や悩み、産後うつなど、ライフステージに合わせた相談支援体制の充実を図る必要があります。

働く世代では、職場の人間関係や長時間労働、転勤や異動といった職場環境の変化や、勤務上の問題をきっかけに退職や失業に至り、生活困窮や多重債務といった問題が発生し、最終的に自殺のリスクが高まるケースは少なくありません。

勤務や経営上の悩みを抱えた人が、適切な相談先や支援先につながることでできる相談体制の強化や相談窓口の周知、職場におけるメンタルヘルス対策の推進が重要となっています。

高齢者は、生きがいや役割の喪失、介護や生活困窮などの問題を抱え込んだり、家族との死別や離別などにより、社会的な孤立や孤独に陥ったり、閉じこもりや抑うつ状態になりやすいことから、周囲の人たちによる問題の把握が遅れ、その間に自殺のリスクが高まる恐れがあります。

高齢者の自殺を防止するためには、高齢者一人一人が健康で生きがいや役割を持ちながら生活できるよう、生きがい活動や社会参加への支援、地域での支え合いや相談体制の充実などが必要です。

また、家族や介護従事者などの支援者には、さまざまな相談・支援機関に関する情報の周知を図り、介護にかかる負担の軽減を図るとともに、早期発見・支援へとつなぐなどの対策が大切になっています。

<展開する施策>

- ◆児童生徒のSOSの出し方に関する教育
- ◆ひきこもりの長期化防止のための支援、居場所づくり
- ◆職場でのメンタルヘルス対策の推進
- ◆高齢者の生きがいところの健康づくり
- ◆介護者への支援の充実



資 料

市民アンケート調査結果	…………… 1
第四次大野市地域福祉計画の策定経過	……………23
大野市地域福祉計画策定委員会設置要領	……………24
大野市地域福祉計画策定委員会委員名簿	……………25

市民アンケート調査結果

問1 性別をお答えください。

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
男	185	39%	113	39%	72	38%
女	289	60%	170	59%	119	62%
無回答	5	1%	5	2%	0	0%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問2 年齢をお答えください。

	回答数	構成比
19歳以下	15	3%
20歳代	25	5%
30歳代	37	8%
40歳代	48	10%
50歳代	66	14%
60歳代	122	25%
70歳以上	166	35%
合計	479	100%

問3 ご職業をお答えください。

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
自営業	53	11%	38	13%	15	8%
会社員	119	25%	31	11%	88	46%
公務員	31	6%	1	0%	30	16%
パート・アルバイト	64	13%	37	13%	27	14%
主婦	44	9%	39	14%	5	3%
学生	17	4%	0	0%	17	9%
無職	137	29%	133	46%	4	2%
その他	12	3%	8	3%	4	2%
無回答	2	0%	1	0%	1	1%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問4 家族構成をお答えください。

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
一人暮らし	51	11%	42	15%	9	5%
夫婦のみ	90	19%	77	27%	13	7%
夫婦と子（2世代）	126	26%	56	19%	70	37%
夫婦と親（2世代）	42	9%	22	8%	20	10%
ひとり親と子（2世代）	27	6%	15	5%	12	6%
親と子と孫（3世代）	125	26%	65	23%	60	31%
その他	17	4%	11	4%	6	3%
無回答	1	0%	0	0%	1	1%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問5 お住まいの地区はどちらですか。

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
大野地区	223	47%	125	446%	98	51%
下庄地区	104	22%	61	218%	43	23%
小山地区	26	5%	16	57%	10	5%
乾側地区	13	3%	10	36%	3	2%
上庄地区	46	10%	33	118%	13	7%
富田地区	43	9%	26	93%	17	9%
阪谷地区	17	4%	12	43%	5	3%
五箇地区	0	0%	0	0%	0	0%
和泉地区	6	1%	5	18%	1	1%
無回答	1	0%	0	0%	1	1%
合計	479	100%	288	1029%	191	100%

問6 大野市での居住年数をお答えください。

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
1年未満	2	0%	1	0%	1	1%
1年以上～5年未満	13	3%	3	1%	10	5%
5年以上～10年未満	7	1%	1	0%	6	3%
10年以上20年未満	37	8%	5	2%	32	17%
20年以上	419	87%	278	97%	141	74%
無回答	1	0%	0	0%	1	1%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問7 お住まいについてお答えください。

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
持ち家	451	94%	275	95%	176	92%
賃貸住宅（一戸建て・マンション・アパート）	20	4%	8	3%	12	6%
公営住宅	1	0%	1	0%	0	0%
社宅など	1	0%	0	0%	1	1%
その他	5	1%	4	1%	1	1%
無回答	1	0%	0	0%	1	1%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問8 日常生活において、問題や困ったこと、不安に思うことはありますか。（○はいくつでも）

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
自分の健康に関すること	246	51%	179	62%	67	35%
家族の健康に関すること	190	40%	125	43%	65	34%
育児・子育てに関すること	41	9%	4	1%	37	19%
家族の介護に関すること	136	28%	76	26%	60	31%
仕事に関すること	81	17%	21	7%	60	31%
生活費に関すること	102	21%	60	21%	42	22%
住まいに関すること	62	13%	29	10%	33	17%
家族関係に関すること	41	9%	19	7%	22	12%
近所付き合いのこと	36	8%	18	6%	18	9%
老後の生活に関すること	258	54%	169	59%	89	47%
特に問題や不安なことはない	64	13%	37	13%	27	14%
その他	8	2%	3	1%	5	3%
無回答	4	1%	4	1%	0	0%
合計	1,269	265%	744	258%	525	275%

問9 困ったこと、不安に思うことについて、誰に相談しますか。【問15】(〇は3つまで)

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
同居の家族	284	59%	150	52%	134	70%
別居している家族	142	30%	85	30%	57	30%
親戚	74	15%	53	18%	21	11%
近所の人	26	5%	19	7%	7	4%
知人・友人	156	33%	71	25%	85	45%
職場の上司や同僚	44	9%	8	3%	36	19%
民生委員・児童委員	8	2%	8	3%	0	0%
福祉委員	7	1%	7	2%	0	0%
行政機関	20	4%	18	6%	2	1%
社会福祉協議会	12	3%	11	4%	1	1%
ケアマネジャー	21	4%	18	6%	3	2%
医療機関	43	9%	36	13%	7	4%
学校の先生や認定こども園など	5	1%	1	0%	4	2%
その他	5	1%	3	1%	2	1%
どこに相談してよいかわからないため、相談しない	35	7%	19	7%	16	8%
困ったことや不安なことがないため相談しない	20	4%	13	5%	7	4%
無回答	22	5%	21	7%	1	1%
合計	924	193%	541	188%	383	201%

問10 別居の家族・親戚とは、どの程度つきあいをしていますか。【問16】

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
常時、行き来している	161	34%	97	34%	64	34%
時々、行き来している	249	52%	146	51%	103	54%
ほとんど会うことがない	39	8%	21	7%	18	9%
一切つきあいが無い	4	1%	3	1%	1	1%
その他	3	1%	2	1%	1	1%
無回答	23	5%	19	7%	4	2%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問11 どのくらいの頻度で外出していますか。

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
ほぼ毎日	249	52%	120	42%	129	68%
2～3日に一度	88	18%	73	25%	15	8%
4～5日に一度	32	7%	28	10%	4	2%
一週間に一度	49	10%	30	10%	19	10%
半月に一度	21	4%	10	3%	11	6%
一か月に一度	19	4%	10	3%	9	5%
それ以下	3	1%	2	1%	1	1%
その他	0	0%	0	0%	0	0%
無回答	18	4%	15	5%	3	2%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問12 外出の時に、主にどのような交通手段を使いますか。

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
JRやバスなどの公共交通機関	13	3%	5	2%	8	4%
タクシー	6	1%	6	2%	0	0%
自家用車	397	86%	229	83%	168	90%
自転車	30	6%	23	8%	7	4%
徒歩	14	3%	12	4%	2	1%
その他	3	1%	2	1%	1	1%
無回答	16	-	11	-	5	-
合計	479	-	288	-	191	-

問13 あなたが考える地域の範囲をお答えください。【問8】

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
隣近所の範囲	96	21%	77	29%	19	10%
町内会・集落の範囲	249	54%	149	55%	100	53%
小学校区の範囲	36	8%	8	3%	28	15%
中学校区の範囲	2	0%	1	0%	1	1%
大野地区～和泉地区の範囲（問5の地区の範囲）	30	7%	16	6%	14	7%
大野市全体	40	9%	16	6%	24	13%
その他	4	1%	3	1%	1	1%
無回答	22	-	18	-	4	-
合計	479	-	288	-	191	-

問14 近所の方とどのようなつきあい方をしていますか。【問9】

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
困っているときには何でも相談したり、助け合ったりしている	20	4%	18	6%	2	1%
何でも相談できるとまではいかないが、内容によっては相談し、助け合える	80	17%	61	21%	19	10%
野菜のお裾分けや、おみやげのやり取りなどをする	113	24%	79	27%	34	18%
会えば立ち話をする程度	99	21%	71	25%	28	15%
会えばあいさつをかわす程度	136	28%	42	15%	94	49%
付き合いがほとんどない	17	4%	6	2%	11	6%
その他	2	0%	2	1%	0	0%
無回答	12	3%	9	3%	3	2%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問15 近所で困っている方がいた場合、お手伝いをしたことがありますか。【問10】

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
自分から進んで行っている	69	14%	42	15%	27	14%
頼まれれば手伝う	227	47%	148	51%	79	41%
手伝ったことがない	160	33%	75	26%	85	45%
無回答	23	5%	23	8%	0	0%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問16 問15で1と2に○をつけた方にお聞きします。どんなお手伝いをしましたか。【問11】(○はいくつでも)

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
ごみを出す	50	17%	29	15%	21	20%
買い物をする	25	8%	18	9%	7	7%
食事を作る	14	5%	10	5%	4	4%
話し相手をする	124	42%	83	44%	41	39%
通院などの送迎	26	9%	19	10%	7	7%
散歩や外出の同行	16	5%	11	6%	5	5%
家の掃除など	7	2%	3	2%	4	4%
草むしりなど	27	9%	19	10%	8	8%
雪かき	92	31%	43	23%	49	46%
声掛けや安否確認	90	30%	64	34%	26	25%
子どもを預かる	4	1%	0	0%	4	4%
介護（入浴、排せつ）	1	0%	1	1%	0	0%
その他	13	4%	9	5%	4	4%
無回答	10	3%	8	4%	2	2%
合計	499	169%	317	167%	182	172%

問17 問15で3に○をつけた方にお聞きします。今後、機会があれば、お手伝いしてみたいですか。【問12】

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
機会があればしてみたい	125	78%	56	75%	69	81%
してみたいとは思わない	24	15%	10	13%	14	16%
無回答	11	7%	9	12%	2	2%
合計	160	100%	75	100%	85	100%

問17で「1 機会があればしてみたい」と回答があった場合に記入してください。【問12-1】

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
時間にゆとりがあれば	46	29%	15	27%	31	45%
気持ちにゆとりがあれば	24	15%	9	16%	15	22%
一緒に活動する仲間がいれば	14	9%	11	20%	3	4%
活動する場があれば	33	21%	17	30%	16	23%
有償であれば	1	1%	0	0%	1	1%
その他	7	4%	5	9%	2	3%
無回答	35	22%	18	32%	17	25%
合計	160	100%	75	134%	85	123%

問18 現在の近所づきあいに満足していますか。【問13】

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
満足している	195	41%	115	40%	80	42%
どちらともいえない	230	48%	136	47%	94	49%
あまり満足していない	27	6%	19	7%	8	4%
不満がある	11	2%	3	1%	8	4%
無回答	16	3%	15	5%	1	1%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問19 大地震などの災害が起こった時に、家族以外の人のためにどのような助け合いができますか(〇はいくつでも)

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
安否の確認	324	68%	192	67%	132	69%
家族や親族への連絡	198	41%	130	45%	68	36%
避難情報などの伝達	172	36%	74	26%	98	51%
避難所などの安全な場所への避難への手助け	197	41%	90	31%	107	56%
生活必需品の確保	74	15%	48	17%	26	14%
介護や手当が必要な人への対応	76	16%	34	12%	42	22%
精神的なケア(声掛けなど)	102	21%	56	19%	46	24%
協力できない、難しい	57	12%	42	15%	15	8%
無回答	9	2%	9	3%	0	0%
合計	1,209	252%	675	234%	534	280%

問19で「8 協力できない、難しい」と答えた人は、なぜそのように思いますか。

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
自分の家族に年寄りや乳幼児がおり、近所まで手が回らない	9	16%	3	7%	6	40%
自分自身が支援を必要としている	32	56%	31	74%	1	7%
近所付き合いがあまりない	11	19%	6	14%	5	33%
他人のことにあまり関わりたくない	1	2%	0	0%	1	7%
行政に任せておけばよい	1	2%	0	0%	1	7%
その他	0	0%	0	0%	0	0%
無回答	3	5%	2	5%	1	7%
合計	57	100%	42	100%	15	100%

問20 地域福祉の推進を目的として活動している「社会福祉協議会」を知っていますか。【問30】

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
知っている	238	50%	167	58%	71	37%
知らない	80	17%	28	10%	52	27%
聞いたことはあるが詳しくは知らない	148	31%	83	29%	65	34%
無回答	13	3%	10	3%	3	2%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問21 地域で高齢者・児童などの見守りや相談活動をしている「民生委員・児童委員」を知っていますか。【問31】

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
知っている	310	65%	209	73%	101	53%
知らない	55	11%	18	6%	37	19%
聞いたことはあるが詳しくは知らない	101	21%	50	17%	51	27%
無回答	13	3%	11	4%	2	1%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問22 地域で高齢者などの見守りや声かけ活動をしている「福祉委員」を知っていますか。

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
知っている	231	48%	168	58%	63	33%
知らない	116	24%	40	14%	76	40%
聞いたことはあるが詳しくは知らない	116	24%	67	23%	49	26%
無回答	16	3%	13	5%	3	2%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問23 地域で活動をしていることはありますか。【問19】(○はいくつでも)

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
町内会・集落の活動	238	50%	153	53%	85	45%
子ども会（育成会）の活動	33	7%	7	2%	26	14%
老人クラブの活動	62	13%	59	20%	3	2%
青・壮年会、婦人会の活動	69	14%	36	13%	33	17%
民生委員・児童委員・主任児童委員の活動	6	1%	5	2%	1	1%
スポーツ団体などの活動	32	7%	13	5%	19	10%
文化団体などの活動	18	4%	13	5%	5	3%
P T A活動	20	4%	2	1%	18	9%
その他	10	2%	10	3%	0	0%
地域での活動はしていない	139	29%	74	26%	65	34%
無回答	17	4%	12	4%	5	3%
合計	644	134%	384	133%	260	136%

問23で10を選択した方にお聞きします。地域の活動に参加していない理由は何ですか。【問20】

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
仕事が忙しいから	28	20%	9	12%	19	29%
病気がちで健康面に自信がない	26	19%	23	31%	3	5%
介護や子育てで余裕がない	6	4%	1	1%	5	8%
活動に参加する機会がないから	28	20%	10	14%	18	28%
活動の内容がよくわからない	9	6%	5	7%	4	6%
活動の内容に不満であるから	2	1%	2	3%	0	0%
自分の趣味を優先したいから	4	3%	2	3%	2	3%
地域活動に興味がないから	14	10%	6	8%	8	12%
その他	15	11%	10	14%	5	8%
無回答	7	5%	6	8%	1	2%
合計	139	100%	74	100%	65	100%

問24 どのような目的で地域活動をしていますか。【問21】(〇はいくつでも)

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
			人数	割合	人数	割合
安心して暮らせる地域社会をつくるため	101	21%	69	24%	32	17%
地域社会においてふれあう機会をつくるため	178	37%	118	41%	60	31%
自分の職業や経験を活かし社会に貢献するため	39	8%	26	9%	13	7%
地域で活動を行うことにより自分自身の向上が図られるから	59	12%	46	16%	13	7%
福祉活動に関心があり地域社会を支えていくため	13	3%	11	4%	2	1%
地域で役員をしているため、その職務として活動をしている	70	15%	43	15%	27	14%
隣近所の人も活動に参加しているから	62	13%	27	9%	35	18%
その他	9	2%	6	2%	3	2%
地域活動はしていない	113	24%	57	20%	56	29%
無回答	53	11%	39	14%	14	7%
合計	697	146%	442	153%	255	134%

問25 住民が相互に自主的な協力関係を築くためには、どんなことが必要だと考えますか。【問17】

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
			人数	割合	人数	割合
町内会・集落が中心となって地域住民の交流活動を進めること	225	47%	135	47%	90	47%
ボランティア団体などの活動に積極的に参加をすること	18	4%	11	4%	7	4%
仕事を持つ人が地域の活動に気軽に参加をすること	41	9%	16	6%	25	13%
退職者世代が地域の活動に積極的に参加をすること	44	9%	29	10%	15	8%
サークル活動など市民参加の地域活動を活性化すること	22	5%	11	4%	11	6%
行政や社会福祉協議会が、地域の相談窓口の充実と、地域活動への支援を充実させること	59	12%	39	14%	20	10%
その他	5	1%	3	1%	2	1%
住民相互の協力は必要ない	31	6%	14	5%	17	9%
無回答	34	7%	30	10%	4	2%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問25で「8 住民相互の協力は必要ない」を選択した方にお聞きます。理由はなんですか。【問18】

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
			人数	割合	人数	割合
自分の問題は自分で解決したいから	3	10%	3	21%	0	0%
近所づきあいは、わずらわしいから	4	13%	1	7%	3	18%
プライバシーが保てなくなるから	2	6%	0	0%	2	12%
現在の生活で特に必要とは感じないから	10	32%	4	29%	6	35%
人とのつきあいは苦手だから	7	23%	3	21%	4	24%
地域社会の課題は、行政がその解決にあたるべきことであるから	2	6%	1	7%	1	6%
その他	2	6%	2	14%	0	0%
無回答	1	3%	0	0%	1	6%
合計	31	100%	14	100%	17	100%

問26 ボランティア活動をしたことがありますか。【問22】(○はいくつでも)

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
高齢者支援に関する活動	54	11%	42	15%	12	6%
障がい者（児）支援に関する活動	31	6%	12	4%	19	10%
子育て支援に関する活動	32	7%	18	6%	14	7%
まちづくりに関する活動	53	11%	39	14%	14	7%
自然や環境の保護に関する活動	62	13%	40	14%	22	12%
芸術・文化・スポーツに関する活動	67	14%	39	14%	28	15%
青少年の健全育成に関する活動	30	6%	20	7%	10	5%
国際交流に関する活動	9	2%	3	1%	6	3%
人権や差別解消に関する活動	3	1%	3	1%	0	0%
災害救助支援に関する活動	41	9%	19	7%	22	12%
その他	7	1%	5	2%	2	1%
活動をしたことはないが興味はある	148	31%	89	31%	59	31%
活動しようと思わない	64	13%	30	10%	34	18%
無回答	39	8%	38	13%	1	1%
合計	640	134%	397	138%	243	127%

問27 ボランティア活動に参加をするためには、どのような条件が必要だと思いますか。【問24】(○は3つまで)

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
時間に余裕があること	297	62%	146	51%	151	79%
自分が健康であること	352	73%	235	82%	117	61%
家族に病気の人がないこと	100	21%	67	23%	33	17%
家族の理解が得られること	88	18%	59	20%	29	15%
自分の趣味や仕事の経験が活かされた活動ができること	71	15%	49	17%	22	12%
一緒に活動する仲間がいること	129	27%	72	25%	57	30%
ボランティアに関する学習会やボランティアを体験する機会があること	36	8%	20	7%	16	8%
ボランティア活動費の支援があること	24	5%	5	2%	19	10%
ボランティア活動に関する情報の提供があること	78	16%	37	13%	41	21%
その他	6	1%	2	1%	4	2%
無回答	24	5%	22	8%	2	1%
合計	1,205	252%	714	248%	491	257%

問28 有償ボランティアについて、どのように考えますか。【問25】

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
ボランティア活動を受ける人が、相応の負担をすることは、気兼ねせずにサービスの提供が受けられるので良いと思う	85	18%	40	14%	45	24%
ボランティア活動を受ける人が、団体の運営活動費となる程度の負担をすることは良いと思う	82	17%	46	16%	36	19%
ボランティア活動を受ける人が、交通費程度の負担をすることは良いと思う	95	20%	55	19%	40	21%
ボランティア活動は無報酬で行うべきであると思う	103	22%	66	23%	37	19%
わからない	80	17%	51	18%	29	15%
その他	3	1%	2	1%	1	1%
無回答	31	6%	28	10%	3	2%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問29 「福祉」について、どのようなイメージをお持ちですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。【問26】

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
			人数	割合	人数	割合
所得が少ないなどの事情から生活することが困難な人を行政機関が救済すること	46	10%	30	10%	16	8%
高齢者、障がい者、子どもなどのために、行政機関が必要な施設を整備して支援すること	161	34%	78	27%	83	43%
日常生活に困っている人をみんなの善意で助けること	65	14%	52	18%	13	7%
市民の誰もが利用する可能性のある社会サービスのこと	162	34%	95	33%	67	35%
その他	0	0%	0	0%	0	0%
わからない	22	5%	13	5%	9	5%
無回答	23	5%	20	7%	3	2%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問30 福祉サービスのあり方と、その財源(税金や利用料の負担)についてあなたの考えに最も近いものを選んでください。【問27】

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
			人数	割合	人数	割合
税金や利用料の負担が増えても、福祉サービスを充実させるべきである	57	12%	25	9%	32	17%
税金や利用料を増額させないで、福祉サービスは現状維持とすべきである	105	22%	62	22%	43	23%
福祉サービスの一部を市民や福祉団体・行政と協働で進めていくことにより、税金や利用料だけに頼ることのない仕組みを築いていくべきである	217	45%	124	43%	93	49%
その他	4	1%	3	1%	1	1%
わからない	67	14%	46	16%	21	11%
無回答	29	6%	28	10%	1	1%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問31 福祉サービスなどの情報をどのような方法で入手していますか。【問28】(〇はいくつでも)

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
			人数	割合	人数	割合
市の広報紙	294	61%	185	64%	109	57%
新聞・チラシ・雑誌など	114	24%	82	28%	32	17%
インターネット	71	15%	17	6%	54	28%
行政機関	78	16%	54	19%	24	13%
社会福祉協議会	45	9%	36	13%	9	5%
福祉施設(高齢、障がい)	50	10%	33	11%	17	9%
在宅介護支援センターや障害者相談支援センター	25	5%	20	7%	5	3%
家族・親戚	56	12%	26	9%	30	16%
知人・友人や近所の人	85	18%	57	20%	28	15%
情報の入手先がない	14	3%	7	2%	7	4%
情報の入手手段がわからない	49	10%	27	9%	22	12%
その他	5	1%	3	1%	2	1%
無回答	24	5%	20	7%	4	2%
合計	910	190%	567	197%	343	180%

問32 地域で福祉サービス活動が十分行われていると思いますか。【問29】

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
			人数	割合	人数	割合
十分行われている	44	9%	25	9%	19	10%
どちらともいえない	322	67%	188	65%	134	70%
不十分である	48	10%	28	10%	20	10%
その他	9	2%	7	2%	2	1%
無回答	56	12%	40	14%	16	8%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問33 この1か月の間に、日常生活の不安や悩み、ストレスを感じたことがありましたか。

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
おおいにあった	77	16%	35	12%	42	22%
多少あった	196	41%	109	38%	87	46%
あまりなかった	156	33%	103	36%	53	28%
全くなかった	29	6%	21	7%	8	4%
その他	1	0%	0	0%	1	1%
無回答	20	4%	20	7%	0	0%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問34 不安や悩み、ストレスなどつらい気持ちを受け止めてくれる人、耳を傾けてくれる人はいますか。(〇は1つ)

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
いる	409	85%	238	83%	171	90%
いない	46	10%	28	10%	18	9%
無回答	24	5%	22	8%	2	1%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問34で「1 いる」と答えた方に質問です。それはどなたですか。

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
同居の親族	286	70%	155	65%	131	77%
同居していない親族	127	31%	74	31%	53	31%
知人・友人	156	38%	80	34%	76	44%
近所の人	26	6%	17	7%	9	5%
職場の上司や同僚	53	13%	6	3%	47	27%
学校の先生	2	0%	0	0%	2	1%
医療機関	22	5%	18	8%	4	2%
相談機関	7	2%	6	3%	1	1%
その他	5	1%	5	2%	0	0%
無回答	3	1%	1	0%	2	1%
合計	687	168%	362	152%	325	100%

問35 不安や悩み、ストレスの原因はなんですか。(〇はいくつでも)

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
家族関係	85	18%	44	15%	41	21%
病気や健康の問題	230	48%	174	60%	56	29%
経済的な問題	122	25%	64	22%	58	30%
仕事の問題	138	29%	33	11%	105	55%
子育ての問題	26	5%	4	1%	22	12%
介護の問題	80	17%	62	22%	18	9%
男女関係の問題	6	1%	1	0%	5	3%
学校の問題	17	4%	2	1%	15	8%
その他	20	4%	10	3%	10	5%
無回答	51	11%	45	16%	6	3%
合計	775	162%	439	152%	336	176%

問36 日常生活での不安や悩み、ストレスを解消するためによく行うことは何ですか。

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
食べる	139	29%	57	20%	82	43%
買い物	119	25%	64	22%	55	29%
旅行やドライブ	96	20%	49	17%	47	25%
家族や友人と話をする	226	47%	131	45%	95	50%
趣味を楽しむ（音楽・スポーツなど）	174	36%	89	31%	85	45%
信頼できる人に相談する	61	13%	35	12%	26	14%
専門機関に相談する	11	2%	9	3%	2	1%
眠る（休養）	148	31%	69	24%	79	41%
お酒を飲む	82	17%	38	13%	44	23%
タバコを吸う	22	5%	8	3%	14	7%
賭け事をする	10	2%	5	2%	5	3%
その他	9	2%	3	1%	6	3%
特に何もしない	32	7%	26	9%	6	3%
無回答	24	5%	22	8%	2	1%
合計	1,153	100%	605	210%	548	287%

問37 ひきこもりや不登校を経験したことがありますか。

※ひきこもりとは、仕事や学校に行かず、6か月以上自宅にひきこもっている状態をいいます。

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
ある	20	4%	10	3%	10	5%
ない	424	89%	246	85%	178	93%
無回答	35	7%	32	11%	3	2%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問37で「1 ある」と答えた人に聞きます。ひきこもりや不登校の内容を教えてください。

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
自室からほとんど出ない	1	5%	0	0%	1	10%
自室からは出るが家からは出ない	8	40%	4	40%	4	40%
普段は家にいるが、近所のコンビニなどに買い物には行く	4	20%	2	20%	2	20%
普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の際は外出する	6	30%	4	40%	2	20%
無回答	1	5%	0	0%	1	10%
合計	20	100%	10	100%	10	100%

問38 自殺を考えたことがありますか。

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
自殺を考えたことはない	388	81%	230	80%	158	83%
自殺を考えたことがある	50	10%	20	7%	30	16%
無回答	41	9%	38	13%	3	2%
合計	479	100%	288	100%	191	100%

問38-1 問38で「2 自殺を考えたことがある」と回答した場合、記入してください。

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
最近1年以内に自殺したいと思ったことがある	15	30%	3	15%	12	40%
最近1年以内に自殺したいと思ったことはない	33	66%	15	75%	18	60%
無回答	2	4%	2	10%	0	0%
合計	50	100%	20	100%	30	100%

問39 自殺をなくすために重要と思われることはなんですか。(〇はいくつでも)

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
地域のコミュニティを通じた見守り、支え合いなどネットワークの強化	146	30%	100	35%	46	24%
自殺予防に関する情報提供など市民への啓発と周知の推進	57	12%	34	12%	23	12%
自殺対策を支える人材の育成	90	19%	42	15%	48	25%
多重債務者、失業者等に対する相談窓口の充実	100	21%	48	17%	52	27%
生活困窮者等に対する相談支援	130	27%	79	27%	51	27%
子ども・若者の自殺予防（いじめ対策、児童生徒のSOSの出し方に関する教育等）	196	41%	84	29%	112	59%
高齢者等のうつ予防や介護者に対する支援	200	42%	124	43%	76	40%
ひきこもりの支援（居場所づくり、相談窓口の充実）	129	27%	60	21%	69	36%
その他	16	3%	5	2%	11	6%
無回答	58	12%	51	18%	7	4%
合計	1,122	234%	627	218%	495	259%

問40 大野市の地域福祉施策で、充実していると感じる取り組みはどれですか。(〇は3つまで)

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
健康や福祉についての情報提供	126	26%	89	31%	37	19%
市民活動への支援	46	10%	25	9%	21	11%
健康づくり・生きがいづくり活動	108	23%	73	25%	35	18%
在宅福祉サービスの提供	61	13%	45	16%	16	8%
支援が必要な人への見守り活動	39	8%	28	10%	11	6%
気軽に相談できる場所や体制	41	9%	30	10%	11	6%
公共交通の利便性	29	6%	21	7%	8	4%
各種手当の支給や公的補助	39	8%	17	6%	22	12%
地域で活動できる場や機会の提供	34	7%	21	7%	13	7%
地域で支え合うネットワークづくり	14	3%	9	3%	5	3%
子育て環境	61	13%	19	7%	42	22%
道路や公共的施設のバリアフリー化	25	5%	8	3%	17	9%
無回答	145	30%	96	33%	49	26%
合計	768	160%	481	167%	287	150%

問41 大野市の地域福祉施策を今後、より充実していくために、あなたが重要と考える取り組みはどれですか。(〇は3つまで)

	回答数	構成比	60歳以上		60歳未満	
高齢者や障がいのある人等の在宅福祉サービスを充実させる	140	29%	97	34%	43	23%
高齢者や障がいのある人等の入所施設を充実させる	173	36%	109	38%	64	34%
高齢者や障がいのある人等が地域で活動できる機会をつくる	71	15%	40	14%	31	16%
住民がお互いに支え合い助け合えるまちづくりをすすめる	102	21%	73	25%	29	15%
健康づくりや生きがいづくりが盛んなまちづくりをすすめる	119	25%	71	25%	48	25%
隣近所など、周囲の理解と協力による見守りなどの支援を行う	38	8%	28	10%	10	5%
人が集まり、気軽に相談できる場を充実させる	79	16%	45	16%	34	18%
安心して子どもを生き育てられる子育て環境を充実させる	145	30%	67	23%	78	41%
健康や福祉についての情報提供を充実させる	39	8%	28	10%	11	6%
ボランティア団体など市民活動への援助を充実させる	16	3%	10	3%	6	3%
交通の利便性の向上をすすめる	125	26%	59	20%	66	35%
道路の段差解消など、バリアフリー化をすすめる	18	4%	9	3%	9	5%
手当など経済的な支援を充実させる	74	15%	25	9%	49	26%
その他	4	1%	3	1%	1	1%
無回答	35	7%	30	10%	5	3%
合計	1,178	246%	694	241%	484	253%

市民アンケート調査の自由意見

問42 地域で安心して暮らせるまちづくりを進めていくためのご意見・ご要望

※支えあいによるまちづくり

<p>40代でフルタイム勤務のため、近所付き合いが私自身気薄になっています。定年退職後近所の方と親身に付き合えるかと不安に思うこともあります。もっと普段から地域場に出ないと普段から思いますが、なかなか実行できません。町ぐるみでのイベントなどあれば参加してみたいです。</p>	(女、40歳代、会社員)
<p>区民のコミュニケーションを大事にしていく事が一番である。</p>	(男、70歳以上、無職)
<p>近所の人同士が仲良く話し合えたらいいと思う。現実には交流があまりないと思う。見栄をはり正直な気持ちを出さないから。</p>	(女、70歳以上、自営業)
<p>福祉に関わる人が自ら活動し声かけをする。何をしているのかサラリーマンからしたら全く分からない。広報紙は忙しくて読まない。私の仕事が定年になれば福祉に対する考え方は変わるだろうと今は思う。素人相手なので分かりやすく活動すれば少しは参加しやすいかも。</p> <p>昔のような近所付き合いは今の時代無理だと思う。必要性も感じない。インターネットの時代になるのでLINEなどを活かした防災対策はとてもいいと思った。近所だから無理に付き合いしないといけないと思うとストレスになって、地域から孤立してしまう人もいると思う。大野人は事なかれ主義が多く本心をため込んでいる人は多いと思うので、こういうアンケートはいいと思う。一部の人の意見でなく、多くの人の意見を大切にして欲しいと思う。これからは頑張ってください。ありがとうございました。</p>	(男、40歳代、会社員)
<p>今住んでいる地域では町内会の活動が盛んに行われていますが、若い世代に頑張ってもらいたいと声をかけられますが、仕事があり参加できません。不定休の仕事に理解もありません。昔からの風習や考えにとらわれすぎていて、頑張ってもらいたいという割には柔軟な考えを持っていない地域が多くあるように思います。仕事をしながら子育てをして地域の事まで手が回りません。高齢者や障害者、子どもにやさしい地域づくりも大切だとは思いますが、働き世代、子育てをしている世代に優しい地域づくりが必要だと思います。</p>	(女、30歳代、会社員)
<p>近所同士の付き合いが昔より無くなってさみしく思っていました。心を掘り起こされる気持ちでした。ありがとうございました。</p>	(女、70歳以上、自営業)
<p>どのお家にどんな人が何人住んでいるのかを近隣の人たちがしっかり把握していく事が大切だと思う。また困っている人がどんなことを人にお願いたいか、一緒にして欲しいかを伝える機会を作り、それを地域の人に伝えていくのも必要だと思う。民生委員だけに任せていたら民生委員の負担も大きいと思うので地域で共有する事。</p> <p>これからの時代在宅介護や老々介護によるストレスや疲れも増えると思うので、そういった事に対するケアやスーパーに買い物に行く代行なども情報もオープンにして利用者を増やすと便利場と思う。</p>	(女、40歳代、自営業)
<p>町内、近所の助け合いは凄く大切だと思います。</p>	(女、40歳代、自営業)
<p>住民相互の協力関係については、「出来る時に出来る人がする」という気持ちを個々が持つこと。それぞれ事情がある為、一律にみんなが平等にしなければならないと考えることが大切だと思う。</p>	(女、40歳代、会社員)
<p>一昔前のように地域の輪に参加しなければという意識が無くなり、婦人会・長生会の会員が減り運営がだんだん難しくなっている。</p> <p>行政機関から地域交流情報があっても参加する人が限られ強制もできないので悩んでいる。</p> <p>時にとっては一家に一人参加とか無理にでも出席してもらい、終わった後の充実感を味わってもらいたい。</p>	(女、60歳代、主婦)
<p>近所の方々の親切や友情・協力的態度、子どもの頃の関わりに気を配る事などがもともとあって、誰かが高齢になっても本当に相手を助ける気持ちが湧いてくるものではないかと高齢になった今、心から感じます。子どもから老人までのつながりと身の回りの方々皆に深い愛情をもって付き合っていく事が大切だと感じます。</p>	(無回答、無回答、無回答)
<p>近所の方が困っていたら、自分のできる限りの範囲で力を貸したいと思っています。現在はフルタイムで働いていて時間に余裕もないので、退職後少しでも地域に貢献しようと思っています。</p>	(女、50歳代、その他)

60代夫婦で水田と畑をしており、これから先元気でいれば15年頑張れるかなと2人で言っていますが、息子は離れて生活しているのでどうなっていくのだろうと不安でなりません。元気で明るく生活できるように、色々な人とのつながりも持ちたいと思うので、仕事を辞めてからも何か社会の役に立つことが出来ればと思います。今はコロナウィルスの事で世界中が大変です。何事もなく日々生活できることがどんなに幸福か痛切に感じさせていただきます。感謝を持つ心が今だ々と家族でも話しています。	(女、60歳代、主婦)
各地域の福祉委員がもっと活動を広げていただけたらいいと思います。	(女、60歳代、無職)
今後も一人二人暮らし、更に単身世帯増が考えられる。まずは自分の住んでいる地域(集落)の現状把握。次に声掛け・見守りの実施。安否確認を行うことによって、最低限の安心が得られると思う。	(女、60歳代、パート・アルバイト)
人を思いやる心を忘れて今日において地域といっても大変難しい。自殺者を無くすには上に立つ人の思いやり以外にはない。生徒さんはたくましくなって欲しい。なんどきでも家族に相談できる勇気をもって。	(女、70歳以上、主婦)
福祉委員として二年目で少し活動について理解出来てきた。子ども見守り隊をして7年になるが、私たちは子どもから元気をもらっている。	(男、70歳以上、パート・アルバイト)
敷地内に4軒で住んでいます。核家族みたいなものだけど何かあったら12人で集り助け合いの生活です。子どももいて毎日がとても楽しいです。	(女、70歳以上、無職)
地域の福祉委員、民生委員、健康推進委員、区長、各班長、役員さんが協力してひとり暮らし・二人暮らしの・気になる自宅をマップで調べて週に1~2回訪問する、見守るといふ体制が必要なのではないのでしょうか。	(女、60歳代、主婦)
子がおらず身寄りがいない場合の終活について考えることがあります。民生委員などのボランティアの方の活動が頼りになると思います。	(女、40歳代、公務員)
今は自分で運転して買い物に行ける両親が、2~3年後には免許を返して自由に動けなくなる事が気になります。近所の方も自転車に乗れなくなって、歩いてスーパーに出かけているので時々一緒に買い物に誘っています。色々なサービスや公共機関を使うのも大事ですが、日頃から近所の方との付き合いがお互いの助け合いにつながるのではないかと思います。	(女、50歳代、会社員)
一人一人が出来る限り積極的に地域の活動に参加して色々関わって支え合う暮らしが大切。	(女、60歳代、パート・アルバイト)
区長会を中心とする集落内の実態調査。問題点の把握とそれを解決していくための行政からの助言・指導等。各集落の共通点の問題を地域の社会福祉協議会が中心となって連携して解決していく。 私がかつて地区の社会福祉協議会の一員として老人会の代表として参加したことがあるがかなり充実していると思う。このようなきめ細かい活動が市民の安心につながると思う。	(男、70歳以上、無職)
町内の家がいつの間にか無人になって、くちはてていく行ってしまうのを見るのは寂しいです。区長さん・民生委員さんの方ばかりに押し付けないで、住民みんなで見守りが出来たらひとり暮らしの方、家族の方も安心できると思います。	(女、60歳代、パート・アルバイト)
親の介護について考えなければならない時期が来ました。お金を払えばきれいな施設に入居できることが分かりました。でも、なるべく家で介護したいと思っています。その為のサービスも充実していると幸いです。 子どもの就職についても子どもの力が生かせる職場がたくさんあればいいと思います。親の勝手で近くにして欲しいと思いませんが、子どもの方から大野に住みたいと思ってもらえるまちづくりが出来たらいいと思います。色々なイベントで観光客を呼ぶことが多く計画されることはいいことだと思います。	(女、50歳代、公務員)

※高齢者福祉について

空家を利用してお年寄りが集まり人と会話できる場所があると、日中1人のお年寄り楽しく過ごせるのではないのでしょうか。	(女、60歳代、主婦)
高齢者が趣味や生きがいを持てるような高齢者の大学などを作って欲しい。あるのなら教えて欲しい。鯖江市にあると聞いたことがあるので習ってみたらどうでしょう。	(女、60歳代、主婦)
お年寄りの暇つぶし場所を作って欲しい。	(男、60歳代、会社員)

介護タクシーの利用をもっと増やすといいと思います。たぶん現時点では2ヶ所しかないと思いますが、もっと高齢者の利用してもらえよう考えていただけるといいと思います。	(女、60歳代、主婦)
両ひざ、腰が悪く歩行困難。老人会のサロンを毎回楽しみにしています。80過ぎて自転車で行ってます。	(女、70歳以上、無職)
年をとるにつれて自分で運転できるのはいつまでかと思います。阪谷地区は不便です。もっともこの地域が過疎にならないように支援して欲しい。避難場所も阪谷公民館と。お年寄りをどう一緒に連れていくか、自分でも精一杯なのに近所にも助けてあげられない。教えて欲しい。	(女、60歳代、主婦)
高齢者のひとり暮らしの集いなどを月に1度ぐらいして欲しい。	(女、70歳以上、無職)
高齢者が増える中、若い介護職に就かれている方が職場をやめないように考えてもらいたい。又、介護の免許がない人でも力になれるように、補助の仕事がしやすいように呼びかけを広報等をお願いします。	(女、60歳代、主婦)
ひとり暮らしでも安心して暮らせる施設があるといい。(安心して死ぬる場所)	(男、60歳代、無回答)
リタイアさんへの生きがい教育。	(男、60歳代、無職)
介護の仕事をしていますが、お年寄りを施設に預けて家族は家にいるのを見ていると在宅で訪問介護で見て欲しいと思います。お年寄りも家に帰りたいといいます。介護は本当に大変です。給料は安いし、若い人はおらず人材不足です。パートも常勤も同じ仕事してもボーナスは出ず給料は上がりません。みんな疲れてストレスがたまり余裕がありません。もっと市で年配の人が楽しめるリハビリ、カラオケ、娯楽等気楽に行ける場所があるいいと思います。福井県出身の男の人がカラオケで体操を教えている人がいると聞いたことがあります。	(女、60歳代、パート・アルバイト)
ひとり暮らしでの心配ごとでトイレ・風呂などで緊急事態発生時110番・119番につながる連絡網が欲しい。110番・119番に連絡して意識不明になった時に強制的に玄関のドアを開けて入る事を可能にして欲しい。	(男、70歳以上、無職)
高齢者が多いので、老々介護をしているという話をよく聞きます。もちろん介護施設を利用していますが、手の届かない所が多々あり悩んでいる人がいます。細やかな支援が必要ではないでしょうか。	(女、70歳以上、無職)
高齢者が元気である為に色々な場、外に出て一人でも多くの人と接することが出来るような行事を考えて欲しい。	(女、50歳代、主婦)
若い人は市街地に住み、80以上の手足の不自由な人がいます。施設入所は嫌がるし、そんな人の支援はどうすればいいのでしょうか。	(女、70歳以上、自営業)
介護をしている人が集まるカフェがあるといい。	(女、60歳代、会社員)

※子育て支援について

つい最近妻が子どもを出産し初めての育児に大変ながらも毎日充実しております。大野市は子どもの数も減少し、学校もなくなると聞きました。これから先子どもも大きくなり、小学校へと上がりますがそういったところが不安です。	(男、30歳代、会社員)
2年前に子ども家族が都会から帰ってくるようにしましたが、大野市は学校再編案等があり田舎に帰ってこいとは言えなかった。子育てが1番の課題だったので福井市内に決めた。少数児童でもTVCMでは遠隔授業が可能だと言っている。地域に学校がないと疲弊する。 市政は右に倣えて他市と同様な取り組みや施策を打ち出しているが、理不尽な項目があっても庶民から見ても現実とかけ離れている。「おかしいとおもわないの?」と聞いても「決まりなので」の一本調子の返事。公務員はもっと問題意識をもって市民の声を吸い上げ、上申するシステムを構築すべきだと思います。大野は何となく良い所だけど、市の姿勢は職員の態度・心構えに反映していて魅力は感じない。	(男、60歳代、自営業)
福祉や子育てに対して大野市の支援。体協に対しての補助金の充実。 市内で働く職場の近くの保育園に入れず私立の保育園に入りましたが、平日の行事の為仕事に支障がでることがあるので市立の保育園の充実をお願いしたい。	(女、60歳代、会社員)

<p>子どもの遊び場を増やして欲しい。特に室内で遊ぶ場所がなさすぎる。あっても狭くて行きづらい。池田町のような木を作った室内遊びなど、大野が発展できるように考えて大きな室内遊び場があるといい。（廃校になった学校等をうまく活用する。）</p>	(女、30歳代、会社員)
<p>小学校の子どもがいるので今後学校でいじめが起らないか不安です。先生たちや大人たちがいじめ防止のための教育や見守りを日常的にしっかりして欲しい。</p>	(女、30歳代、自営業)
<p>保育園でもいじめや仲間はずれがあり、そのまま小学校に行っても続いているそうです。自分の子がと思うと不安です。このような事が無くなるように力を入れて欲しいです。</p>	(女、30歳代、自営業)

※高齢・障がい・子育て等福祉全般

<p>各施策が市民福祉向上につながる様な事業展開をしてください。福祉サービスを受けるのはすべて申請制だと思います。窓口の充実、窓口に行けない人の対処など考慮すべきかと。</p>	(女、70歳以上、無職)
<p>障がい児の預かり施設・人員の充実。</p>	(男、50歳代、公務員)
<p>福祉というどうしても支援が必要な高齢者を想定しがちですが、市民サービスへの声として顕在することが少なくない若年層や勤労者層に対する福祉サービスも検討すべきだと思います。若年層にはまず将来への投資としてのサービスをすることで、大野市に定住してもらい事が現役世代の安心につながると思います。持続的コミュニティを形成することが全体福祉の充実をはかるために急務だと思います。</p>	(男、20歳代、会社員)
<p>子どもや高齢者が安心して住めるまちづくりをお願いします。子どもが大人になっても住みたいと思うまちづくりをお願いします。</p>	(女、40歳代、公務員)
<p>専門的な相談が必要であり、気軽に相談できるようにしてほしい。</p>	(男、60歳代、自営業)
<p>健康なうちはある程度不自由なく過ごしているが、この先一人になった時、老後の生活を考えると不安はあります。将来的にも住みやすい大野市になって欲しいと思います。</p>	(女、40歳代、会社員)
<p>障がい者が地域へ気兼ねなく出ていける、仕事ができる、親がいなくなった時、一人で生きていける社会作りをして欲しい。</p>	(女、50歳代、公務員)
<p>信頼できるかかりつけ医がない。 知らない人と出会い頭に挨拶が出来たらよいと思う。町内の子どもたちは挨拶していますが、その親は知らん顔。お年寄りにも挨拶ぐらいはしてほしい。</p>	(女、70歳以上、パート・アルバイト)
<p>大野市は入院出来る病院が少なくこれからどうなるか心配です。</p>	(女、70歳以上、無職)
<p>福祉サービスの充実が必要です。</p>	(女、70歳以上、無職)
<p>現状に満足せずこれからの社会を作り上げていく世代の人が大野に興味を持てるようにしていくと、明るい大野市を作り上げていけるのではないのでしょうか。介護してもらおうという人が減り、これからの世代の人達希望を抱ける大野市にしていって欲しいです。若者に頼りすぎず自分達の足で歩いていきましょう。</p>	(女、30歳代、会社員)
<p>福祉にお金がかかりすぎる。公的負担が多く福祉産業はもうかる。自己責任のない人も同じ権利で不平等。（仕事しない人、悪い事をする人、結婚しない人、税金払わない人も福祉は平等）国民は権利は当然で義務はしらはおかしい。</p>	(男、60歳代、自営業)
<p>大きな税収入がないであろう大野市ですが、医療・福祉を充実させ安心して暮らせるようお願いいたします。</p>	(男、20歳代、その他)
<p>介護タクシーを増やして欲しい。</p>	(女、70歳以上、無職)

※生活環境について

<p>交通の利便性の向上をお願いしたい。高校生がまちなか循環バスで通学できるようにしてください。現状では平日の朝だけしか時間に間に合わない。大野から医大や勝山駅まで、バスで通院できるようにしてください。市内の高齢者が、車が無くても生活できるようにしてください。 市内在住の大学・専門学生への支援・奨学金の充実をお願いしたい。大野に住みながら学びたいが、通学・授業料に大変な金額がかかるので不安です。 子ども・療養中の大人・高齢者に優しい大野市になって欲しい。</p>	(女、40歳代、パート・アルバイト)
---	--------------------

免許返納とよく聞くと、病院や買い物に不便を感じる。乗り合いバスは連絡したり、時間が合わない。もっと利便性を考えて欲しい。まちなかバスは町を走るだけで、郡部には何も来ない。まちなか整備は町なかの人だけで郡部の事は考えていないのではないかな。	(男、60歳代、パート・アルバイト)
私の家は集落の一番上の方にあり幹線道路から離れているので、途中電柱を立てて電灯をつけて欲しい。除雪を自分でやっているが高齢で厳しくなってきたので、除雪車を入れて欲しい。という話を市役所・議員にも要請したところ、「1軒だけの要望では動けない。2件要望ないと該当しない。」とつれない返答だった。夜間の安心・大雪の際の除雪の点で大いに不安である。	(男、70歳以上、会社員)
雪が降った時の除雪はありがたいが歩道も除雪してもらえると安心して歩けるのでお願いしたいです。 悩み事や相談ごとがある人や高齢者の方同士が話したり、その解決に策について話合える場所があるといい。	(女、19歳以下、学生)
①公共交通について 大阪からUターンしてきましたが車の免許を持っていません。自転車を利用していますが、ひとり暮らしなので冬場や雨の日の移動が大変です。「まちなかバス」を利用してもらい、定期が安くて助かっていますが本数が少ないです。税金を多く投入しているのは分かりますが本数を増やして欲しいです。定期は倍額でもいいので本数を増やせば利用者も増えると思います。昔はもっと広いエリアでバスが走っていましたがもはや完全な車社会ですね。SDGSはどうなんですかね。 ②バリアフリーについて 車いすで歩道に行くというのはほぼ無理な環境です。がたがたです。電動車いすで移動している人もほぼいません。「みなさん車移動なので」という事でしょうね。あちこちでアスファルトのつなぎ目(割れ目?)が5センチくらいの幅で長く続いていて車いすはもちろん、自転車のタイヤがはまりそうでこわいです。大野は川が多いので倒れるとはまります。町中くまなく点検して欲しいです。その他は不足なく生活できています。ありがとうございます。	(女、60歳代、無職)
田舎なのに時々驚くような軽犯罪が起きるので、防犯カメラの設置を呼び掛けるなり、主要な場所には取り付けをしていただきたい。	(女、50歳代、自営業)
娘は障がいがある為、意見を聞いて代筆しました。(母) 自転車にも乗れないし、免許もないので出かけるにはバスが必要です。もっと乗りやすい時間、経路にしてください。バス停に屋根が欲しいです。バスが何時に来るかもっと分かりやすくしてください。 ダンスの練習をしているが大きな鏡がある施設がなくて困っています。福井市・勝山市にあるような練習場を大野にも作って下さい。手芸や・料理など習い事をしたけれど通える場所が無いので作って下さい。 学校を卒業したら友達となかなか会えなくなるのでえがおの教室みたいに、仕事帰りによってみんなと話したりできる場所が欲しいです。買い物やカラオケなども行きたいけどお母さんが仕事だといけません。ヘルパーさんが少ないのもっと増やして欲しいです。	(女、19歳以下、学生)
市内をまわるバスの停留所のある場所が不便です。それと勝山方面・福井方面へ行くバスの時間の間隔があきすぎて使いづらいです。勝山病院へ行く時なんかも特に大変です。車のない老人には特に大変です。 道路の草刈りの回数をもっと増やすことは無理でしょうか?こぶしの木やいちょうの木なんかはものすごいものです。何か良い解決策をお願いいたします。	(女、70歳以上、無職)
市民一人一人が交通規制・社会的秩序を守る事で快適に暮らせると思います。	(女、60歳代、パート・アルバイト)
バスの乗り場・降り場が遠く、足腰が弱いので大変。	(女、70歳以上、無職)
車優先の道路では歩行者は水路に蓋をしたグレーチングの上を歩いているのが納得いかない。そして公共交通機関は不便になる一方。 安心してかかる病院が少ない。 道路に街灯が少なく、夜歩く時や学生の下校時、特に冬は危険で防犯上もよろしくない。	(女、50歳代、主婦)
大野市には病院がないのが困ります。	(男、70歳以上、公務員)

※ボランティア活動について

今介護の真っ最中なのでボランティアとかサークル活動など考えられません。	(女、70歳以上、無職)
-------------------------------------	--------------

行政や社協に頼らず、一市民も気軽に参加できるボランティア活動の提供をお願いします。元気な高齢者も多いので協力を求めています。いかがでしょうか。	(女、60歳代、会社員)
---	--------------

※市の活性化、まちづくりについて

集落・地域・地区の伝統行事を若い世代に引き継がれるよう行政の応援をお願いしたい。若い人はほとんど勤めていて、休日は観光地に出掛けるので伝統行事に関心がない。	(男、70歳以上、自営業)
防災計画を兼ねた集会場が欲しい。地区の集会場は古く、修理にお金がかかる。災害で避難場所が変わるので、高齢者や障害者には困るので近い所でお願いしたい。	(男、70歳以上、無職)
若い人が安心して暮らせる場所の充実。住宅を楽に求められる。子どもを育てることを考える事など。	(男、50歳代、公務員)
過疎化防止で活力がある市へ（企業誘致等）健康長寿にむけ75歳以上の検診者枠を増やしていただきたい。	(男、70歳以上、パート・アルバイト)
将来の大野を支える子どもたちが大野を好きになり大野で暮らしたいと思える環境が必要と考える。大野の独自性を持った教育・支援が必要ではないでしょうか。安心して暮らしていけるためには、若者が大野に残って色々な活動に参加してもらえる事だと思います。彼らが参加しようと思う活動・イベントを作り大野を支えていると実感してもらえる事が必要だと思う。 顔見知りがたくさん作れる場を作っていく事も大切だと思う。市内・市外・県内・県内問わず大きなネットワークを作り、大野が発展する事も安心した暮らしを作ることにつながると思う。若者の人口を増やすことを考えて欲しい。そのために大野市が何ができ、何をすべきかを考えこの先10年、20年後の大野市の発展のために安心した暮らしを迎えられるために計画を作って欲しいです。	(男、40歳代、会社員)
皆が自由に気兼ねなく集まれる場所、公民館等を月に1～2回は鍵などかけず開放する。	(女、70歳以上、無職)
これから就職・結婚・出産・子育てをする若い方が安心して生活できるためには、働く環境・働きやすい環境・働く職種の選択肢がある程度あるという事が大切だと思います。子どもやお年寄りを本当の意味で支えられる（経済的にも体力的にも意欲的にも）のは現役で働く世代だと考えるからです。中部縦貫道の全線開通や北陸新幹線の福井開業など交通網の整備が着々と進んでいる今、ぜひとも大野市への企業誘致にもっと力を入れていただけたらもっと活力のある町になるのではないのでしょうか。大野市が目指している市民一人一人が安心して暮らしていくためには、やはりある程度の収入がどの人にも必要だと思います。それによって気持ちに余裕が生まれ、時間にも余裕が生まれるのではないかと思います。古来より受け継がれる「結」の精神は一人一人に息づいています。余裕のなさがそれを阻害していると思います。もっと活発な経済活動が生まれるようお願いします。	(女、30歳代、パート・アルバイト)
年をとっても誰もが安心して自分らしく暮らせるまちづくりをして欲しいと思います。大野に総合病院を作りたい。	(女、60歳代、パート・アルバイト)
安心して暮らせるまちづくりを市役所の人たちだけで作り出そうとしても限界がある。大野市民に働きかける必要があるが、そもそも大野市民にはこのような社会形成をする気持ちがあるのかという事について疑問を持つ。一人一人にとって安心できる町というのは少人数によって形成できるものではない。まずはこのようなまちづくりにあたっての意識調査を行い、結果を市民たちに強く訴える必要がある。国民主権となって100年近かった今、その権利の上で眠る国民が多くなっている。特に若者。時がたち人々が個体とともに入れ替わっていくため、入れ替わった若者たちは無知。それを知っている人が教え引き継ぐ必要がある。すべきことは市民一人一人の意識を変える事であり、それが出来なければ安心できる町形成は絶対に出来ない。	(男、19歳以下、学生)
若者に対して住みよい町にするとよい。進学で県外に出ていくばかりで戻ってこないの、どんどん高齢者が増える。高齢者も増えて大変だが、若者に対して戻ってきたいと思うまちづくりも大事。	(女、20歳代、会社員)
私の地域では私を含め高齢者ばかりです。同居している家族も少ない。アンケートだけではよいまちづくりはなかなか大変です。行政だけでなく、我々も大変不安です。	(女、70歳以上、パート・アルバイト)
テーマパークや公園、コンサート等若い世代も充実して過ごせる魅力がある市まちづくりが必要。市外へ出で行くのではなく、逆に来てもらえるように。映画館一つない市は信じられない。	(女、60歳代、パート・アルバイト)

<p>大野市民とひとくくりと言っても、町なか・農村において生活も考えた方も異なります。私は50年以上農村に住んでいますが、昔ながらの風習もありとても近所付き合いが難しい時も多々あります。老若男女、個々一人一人が人を気使い理解しあう事が出来なければ安心して暮らせるまちづくりにつながらないのではないのでしょうか。物を動かすことも大事ですけど、人の心を動かす市民作りも大切だと思います。町なか・農村それぞれの生活状況に合う地域作りを考えるべきだと思います。町なかではよく空き家を再利用で観光を進めていて、とてもいい事だと思います。でも農村地帯では観光業はこれと言って目立ちません。町なかにはない自然豊かな資産・資源があるのに農村はおいてけぼり状態になるのではないかと不安です。人の心もだんだんすさんでいくのではないのでしょうか。</p>	(女、50歳代、主婦)
<p>2年前に転勤で引っ越してきました。わりと友達作りはうまく出来ていたのに、こちらでは知人を作るのが難しいように感じます。歩いている人が少なく、ウォーキングもしづらい。どうしても車を使うことが多いです。運動する場はあるようですが広報に載せるのが少なく、定員が埋まってしまいなかなか機会がありません。中部縦貫道の仕事で越してくる人もいると思うので、地元の人たちと交流する場があると嬉しいです。おすすめの場所・食べ物・お店など地元の情報がどこに行けばあるのか知ることが出来るのか。一軒家に住む方が多いので、集合住宅にすむ私には交流の機会がありません。小さい子どもがいないと交流の輪を広めるのは難しいです。平日昼間に出来るボランティアなどの情報があったら広報に載せていただくと助かります。</p>	(女、50歳代、主婦)
<p>人口減少が進む中でも、高齢者が働き若者も住み続ける事が出来るまちづくり。 企業を誘致して働ける場所を作る。 人材育成のための教育機関の設立（現存する企業の支援を含む）園芸学校、建設機械学校、行政学校等。</p>	(男、70歳以上、パート・アルバイト)
<p>地域の祭りや行事等を維持し守り育てていく事が地域に生活する人のつながりを強め地域の福祉も向上すると思う。</p>	(男、70歳以上、無職)
<p>大野市制当時は人口4万人あまりで、活気もありました。昨今の状況では人口も3万3千人と若者の力を得ることが出来ず、将来は高齢者ばかりになるのではと不安です。</p>	(女、70歳以上、無職)

※雇用促進等について

<p>一般就労で働くところが欲しい。安心して仕事がしたいです。（現在就労継続支援B型利用中）</p>	(女、60歳代、その他)
<p>市と市内企業の連携、市内就職者になしかしらの優遇。</p>	(女、30歳代、会社員)
<p>大野市は就職先や仕事の幅が狭く、給料が安い。今後結婚・子育て・その他の生活を考えると大野で生活できない。大野では車が無いと生活できないので、車の税金・ガソリン代等お金かかり生活が苦しいです。出来る事なら大野を出たい気持ちです。大野市で就職した人には支援金などのサポートをしてけると助かります。</p>	(男、19歳以下、会社員)

※行政に対して

<p>以前市役所の福祉員さんや調査員さんをお願いしたのに何の音沙汰もありませんでした。それでは困ります。</p>	(女、70歳以上、無職)
<p>問40（大野市の地域福祉施策で充実していると感じるもの）が該当する項目がありません。1～12の全てにおいてさらに取り組んで欲しい</p>	(女、70歳以上、無職)
<p>市長が変わり1年経過しますが、以前と変わらないように感じます。学校再編も1度ペンディングしたままでこれからのビジョンが見えません。早く市長から情報を発信して欲しい。</p>	(男、60歳代、パート・アルバイト)
<p>国・県の言いなりになってはいけません。子ども・親の身になって物事を考えてください。税金の使い道をもっと有効にしてください。</p>	(男、60歳代、無職)
<p>問40 大野市の地域福祉施策が一般市民には見えていない。市民は気軽に相談できる所を知らない。</p>	(女、70歳以上、主婦)
<p>退職後も市政に参画する事を忘れないで欲しい。（市職員に対する要望です。）</p>	(男、60歳代、無職)
<p>税金をもっと有効に使って欲しい。</p>	(女、50歳代、会社員)
<p>大野市に総合病院が出来て欲しい。学校の合併問題を進めて欲しい。</p>	(男、50歳代、自営業)

<ul style="list-style-type: none"> ・行政は縦割りをなくし役所を出て住民の中で意見を聞く。 ・市職員が率先して地域活動に参加する。 ・障害者の社会参加の場所を作る。 ・ボランティア活動に頼ることなく市民生活の向上をはかる。 ・身の丈に合った施設の建設を求めます。 ・10年毎の人口対策を作成し実践する。 ・住民との会合にはワントップで回答できる担当者を出席させる。 ・市職員のモラルの向上。何もしない、できない職員の出向をはかり、エリを正してスリム化・外注化をはかる。 ・下水、上水事業の見直し。気づいた時の計画変更。 ・公僕とはなにかを職員に考えさせ行動させる。 ・高齢者と障害者を区別した対応。障害者の分類対応。 	(男、70歳以上、その他)
<p>国道158号線の道路は今のままでしょうか？中部縦貫道が出来ても福井へはほとんどの人が158号線を使っています。一昨年の雪では30分で行けるところを2時間かかった記憶があります。せっかく出来上がってる道が途切れているように思います。何か考えがあるのでしょうか？</p> <p>3、4年前は公民館行事で高齢でも登れる山や、日帰りで名所旧跡がありました。負担金もありましたが結構たくさんの方が楽しんでいたように思います。高齢でも参加できる行事があればいいと思います。福祉とは関係ないことを書いてすいません。でも大野への人々の交流が多くなり色々なことを知って福祉にもつながると思います。</p>	(女、70歳以上、無職)
<p>六間通りの全面駐車禁止はいかがなものか。ますます中心地で買い物がしづらい。銀行へ行くのも不便です。七間通りは相変わらず石畳がそこいらで壊れてカラーコーンが立っていることが多い。老人が押し車を押して通れる道ではないと思う。</p>	(女、50歳代、パート・アルバイト)
<ul style="list-style-type: none"> ・税金を上げない。転出者が増える。 ・若者の転出を最小限にする。 ・在宅ワークのできる仕事。 ・空き家の管理。 	(女、40歳代、会社員)
<p>大野市を良くしようとする市民一人一人の意識の向上が大切である。恵まれた環境のある大野市独自の福祉行政のあり方を施策して欲しい。</p>	(男、60歳代、その他)
<p>公民館を中心とした諸講座は生きがいづくりに役立っていると思う。平日にも開催していただけると有難い。</p>	(男、70歳以上、自営業)
<p>野菜を作っており、たくさんとれた時などねんりんにもって行って販売しているのですが、一生懸命作っても安くて売上げが伸びないのが大変です。政府が農業をもっとしやすいようにするとういと思う。</p> <p>パートで仕事に出ているが、自分は人間関係が下手なのかうまくいかないことがあって辛いです。知人に相談していますが、自分が神経質なのか大変です。</p>	(女、60歳代、パート・アルバイト)
<p>市の広報等大野市に関するあらゆることは各家に直接郵送して欲しい。区長・班長等に委託されれば区民が配達することになり、高齢化している大野市であるのに大野市長はそう言う所を配慮するとうい。年老いていくのにこの配達は困難。市民の立場に立って考えて欲しい。</p>	(女、60歳代、自営業)
<p>「大野ってハザードマップってないんやろか？あったらいいのに・・・。」と言ってる人がいました。気になりネットで調べたらありました。その人は高齢でパソコンやネットが苦手な人でした。もし可能であればお年寄りだけで暮らす方や情報収集の苦手な方にも分かりやすい方法で公開していただけたらと思います。私は市民一人一人の意識や積極的な行動がとても重要だと思います。自分の出来る事、出来る範囲で地域を良くしていきたいと考えています。一市民ですが、大野市のより良い未来を願っています。</p>	(女、30歳代、パート・アルバイト)
<p>行政ですべてを変革や構築はできないと思います。自分の運命は自分で「自己管理」する。他力本願が一番危ないと思う。「イノベーション」「ノーマライゼーション」の時代と言われて久しいが、なかなか変化していない。事が起こって対処するのではなく、行政は弱者の要望を起点にさかのぼって対処しないと要望は満たせない。変化を恐れず、やり抜く決意や柔軟性を持つ人材を育成する事が大事だと思います。</p>	(男、70歳以上、会社員)

平成10年に他市から大野に引っ越しました。役所の人は最初は冷たくとても嫌でした。職員の事務的な対応や、職員同士●●ちゃんと平気で呼び合って嫌な所だと思っていました。(建て替える前です)それから12年後に私が2か月弱入院した時雪がひどく積もっていたが、近所の方も区長も民生委員の人も誰も雪かきしてくれなかった。それから近所付き合いはやめました。大野市には私のようなひとり暮らしで心細い毎日を送っている人が少なからずいると思います。もう少しひとり暮らしの人には温かい気持ちで訪問してもらえるとありがたいです。	(女、60歳代、パートアルバイト)
税金をもっと有効に使って欲しい。	(女、50歳代、会社員)
市長はお忙しいと思いますが、一度町内に顔を出していただいて、現在の市政の在り方など教えていただきたいと思っています。	(女、70歳以上、無職)
次世代の人達が(子ども)夢や希望をもって大野で生活していけるように市政がとりおこなわれるよう願っています。	(男、30歳代、公務員)
3年後には新幹線・中部縦貫道と発展し各地から観光客を呼び込む為に大野には何があるでしょうか。六呂師高原を何とかして欲しい。もっと子どもたちや家族が楽しめる施設を作ったらどうでしょうか。あの雄大な土地を何とか生かして欲しい。	(女、60歳代、主婦)
企業誘致して仕事場の確保。 人口減少の歯止めの為には県外への就職を最小限にする。	(男、60歳代、会社員)
市役所の担当職員が町や村に出向いて直接市民の声を聞く。市役所に意見箱を設置すると市民の声が聞けるのではないのでしょうか。	(女、60歳代、自営業)

※その他

大野市はよくやっているといます。	(男、60歳代、自営業)
アンケートが雑すぎる。もっと細かく、今が大事です。このアンケートは自分にはよくわからん。子どもからお年寄りまで合ったアンケートを出せ。	(男、70歳以上、無職)
現在住んでいる大野に不安がないこと。お金がないのに建物を建てる話がすぐに出てくる。10センチ以上雪が積もっても除雪すらできない大野市。学校再編も建物の話が無くなった進歩もなかなか聞かえない。町なかも若い人がいなくなる現実が不安。	(男、60歳代、自営業)
家族が勝山病院へ通院しています。バスのちょうどいい時間がなくて送迎しています。年を取って車が運転できなくなったら、自分はバスで通院するしかありません。大野市民もたくさん利用している病院なのになんて不便なんでしょう。もう少し本数が多くなるのでしょうか。 大野の人は働き者です。とある施設で展示を見ていたら掃除をしている女の人に「暇があつていいの。退職金たくさんもらってるんか？年とっても働かなあかんのや。」と言われました。その女の人の経済状況まで分かりませんが、興味を持って展示をみて心だけでも豊かにしようと思っているのに見方によっては暇そうに見えるんですね。このアンケートを答えていく中で、ふっとあの時の光景が浮かんできました。何を聞きたいアンケートなのか分からなくなってきました。難しい質問ばかりでした。 年を取った人より若いの方がボランティアしたいと思っています。災害が多くなってきて、テレビで活動している人を目にするからです。小さなボランティアでも経験すれば何かの役に立つと思います。どんなボランティアがあるのが広報に載せてください。気軽に参加してみたい。ボランティア当然無償に決まっています。	(女、60歳代、無職)
非通原性菌通の病気で約9年に入ります。その中には色々あり毎日が辛いです。口腔外科も行き名古屋の病院でこの病名を知りました。今は済生会で見てもらっています。頑張ります。	(女、70歳以上、主婦)
子育てがひと段落すると地域に目を向けられる時間もあるかと思いますが、仕事もしておりまだそれほど福祉に興味がありません。分からないことが多く、意見は特にありません。	(女、40歳代、自営業)
これからの10年20年大野はどうなるのか不安です。少子高齢化・人口減少、1.5人が1人の高齢者を支える時代がもうすぐです。	(男、60歳代、会社員)
正直今の世は利己主義が強いように思います。自分もみじめさを感じており、切実に考えないようにしている。	(男、70歳以上、無職)
今のところ健康に生活できています。	(女、60歳代、主婦)

大野大好きです。いつかは市内で働きたい。	(女、20歳代、会社員)
福祉というものが分かりません。母が受けている介護サービスぐらいです。もう少し理解できたらいいと思います。	(女、70歳以上、その他)
アンケートはいいが今後のことを行政は考えているのか疑問に思う。	(男、70歳以上、無職)
大野市に魅力を感じません。福井から嫁いできて、なんてお金がかかる場所なんだろうと思いました。保育料・住民税が高い。学校の授業にスキー教室があり、ウェア等買わなければいけない。 企業がないので働く場所がない。 交通の便が悪い。	(女、50歳代、会社員)
インターネットでの調査をお願いします。	(男、40歳代、会社員)
信頼される組織・体制作り・人材育成が必要です。プライバシーが侵害されると思うと気軽に相談できません。役所の方は当然守っていると思いますが、一般市民に協力してもらおう場合はそう言う所を徹底指導教育していただきたい。災害時等は個人情報と言ってもらえない場合もありますので、そのあたりも十分配慮した指導をしていただきたい。	(女、70歳以上、無職)
家の近くに空き家があります。早く壊して欲しいですが壊しません。その周りは夏になると草が伸びるので仕方なく草を刈ります。地区の方から何か言うことはできないのでしょうか。	(女、60歳代、無職)
大野市内で仕事をしていない為、夜のみ大野にいます。休日も土日ではないのでイベント等も参加できません。大野の福祉活動はよく分かりません。ただ勝山市と比べるとましかなと思います。	(女、50歳代、会社員)

第四次大野市地域福祉計画の策定経過

日 時	内 容
令和2年2月10日	第四次大野市地域福祉計画等策定委員会（第1回）
令和2年2月	アンケート調査実施
令和2年4月～	第四次大野市地域福祉計画素案の検討
令和2年5月28日	第四次大野市地域福祉計画等策定委員会（第2回）
令和2年6月～9月	第四次大野市地域福祉計画素案の作成、庁内調整
令和2年10月15日	第四次大野市地域福祉計画等策定委員会（第3回）
令和3年1月25日	市議会議員全員協議会説明
令和3年2月1日 ～15日	パブリックコメント
令和3年3月11日	第四次大野市地域福祉計画策定委員会（第4回）
令和3年3月22日	庁議

大野市地域福祉計画策定委員会設置要綱

(平成27年5月1日告示第117号)

(設置)

第1条 社会福祉法(昭和26年法律第45号)第107条の規定に基づき、大野市が定める大野市地域福祉計画(以下「地域福祉計画」という。)を策定するため、大野市地域福祉計画策定委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事項)

第2条 委員会の所掌事項は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 地域福祉計画の策定に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、地域福祉計画の策定に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員20人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者の中から、市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 関係機関又は団体の推薦を受けた者
- (3) 公募による者
- (4) 前3号に掲げるもののほか、市長が適当と認める者

3 委員の任期は、地域福祉計画の策定の日までとする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によりこれを定める。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が召集し、委員長がその議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。

(幹事会)

第6条 委員会の円滑な運営を図るため、委員会に幹事会を置くことができる。

2 幹事会に関し必要な事項は、市長が別に定める。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、民生環境部福祉こども課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成27年5月1日から施行する。

大野市地域福祉計画策定委員名簿

(敬称略)

委員職	委員名	所属団体等	要綱第3条 の区分	区分の項目
委員長	永井 裕子	福井県立大学 (看護福祉学部 社会福祉学科)	1号委員	学識経験者
副委員長	堀本 弘美	福井県奥越健康福祉センター (地域保健福祉課)	2号委員	保健医療関係機関
委員	田中 邦弘	大野市社会福祉協議会	2号委員	地域福祉関係団体
委員	羽生 三千代	大野市民生委員児童委員協議会	2号委員	地域福祉関係団体
委員	新井 基衛	大野市区長連合会	2号委員	地域福祉関係団体
委員	妙願 貴子	大野市連合ふわわ女性の会	2号委員	地域福祉関係団体
委員	清水 武正	大野地区社会福祉協議会	2号委員	地域福祉関係団体
委員	藤堂 朱実	ボランティア活動ネットワーク	2号委員	地域福祉関係団体
委員	山本 鐵夫	大野市老人クラブ連合会	2号委員	地域福祉関係団体
委員	木村 千春	フレディの会	2号委員	地域福祉関係団体
委員	松田 祐一	(一社) 大野市医師会	2号委員	保健医療関係団体
委員	佐野 周一	大野福祉施設連絡協議会	2号委員	福祉事業関係団体
委員	杉本 敏子	大野市介護保険運営協議会	4号委員	大野市介護保険運営協議会
委員	砂子 智美	大野市子ども・子育て会議	4号委員	大野市子ども・子育て会議
委員	福田 洋一郎	大野市障害者計画等策定委員会	4号委員	大野市障害者計画等策定委員会
委員	坪内 勝俊		3号委員	公募委員

